
前原中学校外壁改修工事

宮代町教育推進課

前原中学校外壁改修工事
宮代町立前原中学校

【 意 匠 図 】

通番号	図面番号	図 面 名 称	通番号	図面番号	図 面 名 称	通番号	図面番号	図 面 名 称	通番号	図面番号	図 面 名 称
		図面リスト									
	A	【建築改修工事】				E		【電気設備改修工事】	M		【機械設備改修工事】
	A-01	特記仕様書（改修その1）		A-28	屋上・塔屋屋上 建具ケーブラン		E-01	電気設備工事特記仕様書		M-01	機械設備工事特記仕様書（1）
	A-02	特記仕様書（改修その2）		A-29	建具表 1		E-02	案内図・配置図		M-02	機械設備工事特記仕様書（2）
	A-03	特記仕様書（改修その3）		A-30	建具表 2		E-03	電気設備 1・2階平面図		M-03	案内図・配置図
	A-04	特記仕様書（改修その4）		A-31	建具表 3		E-04	電気設備 3・4階平面図		M-04	機械設備 1・2階平面図
	A-05	特記仕様書（改修その5）		A-32	建具表 4		E-05	電気設備屋上・塔屋屋上平面図		M-05	機械設備 3・4階平面図
	A-06	特記仕様書（改修その6）		A-33	建具表 5		E-06	電気設備立面図		M-06	機械設備屋上・塔屋屋上平面図
	A-07	特記仕様書（改修その7）		A-34	1階・2階 平面図（雨水排水）					M-07	機械設備立面図
	A-08	特記仕様書（改修その8）		A-35	3階・4階 平面図（雨水排水）						
	A-09	特記仕様書（アスベスト撤去）参考図		A-36	屋上・塔屋屋上 平面図（雨水排水）						
	A-10	案内図・配置図									
	A-11	仮設計画図									
	A-12	外部仕上表									
	A-13	1階・2階 平面図									
	A-14	3階・4階 平面図									
	A-15	屋上・塔屋屋上 平面図									
	A-16	1階・2階 天井伏図									
	A-17	3階・4階 天井伏図									
	A-18	屋上・塔屋屋上 天井伏図									
	A-19	立面図 1									
	A-20	立面図 2									
	A-21	立面図（劣化調査位置図）									
	A-22	外壁等改修詳細図 1									
	A-23	外壁等改修詳細図 2									
	A-24	外壁等改修詳細図 3									
	A-25	外壁等改修詳細図 4									
	A-26	1階・2階 建具ケーブラン									
	A-27	3階・4階 建具ケーブラン									

前原中学校

前原中学校外壁改修工事

図面リスト

SCALE --

宮代町教育推進課

MA-00

6 改質アスファルトシート防水
7 合成高分子系ルーフィングシート防水
8 塗膜防水
屋内防水 防水層の種類
工法 種類 施工箇所 保護層 備考
高日射反射率防水の適用
改質アスファルトシートの種類及び厚さ
絶縁工法及び絶縁断熱工法の脱気装置の種類及び設置数量
新設防水層の種類
工法 種類 施工箇所 断熱材 仕上塗料 備考
高日射反射率防水の適用
改質アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ
絶縁工法及び絶縁断熱工法の脱気装置の種類及び設置数量
新設防水層の種類
工法 種類 施工箇所 断熱材 仕上塗料 備考
高日射反射率防水の適用
改質アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ
絶縁工法及び絶縁断熱工法の脱気装置の種類及び設置数量
新設防水層の種類
工法 種類 施工箇所 断熱材 仕上塗料 備考

9 シーリング
10 とい
11 アルミニウム製笠木
12 防水工事施工要
4-1 施工数量調査
4-2 ひび割れ部改修工法
4-3 タイル張り仕上げ外壁
4-4 ひび割れ部改修工法
4-5 コンクリート打放し仕上げ外壁
高日射反射率防水の適用
シーリング改修工法の種類
シーリング材の目付寸法
シーリング材の種類、施工箇所
仕上を行わない施工箇所
シーリング材の種類(記号)
仕上を行わない施工箇所
シーリング材の種類(記号)
仕上を行わない施工箇所
シーリング材の種類(記号)
仕上を行わない施工箇所
シーリング材の種類(記号)
仕上を行わない施工箇所
シーリング材の種類(記号)
仕上を行わない施工箇所
シーリング材の種類(記号)
仕上を行わない施工箇所

2 欠損部改修工法
3 ひび割れ部改修工法
4 欠損部改修工法
4-1 既存モルタル塗りの撤去
4-2 ひび割れ部改修工法
4-3 タイル張り仕上げ外壁
4-4 ひび割れ部改修工法
4-5 コンクリート打放し仕上げ外壁
4-6 欠損部改修工法
4-7 欠損部改修工法
4-8 欠損部改修工法
4-9 欠損部改修工法
4-10 欠損部改修工法
4-11 欠損部改修工法
4-12 欠損部改修工法
4-13 欠損部改修工法
4-14 欠損部改修工法
4-15 欠損部改修工法
4-16 欠損部改修工法
4-17 欠損部改修工法
4-18 欠損部改修工法
4-19 欠損部改修工法
4-20 欠損部改修工法

5 浮き部改修工法
6 目地改修工法
6-1 既存塗膜等の除去
6-2 目地改修工法
6-3 マスク塗料塗り
6-4 外壁用塗膜防水材塗り
6-5 外壁用塗膜防水材塗り
6-6 外壁用塗膜防水材塗り
6-7 外壁用塗膜防水材塗り
6-8 外壁用塗膜防水材塗り
6-9 外壁用塗膜防水材塗り
6-10 外壁用塗膜防水材塗り
6-11 外壁用塗膜防水材塗り
6-12 外壁用塗膜防水材塗り
6-13 外壁用塗膜防水材塗り
6-14 外壁用塗膜防水材塗り
6-15 外壁用塗膜防水材塗り
6-16 外壁用塗膜防水材塗り
6-17 外壁用塗膜防水材塗り
6-18 外壁用塗膜防水材塗り
6-19 外壁用塗膜防水材塗り
6-20 外壁用塗膜防水材塗り

5 建具改修工事	1 改修工法	<p>建具の種類 改修工法 除去工法 適用箇所 [5.1.3]</p> <p>712型建具 - - - 建具表による</p> <p>樹脂製建具 - - - 建具表による</p> <p>鋼製建具 ・外部 - - - 建具表による</p> <p>・内部 - - - 建具表による</p> <p>鋼製軽量建具 - - - 建具表による</p> <p>ステンレス製建具 - - - 建具表による</p> <p>木製建具 - - - 建具表による</p> <p>新規に建具を設ける場合 壁部分の開口の開け方 ※図示 新規建具周囲の補修工法及び範囲 ※図示 建具周囲のシーリングは、改修特記仕様書3章 防水改修工事による。</p>	10 ステンレス製建具	<p>性能値等 [5.2.2][5.4.2][5.6.2~5]</p> <p>簡易気密型ドアセット ・適用する(※建具表による) ・適用しない</p> <p>外部に面する建具の耐風圧性 耐風圧性の等級() (適用する建具 ※建具表による)</p> <p>防音ドア、防音サッシ ・遮音性の等級() (適用する建具 ※建具表による)</p> <p>断熱ドア、断熱サッシ [G] 断熱性の等級() (適用する建具 ※建具表による)</p> <p>耐震ドア 面内変形追随性の等級(・D-1:1/300 ・D-2:1/120 ・D-3:1/100) (適用する建具 ※建具表による)</p> <p>材料 ステンレス鋼板 ※SUS304、SUS430J1L、又はSUS443J1 ステンレス製のくつずりの仕上げ ※H L</p> <p>形状及び仕上げ 表面仕上げ ※H L ・鏡面仕上げ 工法 ステンレス鋼板の曲げ加工 ※普通曲げ ・角出し曲げ</p>	11 木製建具	<p>性能値等 [5.2.2~5][表5.2.1、2]</p> <p>耐風圧性の等級() (適用する建具 ※建具表による)</p> <p>気密性の等級() (適用する建具 ※建具表による)</p> <p>水密性の等級() (適用する建具 ※建具表による)</p> <p>外部に面する建具の種類別</p> <table border="1"> <tr> <th>種類</th> <th>耐風圧性</th> <th>気密性</th> <th>水密性</th> <th>施工箇所</th> </tr> <tr> <td>・A種</td> <td>S-4</td> <td>A-3</td> <td>W-4</td> <td>※図示による</td> </tr> <tr> <td>・B種</td> <td>S-5</td> <td>A-4</td> <td>W-5</td> <td>※図示による</td> </tr> <tr> <td>・C種</td> <td>S-6</td> <td>A-4</td> <td>W-5</td> <td>※図示による</td> </tr> </table> <p>防音ドア、防音サッシ 遮音性の等級() (適用する建具 ※建具表による)</p> <p>断熱ドア、断熱サッシ [G] 断熱性の等級() (適用する建具 ※建具表による)</p> <p>枠の見込み寸法 ※建具表による</p> <p>材料 ステンレス鋼板 ※SUS304、SUS430J1L、又はSUS443J1 ステンレス製のくつずりの仕上げ ※H L</p> <p>形状及び仕上げ 外部に面する建具 種類 ・BB-1種 ・BB-2種 着色 ・標準色 ・特注色</p> <p>屋内の建具 種類 ・BC-1種 ・BC-2種 着色 ・標準色 ・特注色</p> <p>結露水の処理方法 工法 水切り板、ぜん板等 ※図示</p>	種類	耐風圧性	気密性	水密性	施工箇所	・A種	S-4	A-3	W-4	※図示による	・B種	S-5	A-4	W-5	※図示による	・C種	S-6	A-4	W-5	※図示による	12 建具用金物	<p>性能値等 [5.2.2][5.4.2][表5.4.2]</p> <p>簡易気密型ドアセット ・適用する(※建具表による) ・適用しない</p> <p>外部に面する建具の耐風圧性 耐風圧性の等級() (適用する建具 ※建具表による)</p> <p>防音ドア、防音サッシ 遮音性の等級() (適用する建具 ※建具表による)</p> <p>断熱ドア、断熱サッシ [G] 断熱性の等級() (適用する建具 ※建具表による)</p> <p>耐震ドア 面内変形追随性の等級(・D-1:1/300 ・D-2:1/120 ・D-3:1/100) (適用する建具 ※建具表による)</p> <p>材料 ステンレス鋼板 ※SUS304、SUS430J1L、又はSUS443J1 ステンレス製のくつずりの仕上げ ※H L</p> <p>形状及び仕上げ 鋼板の厚さ 大型建具(1枚の戸の有効開口幅が950mm又は有効高さが2,400mmを超えるもの) 上記以外の鋼製建具 ※表5.4.2による ・建具表による 標準型鋼製建具の形式及び寸法 ※建具表による</p>	13 鍵	<p>性能値等 [5.2.2][5.4.2][表5.4.2]</p> <p>簡易気密型ドアセット ・適用する(※建具表による) ・適用しない</p> <p>外部に面する建具の耐風圧性 耐風圧性の等級() (適用する建具 ※建具表による)</p> <p>防音ドア、防音サッシ 遮音性の等級() (適用する建具 ※建具表による)</p> <p>断熱ドア、断熱サッシ [G] 断熱性の等級() (適用する建具 ※建具表による)</p> <p>耐震ドア 面内変形追随性の等級(・D-1:1/300 ・D-2:1/120 ・D-3:1/100) (適用する建具 ※建具表による)</p> <p>材料 鋼板 ・垂れめつき鋼板 ・Dニ被膜鋼板 ・お-鋼板 ・ステンレス鋼板 ステンレス鋼板 ※SUS304、SUS430J1L、又はSUS443J1 ステンレス製のくつずりの仕上げ ※H L</p> <p>形状及び仕上げ 鋼板の厚さ 大型建具(1枚の戸の有効開口幅が950mm又は有効高さが2,400mmを超えるもの) 上記以外の鋼製建具 ※表5.5.1による ・建具表による 標準型鋼製建具の形式及び寸法 ※建具表による</p>	14 自動ドア開閉装置	<p>性能値等 [5.2.2][5.4.2][表5.4.2]</p> <p>簡易気密型ドアセット ・適用する(※建具表による) ・適用しない</p> <p>外部に面する建具の耐風圧性 耐風圧性の等級() (適用する建具 ※建具表による)</p> <p>防音ドア、防音サッシ 遮音性の等級() (適用する建具 ※建具表による)</p> <p>断熱ドア、断熱サッシ [G] 断熱性の等級() (適用する建具 ※建具表による)</p> <p>耐震ドア 面内変形追随性の等級(・D-1:1/300 ・D-2:1/120 ・D-3:1/100) (適用する建具 ※建具表による)</p> <p>材料 鋼板 ・垂れめつき鋼板 ・Dニ被膜鋼板 ・お-鋼板 ・ステンレス鋼板 ステンレス鋼板 ※SUS304、SUS430J1L、又はSUS443J1 ステンレス製のくつずりの仕上げ ※H L</p> <p>形状及び仕上げ 鋼板の厚さ 大型建具(1枚の戸の有効開口幅が950mm又は有効高さが2,400mmを超えるもの) 上記以外の鋼製建具 ※表5.5.1による ・建具表による 標準型鋼製建具の形式及び寸法 ※建具表による</p>	15 自閉式上り引戸装置	<p>性能値等 [5.2.2][5.4.2][表5.4.2]</p> <p>簡易気密型ドアセット ・適用する(※建具表による) ・適用しない</p> <p>外部に面する建具の耐風圧性 耐風圧性の等級() (適用する建具 ※建具表による)</p> <p>防音ドア、防音サッシ 遮音性の等級() (適用する建具 ※建具表による)</p> <p>断熱ドア、断熱サッシ [G] 断熱性の等級() (適用する建具 ※建具表による)</p> <p>耐震ドア 面内変形追随性の等級(・D-1:1/300 ・D-2:1/120 ・D-3:1/100) (適用する建具 ※建具表による)</p> <p>材料 鋼板 ・垂れめつき鋼板 ・Dニ被膜鋼板 ・お-鋼板 ・ステンレス鋼板 ステンレス鋼板 ※SUS304、SUS430J1L、又はSUS443J1 ステンレス製のくつずりの仕上げ ※H L</p> <p>形状及び仕上げ 鋼板の厚さ 大型建具(1枚の戸の有効開口幅が950mm又は有効高さが2,400mmを超えるもの) 上記以外の鋼製建具 ※表5.5.1による ・建具表による 標準型鋼製建具の形式及び寸法 ※建具表による</p>	16 重量シャッター	<p>性能値等 [5.2.2][5.4.2][表5.4.2]</p> <p>簡易気密型ドアセット ・適用する(※建具表による) ・適用しない</p> <p>外部に面する建具の耐風圧性 耐風圧性の等級() (適用する建具 ※建具表による)</p> <p>防音ドア、防音サッシ 遮音性の等級() (適用する建具 ※建具表による)</p> <p>断熱ドア、断熱サッシ [G] 断熱性の等級() (適用する建具 ※建具表による)</p> <p>耐震ドア 面内変形追随性の等級(・D-1:1/300 ・D-2:1/120 ・D-3:1/100) (適用する建具 ※建具表による)</p> <p>材料 鋼板 ・垂れめつき鋼板 ・Dニ被膜鋼板 ・お-鋼板 ・ステンレス鋼板 ステンレス鋼板 ※SUS304、SUS430J1L、又はSUS443J1 ステンレス製のくつずりの仕上げ ※H L</p> <p>形状及び仕上げ 鋼板の厚さ 大型建具(1枚の戸の有効開口幅が950mm又は有効高さが2,400mmを超えるもの) 上記以外の鋼製建具 ※表5.5.1による ・建具表による 標準型鋼製建具の形式及び寸法 ※建具表による</p>	17 軽量シャッター	<p>管理用シャッターのシャッターケース ・設けない スラット及びシャッターケース用鋼板の材質 種類 ・JIS G 3302 (溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯) ・JIS G 3312 (塗装溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯)</p> <p>めっきの付着量 ※Z12又はF12 ガイドレール、まくさ、雨掛りに用いる座板及び座板のカバー、雨掛りに用いるスライダボックス類のみは材質 ステンレス鋼板 ※SUS304、SUS430J1L、又はSUS443J1</p> <p>開閉形式の種類 ・電動式(手動併用) ※手動式 [5.12.2~4]</p> <p>耐風圧強度() Pa 安全装置 電動シャッターの障害物感知装置(設置箇所 ・建具表による)</p> <p>スラットの材質の種類 ・JIS G 3312 (塗装溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯) めっき付着量 ※Z06又はF06 ・JIS G 3322 (塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板及び鋼帯) めっき付着量 ※A290</p> <p>スラットの形状 ・インナーロックギンギ形 ・オーバーラッピング形</p>	18 オーバーヘッドドア	<p>性能値等 [5.13.2、3]</p> <p>セクション材料による区分 風圧力による強さの区分(Pa) 開閉方式による区分 収納形式による区分 ガイドレールの材質</p> <p>※スチールタイプ ・125 ・アルミニウムタイプ ・100 ・ファイバーグラスタイプ 75 150</p> <p>※バランス式 ・スタンダード形 ・チェーン式 ・ローヘッド形 電動式 ・ハイリフト形 ・パーチャル形</p> <p>電動式オーバーヘッドドアの障害物感知装置(設置箇所 ・建具表による)</p> <p>適用は以下によるほか、ガラスの種類・厚さは建具表及び図面による。 ・フロート板ガラス フロート板ガラスの品種及び厚さの呼びによる種類 ・型板ガラス 型板ガラスの厚さによる種類 ※建具表による</p> <p>・網入板ガラス 網又は網の形状、板の表面の状態及び厚さの呼びによる種類 ※建具表による</p> <p>・合わせガラス 材料板ガラスの種類及び厚さの組合せ並びに合わせガラスの合計厚さ 形状による種類 ・平面合わせガラス・曲面合わせガラス 層数による種類 ・I類 ・II類 ・III類 ・I類 ・II類 ・III類</p> <p>・強化ガラス 形状による種類、材料板ガラスの種類による名称 破片の状態及びショットバック衝撃特性による種類 ・I類 ・III類</p> <p>・熱線吸収板ガラス 板ガラスの種類及び厚さによる種類 ※建具表による 性能による種類 ・1種 ・2種</p> <p>・複層ガラス 材料板ガラスの種類及び厚さの組合せ並びに複層ガラスの厚さ ※建具表による 断熱性による区分 ・T1 ・T2 ・T3 ・T4 ・T5 ・T6 日射取得性及び日射遮蔽性による区分 ・G ・S 気密性の種類 ・空気 ・アルゴン</p> <p>・熱線反射ガラス 材料板ガラスの種類及び厚さによる種類 ※建具表による 日射遮蔽性による区分 ・1種 ・2種 ・3種 耐久性による区分 (日射熱遮蔽率が2種の場合) ・A種 ・B種</p> <p>・倍強度ガラス 材料板ガラスの種類及び厚さによる種類 ※建具表による</p> <p>・ガラスの留め材及び溝の大きさ 建具の種類 ガラス留め材 ガラス溝の大きさ(mm) アルミニウム製 ・シーリング材 ※建具の製造所の仕様による ・グレイジングチャンネル ※図示による</p> <p>鋼製及び鋼製軽量 ・シーリング材 ※建具の製造所の仕様による ・図示による</p> <p>ステンレス製 ・シーリング材 ※建具の製造所の仕様による ・図示による</p> <p>樹脂製 ・グレイジングチャンネル ※建具の製造所の仕様による ・図示による</p>	19 ガラス	<p>性能値等 [5.14.2~4]</p> <p>適用は以下によるほか、ガラスの種類・厚さは建具表及び図面による。 ・フロート板ガラス フロート板ガラスの品種及び厚さの呼びによる種類 ・型板ガラス 型板ガラスの厚さによる種類 ※建具表による</p> <p>・網入板ガラス 網又は網の形状、板の表面の状態及び厚さの呼びによる種類 ※建具表による</p> <p>・合わせガラス 材料板ガラスの種類及び厚さの組合せ並びに合わせガラスの合計厚さ 形状による種類 ・平面合わせガラス・曲面合わせガラス 層数による種類 ・I類 ・II類 ・III類 ・I類 ・II類 ・III類</p> <p>・強化ガラス 形状による種類、材料板ガラスの種類による名称 破片の状態及びショットバック衝撃特性による種類 ・I類 ・III類</p> <p>・熱線吸収板ガラス 板ガラスの種類及び厚さによる種類 ※建具表による 性能による種類 ・1種 ・2種</p> <p>・複層ガラス 材料板ガラスの種類及び厚さの組合せ並びに複層ガラスの厚さ ※建具表による 断熱性による区分 ・T1 ・T2 ・T3 ・T4 ・T5 ・T6 日射取得性及び日射遮蔽性による区分 ・G ・S 気密性の種類 ・空気 ・アルゴン</p> <p>・熱線反射ガラス 材料板ガラスの種類及び厚さによる種類 ※建具表による 日射遮蔽性による区分 ・1種 ・2種 ・3種 耐久性による区分 (日射熱遮蔽率が2種の場合) ・A種 ・B種</p> <p>・倍強度ガラス 材料板ガラスの種類及び厚さによる種類 ※建具表による</p> <p>・ガラスの留め材及び溝の大きさ 建具の種類 ガラス留め材 ガラス溝の大きさ(mm) アルミニウム製 ・シーリング材 ※建具の製造所の仕様による ・グレイジングチャンネル ※図示による</p> <p>鋼製及び鋼製軽量 ・シーリング材 ※建具の製造所の仕様による ・図示による</p> <p>ステンレス製 ・シーリング材 ※建具の製造所の仕様による ・図示による</p> <p>樹脂製 ・グレイジングチャンネル ※建具の製造所の仕様による ・図示による</p>	20 ガラスブロック	<p>性能値等 [5.14.5]</p> <p>呼び寸法 (mm) 厚さ (mm) 色調 目地幅 (mm) 伸縮調整目地位置 (mm) 防火性能</p> <p>・160×160 ・95 ・200×200 ・95</p> <p>壁用金属枠及び補強材の材質及び形状 ※図示 方骨 材質 ※ステンレス鋼(SUS304) 寸法 ※5.5mm 形状 ※はしご形状複層及び単層 シーリングの種類 ・SR-1 ・PS-1 金属製化粧カバー 材質 ・ステンレス製 ・アルミニウム製 寸法 ※図示 形状 ※図示</p> <p>目地部の横力骨の納まり ※ガラスブロック製造所の仕様による ・図示</p> <p>工法 建築基準法に基づき定まる風圧力の(・1 ・1.15 ・1.3)倍の風圧力に対応した工法 ※施工箇所は建具表による</p>	21 ガラス用フィルム	<p>性能値等 [5.14.5]</p> <p>呼び寸法 (mm) 厚さ (mm) 色調 目地幅 (mm) 伸縮調整目地位置 (mm) 防火性能</p> <p>・160×160 ・95 ・200×200 ・95</p> <p>壁用金属枠及び補強材の材質及び形状 ※図示 方骨 材質 ※ステンレス鋼(SUS304) 寸法 ※5.5mm 形状 ※はしご形状複層及び単層 シーリングの種類 ・SR-1 ・PS-1 金属製化粧カバー 材質 ・ステンレス製 ・アルミニウム製 寸法 ※図示 形状 ※図示</p> <p>目地部の横力骨の納まり ※ガラスブロック製造所の仕様による ・図示</p> <p>工法 建築基準法に基づき定まる風圧力の(・1 ・1.15 ・1.3)倍の風圧力に対応した工法 ※施工箇所は建具表による</p>	22 ガラス用フィルム	<p>性能値等 [5.14.5]</p> <p>呼び寸法 (mm) 厚さ (mm) 色調 目地幅 (mm) 伸縮調整目地位置 (mm) 防火性能</p> <p>・160×160 ・95 ・200×200 ・95</p> <p>壁用金属枠及び補強材の材質及び形状 ※図示 方骨 材質 ※ステンレス鋼(SUS304) 寸法 ※5.5mm 形状 ※はしご形状複層及び単層 シーリングの種類 ・SR-1 ・PS-1 金属製化粧カバー 材質 ・ステンレス製 ・アルミニウム製 寸法 ※図示 形状 ※図示</p> <p>目地部の横力骨の納まり ※ガラスブロック製造所の仕様による ・図示</p> <p>工法 建築基準法に基づき定まる風圧力の(・1 ・1.15 ・1.3)倍の風圧力に対応した工法 ※施工箇所は建具表による</p>	6 内装改修工事	<p>改修範囲 [6.1.3]</p> <p>既存間仕切壁の撤去に伴う当該壁の取り合う天井、壁及び床の改修範囲 ※壁厚程度とし、既存仕上げに準じた仕上げを行う ・図示 天井内の既存壁の撤去に伴う当該壁の取合う天井の改修範囲 ※壁面より両側600mm程度とし、既存仕上げに準じた仕上げを行う ・図示 既存天井の撤去に伴う取合部の壁面の改修 ※既存のまま ・図示</p> <p>2 既存床の撤去及び下地補修 [6.2.2]</p> <p>ビニルシート等の除去 ※仕上げ材のみ(接着剤とも) ・下地モルタルとも(※図示の範囲 ・除去範囲全て) 合成樹脂塗床材の除去工法 ・機械的除去工法 ・目荒し工法 コンクリート又はモルタル面の下地処理に用いるポリマーセメントモルタル及びエポキシ樹脂モルタルは、「4章 外装改修工事」による。 改修後の床の清掃範囲 ※改修箇所の室内</p> <p>3 既存壁の撤去及び下地補修 [6.3.2]</p> <p>間仕切壁撤去に伴う他の構造体の補修 ※[4.3.10]によるモルタル塗り(塗り厚25mmを超える場合の処置 ※図示) ・図示</p> <p>4 施工一般 [6.5.2]</p> <p>材料のホルムアルデヒド放散量 ※F☆☆☆☆又は改修標準仕様書6.5.2(1)(b)による</p> <p>5 製材 [6.5.2]</p> <p>・JAS 1083-5 製材 - 第5部に基づく下地用製材</p> <table border="1"> <tr> <th>施工箇所</th> <th>寸法(mm)</th> <th>等級</th> <th>含水率</th> <th>保存処理</th> <th>間伐材等の適用</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>※2級</td> <td>※A種 ・ B種</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>※2級</td> <td>※A種 ・ B種</td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>・JAS 1083-2 製材 - 第2部に基づく造作用製材</p> <table border="1"> <tr> <th>施工箇所</th> <th>寸法(mm)</th> <th>等級</th> <th>含水率</th> <th>保存処理</th> <th>間伐材等の適用</th> </tr> <tr> <td>見え掛り面</td> <td></td> <td>※上小節</td> <td>※A種 ・ B種</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>見え掛り面以外</td> <td></td> <td>※小節以上</td> <td>※A種 ・ B種</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>※A種 ・ B種</td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>・JAS 1083-6 製材 - 第6部に基づく広葉樹製材</p> <table border="1"> <tr> <th>施工箇所</th> <th>寸法(mm)</th> <th>等級</th> <th>含水率</th> <th>保存処理</th> <th>間伐材等の適用</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>※1等</td> <td>※10%以下 ・A種 ・ B種</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>※1等</td> <td>※10%以下 ・A種 ・ B種</td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>・JAS 1083 (製材) 以外の製材</p> <table border="1"> <tr> <th>施工箇所</th> <th>寸法(mm)</th> <th>材面の品質</th> <th>含水率</th> <th>防虫処理の適用</th> <th>間伐材等の適用</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>(造作材の場合) ※A種 ・ B種</td> <td>※A種 ・ B種</td> <td>・する</td> <td>・しない</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>(造作材の場合) ※A種 ・ B種</td> <td>※A種 ・ B種</td> <td>・する</td> <td>・しない</td> </tr> </table> <p>・「集材材の日本農林規格」による造作用集材材 [6.5.2]</p> <table border="1"> <tr> <th>施工箇所</th> <th>品名</th> <th>樹種名</th> <th>見付け材面数</th> <th>寸法(mm)</th> <th>見付け材面の品質</th> <th>含水率</th> <th>防虫処理の適用</th> <th>間伐材等の適用</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>※1等 ・ 2等</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>※1等 ・ 2等</td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>・「集材材の日本農林規格」による化粧ばり造作用集材材</p> <table border="1"> <tr> <th>施工箇所</th> <th>品名</th> <th>化粧薄板の樹種名</th> <th>芯材の樹種名</th> <th>化粧薄板の厚さ(mm)</th> <th>見付け材面数</th> <th>寸法(mm)</th> <th>見付け材面の品質</th> <th>含水率</th> <th>防虫処理の適用</th> <th>間伐材等の適用</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>※1等 ・ 2等</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>※1等 ・ 2等</td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>・「集材材の日本農林規格」以外の造作用集材材</p> <table border="1"> <tr> <th>施工箇所</th> <th>樹種名</th> <th>寸法(mm)</th> <th>見付け材面の品質</th> <th>含水率</th> <th>防虫処理の適用</th> <th>間伐材等の適用</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>※15%以下</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>※15%以下</td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>・「集材材の日本農林規格」以外の化粧ばり造作用集材材</p> <table border="1"> <tr> <th>施工箇所</th> <th>化粧薄板の樹種</th> <th>芯材の樹種</th> <th>寸法(mm)</th> <th>化粧薄板の厚さ(mm)</th> <th>見付け材面の品質</th> <th>含水率</th> <th>防虫処理の適用</th> <th>間伐材等の適用</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>※15%以下</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>※15%以下</td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>・JAS 0701に基づく造作用単板積層材 [6.5.2]</p> <table border="1"> <tr> <th>施工箇所</th> <th>品名</th> <th>寸法(mm)</th> <th>表面の品質</th> <th>含水率</th> <th>防虫処理の適用</th> <th>間伐材等の適用</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>※14%以下</td> <td>・する</td> <td>・しない</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>※14%以下</td> <td>・する</td> <td>・しない</td> </tr> </table> <p>・JAS 3079に基づく直交集成板</p> <table border="1"> <tr> <th>施工箇所</th> <th>品名</th> <th>強度等級</th> <th>接着性能(使用環境)</th> <th>樹種</th> <th>寸法(mm)</th> <th>間伐材等の適用</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	施工箇所	寸法(mm)	等級	含水率	保存処理	間伐材等の適用			※2級	※A種 ・ B種					※2級	※A種 ・ B種			施工箇所	寸法(mm)	等級	含水率	保存処理	間伐材等の適用	見え掛り面		※上小節	※A種 ・ B種			見え掛り面以外		※小節以上	※A種 ・ B種						※A種 ・ B種			施工箇所	寸法(mm)	等級	含水率	保存処理	間伐材等の適用			※1等	※10%以下 ・A種 ・ B種					※1等	※10%以下 ・A種 ・ B種			施工箇所	寸法(mm)	材面の品質	含水率	防虫処理の適用	間伐材等の適用			(造作材の場合) ※A種 ・ B種	※A種 ・ B種	・する	・しない			(造作材の場合) ※A種 ・ B種	※A種 ・ B種	・する	・しない	施工箇所	品名	樹種名	見付け材面数	寸法(mm)	見付け材面の品質	含水率	防虫処理の適用	間伐材等の適用							※1等 ・ 2等									※1等 ・ 2等			施工箇所	品名	化粧薄板の樹種名	芯材の樹種名	化粧薄板の厚さ(mm)	見付け材面数	寸法(mm)	見付け材面の品質	含水率	防虫処理の適用	間伐材等の適用									※1等 ・ 2等											※1等 ・ 2等			施工箇所	樹種名	寸法(mm)	見付け材面の品質	含水率	防虫処理の適用	間伐材等の適用					※15%以下							※15%以下			施工箇所	化粧薄板の樹種	芯材の樹種	寸法(mm)	化粧薄板の厚さ(mm)	見付け材面の品質	含水率	防虫処理の適用	間伐材等の適用							※15%以下									※15%以下			施工箇所	品名	寸法(mm)	表面の品質	含水率	防虫処理の適用	間伐材等の適用					※14%以下	・する	・しない					※14%以下	・する	・しない	施工箇所	品名	強度等級	接着性能(使用環境)	樹種	寸法(mm)	間伐材等の適用								前原中学校
	種類	耐風圧性	気密性	水密性	施工箇所																																																																																																																																																																																																																																																																											
	・A種	S-4	A-3	W-4	※図示による																																																																																																																																																																																																																																																																											
	・B種	S-5	A-4	W-5	※図示による																																																																																																																																																																																																																																																																											
	・C種	S-6	A-4	W-5	※図示による																																																																																																																																																																																																																																																																											
	施工箇所	寸法(mm)	等級	含水率	保存処理	間伐材等の適用																																																																																																																																																																																																																																																																										
			※2級	※A種 ・ B種																																																																																																																																																																																																																																																																												
			※2級	※A種 ・ B種																																																																																																																																																																																																																																																																												
	施工箇所	寸法(mm)	等級	含水率	保存処理	間伐材等の適用																																																																																																																																																																																																																																																																										
	見え掛り面		※上小節	※A種 ・ B種																																																																																																																																																																																																																																																																												
見え掛り面以外		※小節以上	※A種 ・ B種																																																																																																																																																																																																																																																																													
			※A種 ・ B種																																																																																																																																																																																																																																																																													
施工箇所	寸法(mm)	等級	含水率	保存処理	間伐材等の適用																																																																																																																																																																																																																																																																											
		※1等	※10%以下 ・A種 ・ B種																																																																																																																																																																																																																																																																													
		※1等	※10%以下 ・A種 ・ B種																																																																																																																																																																																																																																																																													
施工箇所	寸法(mm)	材面の品質	含水率	防虫処理の適用	間伐材等の適用																																																																																																																																																																																																																																																																											
		(造作材の場合) ※A種 ・ B種	※A種 ・ B種	・する	・しない																																																																																																																																																																																																																																																																											
		(造作材の場合) ※A種 ・ B種	※A種 ・ B種	・する	・しない																																																																																																																																																																																																																																																																											
施工箇所	品名	樹種名	見付け材面数	寸法(mm)	見付け材面の品質	含水率	防虫処理の適用	間伐材等の適用																																																																																																																																																																																																																																																																								
						※1等 ・ 2等																																																																																																																																																																																																																																																																										
						※1等 ・ 2等																																																																																																																																																																																																																																																																										
施工箇所	品名	化粧薄板の樹種名	芯材の樹種名	化粧薄板の厚さ(mm)	見付け材面数	寸法(mm)	見付け材面の品質	含水率	防虫処理の適用	間伐材等の適用																																																																																																																																																																																																																																																																						
								※1等 ・ 2等																																																																																																																																																																																																																																																																								
								※1等 ・ 2等																																																																																																																																																																																																																																																																								
施工箇所	樹種名	寸法(mm)	見付け材面の品質	含水率	防虫処理の適用	間伐材等の適用																																																																																																																																																																																																																																																																										
				※15%以下																																																																																																																																																																																																																																																																												
				※15%以下																																																																																																																																																																																																																																																																												
施工箇所	化粧薄板の樹種	芯材の樹種	寸法(mm)	化粧薄板の厚さ(mm)	見付け材面の品質	含水率	防虫処理の適用	間伐材等の適用																																																																																																																																																																																																																																																																								
						※15%以下																																																																																																																																																																																																																																																																										
						※15%以下																																																																																																																																																																																																																																																																										
施工箇所	品名	寸法(mm)	表面の品質	含水率	防虫処理の適用	間伐材等の適用																																																																																																																																																																																																																																																																										
				※14%以下	・する	・しない																																																																																																																																																																																																																																																																										
				※14%以下	・する	・しない																																																																																																																																																																																																																																																																										
施工箇所	品名	強度等級	接着性能(使用環境)	樹種	寸法(mm)	間伐材等の適用																																																																																																																																																																																																																																																																										
前原中学校外壁改修工事		特記仕様書(改修その3)		SCALE --		宮代町教育推進課		MA-03																																																																																																																																																																																																																																																																								

8 合板等	・「合板の日本農林規格」による普通合板 [6.5.2] 施工箇所 厚さ(mm) 単板の樹種名 接合の程度 板面の品質 防虫処理 間伐材等の適用				
	※5.5		※1類・2類	※2等以上・1等針葉樹 ※C-D以上	・適用する ・適用しない
	・「合板の日本農林規格」による構造用合板 [6.5.2] 施工箇所 等級 単板の樹種名 接合の程度 板面の品質 厚さ(mm) 防虫処理 強度等級 間伐材等の適用				
	※2級以上・1級		※1類・特類	※C-D以上	※12
	・「合板の日本農林規格」による化粧張り構造用合板 [6.5.2] 施工箇所 厚さ(mm) 単板の樹種名 接合の程度 防虫処理 間伐材等の適用				
					・特類 ・1類
	・「合板の日本農林規格」による天然木化粧合板 [6.5.2] 施工箇所 化粧板に使用する単板の樹種名 厚さ(mm) 接合の程度 防虫処理の適用				
					・1類 ・2類
	・「合板の日本農林規格」による特殊加工化粧合板 [6.5.2] 施工箇所 厚さ(mm) 接合の程度 単板の樹種名 化粧加工の方法 防虫処理の適用				
					・1類 ・2類
	・パーティクルボード [6.5.2] 施工箇所 表裏面の状態による区分 曲げ強さによる区分 耐水性による区分 難燃性による区分 厚さ(mm)				
			※13タイプ	※P又はM	※15
	・JAS 0360に基づく構造用パネル 施工箇所 寸法(mm)				
	・MDF [6.5.2] 施工箇所 厚さ(mm) 表裏面の状態による区分 曲げ強さによる区分 接合剤による区分 難燃性による区分				
9 接合具等	造作材の化粧面の釘打ち ※隠し釘打ち ・釘頭埋め木 ・つぶし頭釘打ち ・釘頭現し 諸金物 ※かすがい、座金、箱金物、短冊金物 (改修標準仕様書表6.5.3~5に示す程度の市販品 表8.20.1のF種程度) ・形状: 寸法: 材質:				
10 接着剤	接着剤のホルムアルデヒドの放散量 ※F☆☆☆☆ [6.5.3.4]				
11 防虫・防蟻処理	・薬剤の加圧注入による防虫・防蟻処理 [6.5.5] 適用部位: K2・K3・K4				
	・薬剤の塗布等による防虫・防蟻処理 適用部位: 薬剤の種類				
					※JIS K 15711に適合又は同等品
12 内部間仕切軸組及び床組み	間仕切軸組に用いる木材の樹種名(製材を用いる場合) [6.5.6] ※杉又は松				
	床組に用いる木材の樹種名(製材を用いる場合) ※杉又は松				
13 窓、出入口その他	窓、出入口その他に用いる木材の樹種名(製材を用いる場合) [6.5.7] ※杉又は松				
14 軽量鉄骨天井下地	野縁等の種類 屋外(※25形・19形) 屋内(※19形・25形) [6.6.2~4] 野縁の形式及び寸法 野縁受、吊りボルト及びインサートの間隔 図示 野縁の端からの間隔 図示 野縁の間隔 図示 既存の埋込みインサート 使用する ○使用しない 既設工アーカーの施工後の確認試験 行う 試験箇所数 ※屋内の場合、当該階において3箇所 ()箇所 引張試験にて確認する強度 ※つりボルト受け等の間隔が900mm程度以下かつ天井面積構成部材等の単位面積あたりの質量が20kg/m ² 以内の天井の場合は400mm程度 ・行わない ・吊りボルトの間隔が900mmを超える場合の補強方法 ※図示 ・天井のふところ部分が3.0mを超える場合の補強方法 ※図示 ・天井下地材における耐震性を考慮した補強 補強箇所 ※図示				

15 軽量鉄骨壁下地	スタッド、ランナーの種類 [6.7.3.4]表[6.7.1] ※表6.7.1により「スタッドの高さによる区分」に応じた種類 図示 スタッドの高さが5mを超える場合 ※図示 出入口及びこれに準じる開口部の補強 ※[6.7.4](5)による				
16 ビニル床シート [6.8.2.3]	種類(記号) 色柄 厚さ(mm) 備考 ※FS(複層ビニル床シート) ※2.0 ○KS ※3.5 ○FS ※3.5 接合部の処理 ※熱溶接工法				
17 ビニル床タイル [6.8.2]	種類(記号) 色柄 寸法(mm) 厚さ(mm) 備考 ※KT(コネクティングビニル床タイル) ※2.0 ・TT(単層ビニル床タイル) ※2.0 ・FT(複層ビニル床タイル) ※2.0 ・FOA(置敷きビニル床タイル) ※4.0 ・FOB(薄型置敷きビニル床タイル)				
18 特殊機能床材 [6.8.2]	・帯電防止床シート 性能() 厚さ(mm) () ・帯電防止床タイル 性能() 寸法(mm) (×) 厚さ(mm) () ・視覚障害者用床タイル 視覚障害者誘導用ブロック等の突起の形状・寸法及びその配列はJIS T 9251による。 ・防汚性床シート 性能() 厚さ(mm) () ・防汚性床タイル 性能() 厚さ(mm) ()				
19 ビニル幅木 [6.8.2]	材質の種類 ・軟質 ・硬質 ・床シート巻上げ(端部の処理は図示による) 高さ(mm) ※60・75・100 厚さ(mm) ※1.5以上				
20 ゴム床タイル [6.8.2]	種類 ・単層品 ・積層品 色柄 () 厚さ(mm) 3.0・4.5・6.0・9.0 寸法(mm) () × ()				
21 カーペット敷き [6.9.2.3]表[6.9.1]	・織じゅうたん 織り方 バイル形状 ・ウィルトンカーペット ・カットバイル ・ダブルフェースカーペット ・ループバイル ・アキスミンスターカーペット ・カット/ループバイル 色柄 ※模様のない無地 バイル糸の繊維種等 ※無地の織りじゅうたんの種別(・A種 ・B種 ・C種) 帯電性 ※適用する ・適用しない 織じゅうたんの接合方法 ※ヒートボンド工法 ・つづり縫い 下敷き材 ※反毛フェルト(JIS L 3204)の第2種2号 呼び厚さ 8mm ・タフテッドカーペット バイル形状 バイル長さ(mm) 工法 帯電性 備考 ・カットバイル ・5~7 ・全面接着工法 ・適用する ・ループバイル ・4~6 ・ケリハ工法 ・適用しない ・カット、ループ併用				
22 合成樹脂塗床 [6.10.2.3]	下敷き材(グリッター工法の場合) ※反毛フェルト(JIS L 3204)の第2種2号 呼び厚さ 8mm タフテッドカーペット用接着剤のホルムアルデヒド放散量 ※F☆☆☆☆ ・タイルカーペット バイル形状 種別 施工箇所 寸法 総厚さ(mm) 備考 ※ループバイル ※第一種 ※500×500 ※6.5 ※第二種 ・カットバイル ・第一種 ※500×500 ※6.5 ・第二種 ・カット、ループ併用 ・第一種 ※500×500 ※6.5 ・第二種				
	タイルカーペットの敷き方 平場 ※市松敷き ・模様流し 階段部分 ※模様流し ・市松敷き 見切り、押え金物 種類() 形状等(※図示) 材質()				
23 フローリング張り [6.11.2~6]	フローリングのホルムアルデヒドの放散量等 [6.11.2~6] ※改修標準仕様書6.11.2.(2)による 各工法に使用する接着剤のホルムアルデヒドの放散量 ※F☆☆☆☆ 単層フローリング(フローリングボード1等) 工法 釘止め工法(・根太張り・直張り) ・接着工法 種類 ※なら 間伐材等の適用 ・する ・しない 単層フローリング(フローリングブロック1等) 種類 厚さ(mm) 寸法(mm) 間伐材等の適用 ・する ・しない 複合フローリング 工法 ・釘止め工法(・根太張り・直張り) ・接着工法 種類 ※なら 種類 ・A種 ・B種 ・C種 間伐材等の適用 ・する ・しない 接着工法の場合の不燃被覆材 ※合成樹脂塗床シート ・現場塗装仕上げ ※フロン樹脂ワニス塗り ・オイルステンの上、ワックス塗り ・生地のままワックス塗り				

24 畳敷き [6.12.2]	種別 ・A種 ・B種 ・C種 ・D種 (畳床: ・KT-I ・KT-II ・KT-III ・KT-K ・KT-N) 下地の種類 ・標準仕様書 表12.6.11による床組 ・ポリスチレンフォーム床下地(ノンフロン)				
25 セッコウボード その他のボード張り [6.13.2.3]	畳表及び畳床はホルムアルデヒド、アセトアルデヒド及びスチレンを発生しないか、 発散量が極めて少ない材料を使用したものとする。 衝撃緩和型畳(畳表: ・G1 ・G2) MDF及びパーティクルボードのホルムアルデヒド放散量 ※F☆☆☆☆ 合板のホルムアルデヒド放散量 ※改修標準仕様書6.13.2.2(4)の(a)~(d)のいずれか 接着剤のホルムアルデヒド放散量 ※F☆☆☆☆ 木モセメント板 [6.13.2.3] 種類 厚さ(mm)、規格等 ・硬質(HF) ・15 ・20 ・25 ・中質(MF) ・15 ・20 ・25 ・普通(NF) ・15 ・20 ・25 木片セメント板 [6.13.2.3] 種類 厚さ(mm)、規格等 ・硬質(HF) ・12 ・15 ・18 ・21 ・普通(NF) ・30 繊維強化セメント板 種類 厚さ(mm)、規格等 ・けい酸カルシウム板 普通ボード0.8FKタイプ2(無石棉) ・6 ・8 ・けい酸カルシウム板 普通ボード0.8FKタイプ2(無石棉) ・6 ・8 表面への化粧張り等の加工 ・アクリル樹脂系接着剤 火山性ガラス質複層板 種類 厚さ(mm)、規格等 ・火山性ガラス質複層板 図示による 繊維板 [6.13.2.3] 種類 厚さ(mm)、規格等 ハードボード ・素地ハードボード(未研磨板(RN)・研磨板(RS)) ・内装用化粧ハードボード(D1) 厚さ・2.5・3.5・5・7 ハードボード(処理) ・素地ハードボード(未研磨板(RN)・研磨板(RS)) ・内装用化粧ハードボード(D2) 厚さ・2.5・3.5・5・7 ・ミディアムデンシティ ・ファイバーボード(MDF) [6.13.2.3] ・インシュレーションボード [6.13.2.3] A級(・天井仕上げ ・内装仕上げ) ・9 ・12 ・15 ・18 パーティクルボード [6.13.2.3] 種類 厚さ(mm)、規格等 ・単板張りパーティクルボード ・無研磨板(VN) ・研磨板(VS) ・12 ・15 ・18 ・化粧パーティクルボード ・単板ハードボード(DV) ・75mm厚ハードボード(DO) ・塗装(DC) ・10(難燃) ・12(難燃)				
	吸音材料 種類 厚さ(mm)、規格等 ・ロックウール化粧吸音板(DR) ・フラットタイプ ・9(不燃) ・12(不燃) ・凹凸タイプ ・12(不燃) ・15(不燃) ・ロックウール吸音ボード1号 ・グラスウール吸音ボード32K ・25(ガラスクロス包) セッコウボード製品 種類 厚さ(mm)、規格等 ・セッコウボード(GB-R) ・12.5(不燃) ・15(不燃) ・不燃積層セッコウボード(GB-NC) 9.5(不燃) ・化粧無(下地張り用) ・化粧有(トラバーチン模様) ・シーリングセッコウボード(GB-S) 12.5(※不燃・準不燃) ・強化セッコウボード(GB-F) ・12.5(不燃) ・15(不燃) ・セッコウボード(GB-L) 9.5 ・化粧セッコウボード(GB-D) ・木目12.5(不燃) 幅 440mm 程度 模様(・柱目・板目) 専用下地材有り ・15mm幅模様 9.5(準不燃) 合板 [6.13.2.3] 種類 厚さ(mm)、規格等 ・普通合板 表面の樹種 厚さ(mm) ※図示による 生地・透明塗料塗り(※ラワン合板程度) 板面の品質 厚さ(mm) ※図示による 防虫処理 行う ・行わない ・天然木化粧合板 化粧板の樹種名 厚さ(mm) ※図示による 防虫処理 行う ・行わない ・特殊加工化粧合板 化粧加工の方法 ・オナーレイ・アブリット・塗装 表面性能 (タイプ) 厚さ(mm) ※図示による 防虫処理 行う ・行わない 化粧板 ・メラミン樹脂化粧板 JIS K 6903 による (※1.2) ・ポリエステル樹脂化粧板 天井のボード類(ロックウール吸音板を除く)の重ね張りを行う場合 ※図示による 合板類の張付け ・A種 ・B種 セッコウボードの目地工法等 目地工法の種類 ※仕上表による 突付け工法及び目隠し工法のエッジの種類 突付け工法のエッジの種類 ・ベベルエッジ ・スクエアエッジ 目隠し工法のエッジの種類 ・ベベルエッジ ・スクエアエッジ 化粧加工の方法(・オーバーレイ ・プリント ・塗装)				
26 壁紙張り [6.14.2.3]	壁紙のホルムアルデヒド放散量 ※F☆☆☆☆ 施工箇所 紙 織物 壁紙 [6.14.2.3] 無機質 その他 防火種別 備考 ・不燃・準不燃・難燃 ・不燃・準不燃・難燃 ・不燃・準不燃・難燃 ・不燃・準不燃・難燃 モルタル及びセッコウプラスター面の素地ごしらえの種類 ※B種 ・A種 コンクリート面の素地ごしらえの種類 ※B種 ・A種 セッコウボード面及びその他のボード面の素地ごしらえの種類 ※B種 ・A種				

27 モルタル塗り [6.15.3.5.6]	・現場調合材料 ・既調合材料 [6.15.3.5.6] 既製目地材 図示 床目地 図示 ・目地割り ※2m程度(最大目地間隔3m程度) ・目地目地 ※押し目地 ・図示しない 壁面の仕上げ厚又は全塗り厚が25mmを超える場合の目地処理 ※図示による 伸縮調整目地の位置 [6.16.2~4] 床タイル (※縦、横とも4m以内ごと 図示) 床タイル以外 (図示) 伸縮調整目地のシーリング材、目地法は改訂仕様書第3章による 試験張り 行う(縮留、仕様等は図示による) 行わない 見本張り 行う(施工箇所) 行わない ・セメントモルタルによるタイル(セラミックタイル)張り タイルの形状・寸法等 施工箇所 種類 形状/寸法(再生材料の) 厚さ(mm) 色 耐凍害性 耐汚性 備考 標準的な曲がりの役物は一体成形とする 既調合モルタル モルタル下地としたタイル工事に使用する張付け用モルタルとして、セメント、 細骨材、混和剤等を予め工場において所定の割合に配合した材料とする。 現場調合目地材 壁タイル張りの工法 内装タイル ・密着張り ・改良圧着張り 内装タイル以外のユニットタイル ・マスク張り ・モザイクタイル張り ・有機系接着剤によるタイル(セラミックタイル)張り タイルの形状・寸法等 施工箇所 種類 形状/寸法(再生材料の) 厚さ(mm) 色 耐凍害性 耐汚性 備考 標準的な曲がりの役物は一体成形とする 内装タイル接着剤張りの接着剤のホルムアルデヒド放散量 ※F☆☆☆☆ 29 セルフレベリング材 塗り [6.17.2.3] 20 フリーアクセス フロア (20.2.2) 施工箇所 構造 寸法(mm) 高さ(mm) 耐震性能 所定荷重 表面仕上げ材 備考 ・置敷式 ・支柱 ・調整式 ・500×500 ・1.0G ・0.6G ・3,000 ・5,000 ・帯電防止床タイル ・タイル ・調整式 ・支柱 ・調整式 ・500×500 ・1.0G ・0.6G ・3,000 ・5,000 ・帯電防止床タイル ・タイル ・調整式 フリーアクセスフロアの試験方法 ※標準仕様書20.2.2(2)(4)(a)~(d)による 寸法精度 ※標準仕様書20.2.2(2)(4)(a)~(c)による ・以下による ・パネルの長さの寸法精度() ・パネルの平面形状(角度)の寸法精度() フリーアクセスフロアの高さの寸法精度() 帯電防止性能 ・評価値(U) ≥0.6以上 ・評価値(U) ≥1.2以上 感電防止性能 漏えい抵抗(R) ≥1×10 ⁶ Ω 31 可動間仕切 (20.2.3) 構造形式 構成基材の種類 パネル表面仕上げ 遮音性(dB/500Hz) 防火性能 ・スライド式(内蔵) ・スライド式(露出) ・パネル式 ・スタッドパネル ・メラミン樹脂焼付又は ・アクリル樹脂焼付 ・壁紙張り ・0 ・12 ・20 ・28 ・36 パネル内に取付ける建具・あり(※図示) ・なし パネル内に取付ける建具のドアクローザ、丁番、錠前、上げ落しは、標準仕様書19章 8節の建具用金物に対応する材質とする。 表面仕上げ材を壁紙張りとする場合の品質、性能は標準仕様書19章による。 32 移動間仕切 (20.2.4) 構造形式 操作方法 圧接装置の操作方法 総厚さ(mm) パネル表面材 遮音性(dB/500Hz) ・平行方向移動式 ・手動式 ・ハンド式 ・鋼板 ・焼付塗装 ・36未満 ・二方向移動式 ・電動式 ・ハンド式 ・鋼板 ・焼付塗装 ・36以上 ・部分電動式 パネル表面仕上げの壁紙張りの品質、性能は、標準仕様書19章による。 遮音性能は、JIS A 6512に準拠し、中心周波数500Hzの音についての透過損失とする。 ハンガーレールの取付け下地の補強 ※取付け全重量の5倍以上の荷重に対して、使用上支障のない耐力及び変形量と なるように補強する。 ・図示 パネルをランナーに取り付ける部品 ※ランナーに加わる重量の5倍以上の荷重に耐えられるもの ハンガーレール及びランナー ※パネル重量の5倍の荷重を、パネル1枚に使用するランナー数で除した値に 対して、耐力及び変形量で使用上支障のないもの 33 トイレブース (20.2.5) パネル材料のホルムアルデヒド放散量 ※F☆☆☆☆ 表面材の種類 脚部種類 ドアエッジの材質 ドアエッジの形状 ・メラミン樹脂化粧板 ※幅木タイプ ※製造所の構造仕様 ・標準 ・ポリエステル樹脂化粧板 ・アルミニウム製 ・Rタイプ ・ステンレス製 ・表面材と同材 34 手すり (20.2.6) 材料の種類及び仕上げ ※SUS304 表面処理 ※HL程度 ・鋼製 表面処理 滑り止めつき(※標準仕様書 表14.2.2による種別(種)) ・アルミニウム 表面処理(※標準仕様書 表14.2.1による種別(種)) ・色合等 ・標準色 ・特注色 手すりの握り部分 材種 表面仕上げ 直径(mm) 取付箇所 備考 ・集成材(材種:) ・リブ加工 ・30程度・35程度・45程度 ・ビル製ハードレール ・30程度・35程度・45程度 ・樹脂製硬質PVC ・34φ				
------------------------	---	--	--	--	--

35 階段滑り止め
36 黒板及びホワイトボード
37 表示
38 タラップ
39 ブラインド
40 ロールスクリーン
41 カーテン
42 カーテンレール
43 ブラインドボックス及びカーテンボックス
44 天井点検口
45 床点検口
46 くつふきマット
47 流し台ユニット
48 鋼製架及び物品棚

49 屋内掲示板
50 洗面カウンター
51 防煙垂れ壁
52 収納家具
7 塗装改修工事
7-1 材料
7-2 下地調整
7-3 素地ごしらえ
7-4 錆止め塗料塗り
7-5 塗装
7-6 遮断材

8 耐震改修工事
9 環境配慮改修工事
9-1 石綿粉じん濃度測定
9-2 石綿含有付付材の除去
9-3 石綿含有保温材等の除去
9-4 石綿含有成形板の除去
9-5 石綿含有建築用仕上塗材の除去
9-6 PCB含有シーリング材処分
9-7 外断熱改修工事

8 断熱・防露改修工事
9 屋上緑化改修工事
10 透水性アスファルト舗装改修工事
11 舗装版切断時に発生する濁水の処理

前原中学校

10 鉄筋工事	1 鉄筋	鉄筋の種類 (5.2.1) 種類 種類 呼び径 (mm) 備考 SD295 ※D16以下 SD345 ※D19以上	11 コンクリート工事	1 コンクリートの種類等 (6.2.1) 種類 ※I類 (JIS A 5308 への適合を認証されたコンクリート) ※II類 (JIS A 5308 に適合したコンクリート) 普通コンクリート (6.2.1~6.2.4) 設計基準強度 (N/mm ²) 乾燥単位容積 (t/m ³) スラブ 適用箇所 構造体強度補正値 (S) 補正値 S=3 (月日~月日、月日~月日) S=6 (月日~月日、月日~月日)	11 寒中コンクリート (6.11.1, 2) 適用期間 (月日~月日) 構造体強度補正値 (S) を積算温度を基に定める場合 - 図示による ()、S=()	12 暑中コンクリート (6.12.2) 適用期間 (月日~月日) 構造体強度補正値 (S) ※GN/mm ² - 図示による ()、S=()	13 マスコンクリート (6.13.1, 2) 適用箇所 - 図示による () セメントの種類 - 普通ポルトランドセメント - 中熱ポルトランドセメント - 低熱ポルトランドセメント - 高炉セメントB種 - ファイアッシュセメントB種 - シリカセメント - あり (標準仕様書6.13.2(2)(7)による) 標準仕様書6.13.2(2)(9)による	14 無筋コンクリート (6.14.1) コンクリートの種類 ※普通コンクリート セメントの種類 ※普通ポルトランドセメント、高炉セメントA種、シリカセメントA種又は ファイアッシュセメントA種 - 高炉セメントB種 - ファイアッシュセメントB種 設計基準強度 ※18 (N/mm ²) スラブ ※15cm又は18cm 適用箇所 ※標準仕様書6.14.1(4)による箇所 - 図示による ()	15 コンクリートの単位水量測定 (6.14.1) 実施要領 (1) 単位水量の測定は、150m ³ に1回以上及び荷下し時に品質の異常が認められた時に実施する。 (2) 単位水量の上限値は、標準仕様書6.3.2(4)(c)による。 (3) 単位水量の管理目標値は次の通りとして、施工する。 1) 測定した単位水量が、計画適合率の設計値(以下「設計値」という。)±15kg/m ³ の範囲にある場合はそのまま施工する。 2) 測定した単位水量が、設計値±15を超過し20kg/m ³ の範囲にある場合は、水量変動の原因を調査するとともに生コン製造者に改善を指示し、その運搬車の生コンは打設する。その後、設計値±15kg/m ³ 以内で安定するまで、運搬車の3台毎に1回、単位水量の測定を行う。 3) 設計値±20kg/m ³ を超過する場合は、生コンを打設せずに持ち帰らせ、水量変動の原因を調査するとともに生コン製造者に改善を指示しなければならない。その後の全運搬車の測定を行い設計値±20kg/m ³ 以内であることを確認する。更に、設計値±15kg以内で安定するまで、運搬車の3台毎に1回、単位水量の測定を行う。 (4) 単位水量管理についての記録を計画適合率(計画適合率、製造管理記録、打込み時の外気温、コンクリート温度等)と写真により提出する。 (5) 単位水量の測定方法は、高周波誘電率測定法(電子レンジ法)、TFA法又は静電容量測定法による。また、試験機関は該当コンクリート製造所以外の機関とする。			
	2 溶接金網	形状等 (5.2.2) 種類 種類 網目の形状、寸法、鉄線の径 (mm) 使用部位 溶接金網 鉄筋金網		2 セメント (6.3.1) 種類 ※普通ポルトランドセメント、高炉セメントA種、シリカセメントA種又は ファイアッシュセメントA種 適用箇所 (※下記以外全て) 普通ポルトランドセメントの品質は、JIS R 5210 に示された規定の他、水和熱が7日目で 352 J/g以下、かつ28日目で 402 J/g以下のものとする。 - 高炉セメントB種 - ファイアッシュセメントB種 適用箇所 (IFより下部 (立上り部含む))	12 暑中コンクリート (6.12.2) 適用期間 (月日~月日) 構造体強度補正値 (S) ※GN/mm ² - 図示による ()、S=()					13 マスコンクリート (6.13.1, 2) 適用箇所 - 図示による () セメントの種類 - 普通ポルトランドセメント - 中熱ポルトランドセメント - 低熱ポルトランドセメント - 高炉セメントB種 - ファイアッシュセメントB種 - シリカセメント - あり (標準仕様書6.13.2(2)(7)による) 標準仕様書6.13.2(2)(9)による	14 無筋コンクリート (6.14.1) コンクリートの種類 ※普通コンクリート セメントの種類 ※普通ポルトランドセメント、高炉セメントA種、シリカセメントA種又は ファイアッシュセメントA種 - 高炉セメントB種 - ファイアッシュセメントB種 設計基準強度 ※18 (N/mm ²) スラブ ※15cm又は18cm 適用箇所 ※標準仕様書6.14.1(4)による箇所 - 図示による ()	15 コンクリートの単位水量測定 (6.14.1) 実施要領 (1) 単位水量の測定は、150m ³ に1回以上及び荷下し時に品質の異常が認められた時に実施する。 (2) 単位水量の上限値は、標準仕様書6.3.2(4)(c)による。 (3) 単位水量の管理目標値は次の通りとして、施工する。 1) 測定した単位水量が、計画適合率の設計値(以下「設計値」という。)±15kg/m ³ の範囲にある場合はそのまま施工する。 2) 測定した単位水量が、設計値±15を超過し20kg/m ³ の範囲にある場合は、水量変動の原因を調査するとともに生コン製造者に改善を指示し、その運搬車の生コンは打設する。その後、設計値±15kg/m ³ 以内で安定するまで、運搬車の3台毎に1回、単位水量の測定を行う。 3) 設計値±20kg/m ³ を超過する場合は、生コンを打設せずに持ち帰らせ、水量変動の原因を調査するとともに生コン製造者に改善を指示しなければならない。その後の全運搬車の測定を行い設計値±20kg/m ³ 以内であることを確認する。更に、設計値±15kg以内で安定するまで、運搬車の3台毎に1回、単位水量の測定を行う。 (4) 単位水量管理についての記録を計画適合率(計画適合率、製造管理記録、打込み時の外気温、コンクリート温度等)と写真により提出する。 (5) 単位水量の測定方法は、高周波誘電率測定法(電子レンジ法)、TFA法又は静電容量測定法による。また、試験機関は該当コンクリート製造所以外の機関とする。
	3 鉄筋の継手	鉄筋の継手方法等 (5.3.4) 部位 継手方法 呼び径 (mm) 柱、梁の主筋 - ガス圧接 - 機械式継手 ※D19以上 耐力壁の鉄筋 - 重ね継手 基礎、前スラブ、土圧壁 - 重ね継手 - ガス圧接 その他の鉄筋 () - 重ね継手		3 骨材 (6.3.1) アルカリシリカ反応性による区分 ※A・B (コンクリート中のアルカリ総量が 3.0 kg/m ³ 以下)	12 暑中コンクリート (6.12.2) 適用期間 (月日~月日) 構造体強度補正値 (S) ※GN/mm ² - 図示による ()、S=()					13 マスコンクリート (6.13.1, 2) 適用箇所 - 図示による () セメントの種類 - 普通ポルトランドセメント - 中熱ポルトランドセメント - 低熱ポルトランドセメント - 高炉セメントB種 - ファイアッシュセメントB種 - シリカセメント - あり (標準仕様書6.13.2(2)(7)による) 標準仕様書6.13.2(2)(9)による	14 無筋コンクリート (6.14.1) コンクリートの種類 ※普通コンクリート セメントの種類 ※普通ポルトランドセメント、高炉セメントA種、シリカセメントA種又は ファイアッシュセメントA種 - 高炉セメントB種 - ファイアッシュセメントB種 設計基準強度 ※18 (N/mm ²) スラブ ※15cm又は18cm 適用箇所 ※標準仕様書6.14.1(4)による箇所 - 図示による ()	15 コンクリートの単位水量測定 (6.14.1) 実施要領 (1) 単位水量の測定は、150m ³ に1回以上及び荷下し時に品質の異常が認められた時に実施する。 (2) 単位水量の上限値は、標準仕様書6.3.2(4)(c)による。 (3) 単位水量の管理目標値は次の通りとして、施工する。 1) 測定した単位水量が、計画適合率の設計値(以下「設計値」という。)±15kg/m ³ の範囲にある場合はそのまま施工する。 2) 測定した単位水量が、設計値±15を超過し20kg/m ³ の範囲にある場合は、水量変動の原因を調査するとともに生コン製造者に改善を指示し、その運搬車の生コンは打設する。その後、設計値±15kg/m ³ 以内で安定するまで、運搬車の3台毎に1回、単位水量の測定を行う。 3) 設計値±20kg/m ³ を超過する場合は、生コンを打設せずに持ち帰らせ、水量変動の原因を調査するとともに生コン製造者に改善を指示しなければならない。その後の全運搬車の測定を行い設計値±20kg/m ³ 以内であることを確認する。更に、設計値±15kg以内で安定するまで、運搬車の3台毎に1回、単位水量の測定を行う。 (4) 単位水量管理についての記録を計画適合率(計画適合率、製造管理記録、打込み時の外気温、コンクリート温度等)と写真により提出する。 (5) 単位水量の測定方法は、高周波誘電率測定法(電子レンジ法)、TFA法又は静電容量測定法による。また、試験機関は該当コンクリート製造所以外の機関とする。
	4 鉄筋の定着	鉄筋の定着長さ (5.3.4) - 図示による () 機械式定着工法 適用箇所 - 図示による () 種類 - 摩擦圧接 - 螺合グラウト固定 - 嵌合グラウト固定 工法 ※第三者機関の評定等取得している工法とする 必要定着長さ ※評定等の評価内容による 補強筋形状 ※評定等の評価内容による かぶり厚さ ※評定等の評価内容による 品質確認 ※評定等の評価内容による 検査 ※評定等の評価内容による		4 混和材料 (6.3.1) - 混和剤 - 混和剤の種類 ※標準仕様書6.3.1(4)(a)による - 混和材の種類 ※標準仕様書6.3.1(4)(b)による	12 暑中コンクリート (6.12.2) 適用期間 (月日~月日) 構造体強度補正値 (S) ※GN/mm ² - 図示による ()、S=()					13 マスコンクリート (6.13.1, 2) 適用箇所 - 図示による () セメントの種類 - 普通ポルトランドセメント - 中熱ポルトランドセメント - 低熱ポルトランドセメント - 高炉セメントB種 - ファイアッシュセメントB種 - シリカセメント - あり (標準仕様書6.13.2(2)(7)による) 標準仕様書6.13.2(2)(9)による	14 無筋コンクリート (6.14.1) コンクリートの種類 ※普通コンクリート セメントの種類 ※普通ポルトランドセメント、高炉セメントA種、シリカセメントA種又は ファイアッシュセメントA種 - 高炉セメントB種 - ファイアッシュセメントB種 設計基準強度 ※18 (N/mm ²) スラブ ※15cm又は18cm 適用箇所 ※標準仕様書6.14.1(4)による箇所 - 図示による ()	15 コンクリートの単位水量測定 (6.14.1) 実施要領 (1) 単位水量の測定は、150m ³ に1回以上及び荷下し時に品質の異常が認められた時に実施する。 (2) 単位水量の上限値は、標準仕様書6.3.2(4)(c)による。 (3) 単位水量の管理目標値は次の通りとして、施工する。 1) 測定した単位水量が、計画適合率の設計値(以下「設計値」という。)±15kg/m ³ の範囲にある場合はそのまま施工する。 2) 測定した単位水量が、設計値±15を超過し20kg/m ³ の範囲にある場合は、水量変動の原因を調査するとともに生コン製造者に改善を指示し、その運搬車の生コンは打設する。その後、設計値±15kg/m ³ 以内で安定するまで、運搬車の3台毎に1回、単位水量の測定を行う。 3) 設計値±20kg/m ³ を超過する場合は、生コンを打設せずに持ち帰らせ、水量変動の原因を調査するとともに生コン製造者に改善を指示しなければならない。その後の全運搬車の測定を行い設計値±20kg/m ³ 以内であることを確認する。更に、設計値±15kg以内で安定するまで、運搬車の3台毎に1回、単位水量の測定を行う。 (4) 単位水量管理についての記録を計画適合率(計画適合率、製造管理記録、打込み時の外気温、コンクリート温度等)と写真により提出する。 (5) 単位水量の測定方法は、高周波誘電率測定法(電子レンジ法)、TFA法又は静電容量測定法による。また、試験機関は該当コンクリート製造所以外の機関とする。
	5 鉄筋のかぶり厚さ及び間隔(溶接金網含む)	(5.3.5) 最小かぶり厚さ (目地底から算出を行う) ※図示による (構造関係共通図(配筋標準図)4(1)表4.1) - 図示による () 柱及び梁の主筋にD29以上の使用 - あり 適用箇所 主筋のかぶり厚さを径の1.5倍以上確保する 耐久性上不利な部分(塩害等を受けるおそれのある部分等) - あり 適用箇所 () - 最小かぶり厚さは加える厚さ ()mm		5 打継ぎの位置、ひび割れ誘発目地、打継ぎ目地 (6.6.4) 打継ぎの位置 梁及びスラブ ※スパンの中央又は端から1/4の付近 - 図示による () 柱及び壁 ※スラブ、壁梁又は基礎の上端 - 図示による () 目地の寸法 - 標準仕様書 9.7.3(1)(7)による ※ひび割れ誘発目地、打継ぎ目地の深さ寸法は、躯体外側の打増し部で処理する - 図示による ()	12 暑中コンクリート (6.12.2) 適用期間 (月日~月日) 構造体強度補正値 (S) ※GN/mm ² - 図示による ()、S=()					13 マスコンクリート (6.13.1, 2) 適用箇所 - 図示による () セメントの種類 - 普通ポルトランドセメント - 中熱ポルトランドセメント - 低熱ポルトランドセメント - 高炉セメントB種 - ファイアッシュセメントB種 - シリカセメント - あり (標準仕様書6.13.2(2)(7)による) 標準仕様書6.13.2(2)(9)による	14 無筋コンクリート (6.14.1) コンクリートの種類 ※普通コンクリート セメントの種類 ※普通ポルトランドセメント、高炉セメントA種、シリカセメントA種又は ファイアッシュセメントA種 - 高炉セメントB種 - ファイアッシュセメントB種 設計基準強度 ※18 (N/mm ²) スラブ ※15cm又は18cm 適用箇所 ※標準仕様書6.14.1(4)による箇所 - 図示による ()	15 コンクリートの単位水量測定 (6.14.1) 実施要領 (1) 単位水量の測定は、150m ³ に1回以上及び荷下し時に品質の異常が認められた時に実施する。 (2) 単位水量の上限値は、標準仕様書6.3.2(4)(c)による。 (3) 単位水量の管理目標値は次の通りとして、施工する。 1) 測定した単位水量が、計画適合率の設計値(以下「設計値」という。)±15kg/m ³ の範囲にある場合はそのまま施工する。 2) 測定した単位水量が、設計値±15を超過し20kg/m ³ の範囲にある場合は、水量変動の原因を調査するとともに生コン製造者に改善を指示し、その運搬車の生コンは打設する。その後、設計値±15kg/m ³ 以内で安定するまで、運搬車の3台毎に1回、単位水量の測定を行う。 3) 設計値±20kg/m ³ を超過する場合は、生コンを打設せずに持ち帰らせ、水量変動の原因を調査するとともに生コン製造者に改善を指示しなければならない。その後の全運搬車の測定を行い設計値±20kg/m ³ 以内であることを確認する。更に、設計値±15kg以内で安定するまで、運搬車の3台毎に1回、単位水量の測定を行う。 (4) 単位水量管理についての記録を計画適合率(計画適合率、製造管理記録、打込み時の外気温、コンクリート温度等)と写真により提出する。 (5) 単位水量の測定方法は、高周波誘電率測定法(電子レンジ法)、TFA法又は静電容量測定法による。また、試験機関は該当コンクリート製造所以外の機関とする。
	6 各部配筋	(5.3.7) ※図示による ()		6 湿潤養生 (6.7.2) 湿潤養生の期間 - セメントの種類が普通エコセメントの場合 () 日	12 暑中コンクリート (6.12.2) 適用期間 (月日~月日) 構造体強度補正値 (S) ※GN/mm ² - 図示による ()、S=()					13 マスコンクリート (6.13.1, 2) 適用箇所 - 図示による () セメントの種類 - 普通ポルトランドセメント - 中熱ポルトランドセメント - 低熱ポルトランドセメント - 高炉セメントB種 - ファイアッシュセメントB種 - シリカセメント - あり (標準仕様書6.13.2(2)(7)による) 標準仕様書6.13.2(2)(9)による	14 無筋コンクリート (6.14.1) コンクリートの種類 ※普通コンクリート セメントの種類 ※普通ポルトランドセメント、高炉セメントA種、シリカセメントA種又は ファイアッシュセメントA種 - 高炉セメントB種 - ファイアッシュセメントB種 設計基準強度 ※18 (N/mm ²) スラブ ※15cm又は18cm 適用箇所 ※標準仕様書6.14.1(4)による箇所 - 図示による ()	15 コンクリートの単位水量測定 (6.14.1) 実施要領 (1) 単位水量の測定は、150m ³ に1回以上及び荷下し時に品質の異常が認められた時に実施する。 (2) 単位水量の上限値は、標準仕様書6.3.2(4)(c)による。 (3) 単位水量の管理目標値は次の通りとして、施工する。 1) 測定した単位水量が、計画適合率の設計値(以下「設計値」という。)±15kg/m ³ の範囲にある場合はそのまま施工する。 2) 測定した単位水量が、設計値±15を超過し20kg/m ³ の範囲にある場合は、水量変動の原因を調査するとともに生コン製造者に改善を指示し、その運搬車の生コンは打設する。その後、設計値±15kg/m ³ 以内で安定するまで、運搬車の3台毎に1回、単位水量の測定を行う。 3) 設計値±20kg/m ³ を超過する場合は、生コンを打設せずに持ち帰らせ、水量変動の原因を調査するとともに生コン製造者に改善を指示しなければならない。その後の全運搬車の測定を行い設計値±20kg/m ³ 以内であることを確認する。更に、設計値±15kg以内で安定するまで、運搬車の3台毎に1回、単位水量の測定を行う。 (4) 単位水量管理についての記録を計画適合率(計画適合率、製造管理記録、打込み時の外気温、コンクリート温度等)と写真により提出する。 (5) 単位水量の測定方法は、高周波誘電率測定法(電子レンジ法)、TFA法又は静電容量測定法による。また、試験機関は該当コンクリート製造所以外の機関とする。
	7 ガス圧接	(5.4.10) 圧接完了後の圧接部の試験 外観試験 - 図示による () 抜取試験 ※図示による () ※図示による () 引張試験 試験方法 ※標準仕様書5.4.10(4)(b)による		7 コンクリートの仕上り (6.2.5)(6.8.2) 合板せき板を用いるコンクリートの打放し仕上げ 種類 - A種 ※図示による () - B種 ※図示による () - C種 ※図示による () コンクリートの仕上りの平たんさ 種類 - a種 ※図示による () - b種 ※図示による () - c種 ※図示による ()	12 暑中コンクリート (6.12.2) 適用期間 (月日~月日) 構造体強度補正値 (S) ※GN/mm ² - 図示による ()、S=()					13 マスコンクリート (6.13.1, 2) 適用箇所 - 図示による () セメントの種類 - 普通ポルトランドセメント - 中熱ポルトランドセメント - 低熱ポルトランドセメント - 高炉セメントB種 - ファイアッシュセメントB種 - シリカセメント - あり (標準仕様書6.13.2(2)(7)による) 標準仕様書6.13.2(2)(9)による	14 無筋コンクリート (6.14.1) コンクリートの種類 ※普通コンクリート セメントの種類 ※普通ポルトランドセメント、高炉セメントA種、シリカセメントA種又は ファイアッシュセメントA種 - 高炉セメントB種 - ファイアッシュセメントB種 設計基準強度 ※18 (N/mm ²) スラブ ※15cm又は18cm 適用箇所 ※標準仕様書6.14.1(4)による箇所 - 図示による ()	15 コンクリートの単位水量測定 (6.14.1) 実施要領 (1) 単位水量の測定は、150m ³ に1回以上及び荷下し時に品質の異常が認められた時に実施する。 (2) 単位水量の上限値は、標準仕様書6.3.2(4)(c)による。 (3) 単位水量の管理目標値は次の通りとして、施工する。 1) 測定した単位水量が、計画適合率の設計値(以下「設計値」という。)±15kg/m ³ の範囲にある場合はそのまま施工する。 2) 測定した単位水量が、設計値±15を超過し20kg/m ³ の範囲にある場合は、水量変動の原因を調査するとともに生コン製造者に改善を指示し、その運搬車の生コンは打設する。その後、設計値±15kg/m ³ 以内で安定するまで、運搬車の3台毎に1回、単位水量の測定を行う。 3) 設計値±20kg/m ³ を超過する場合は、生コンを打設せずに持ち帰らせ、水量変動の原因を調査するとともに生コン製造者に改善を指示しなければならない。その後の全運搬車の測定を行い設計値±20kg/m ³ 以内であることを確認する。更に、設計値±15kg以内で安定するまで、運搬車の3台毎に1回、単位水量の測定を行う。 (4) 単位水量管理についての記録を計画適合率(計画適合率、製造管理記録、打込み時の外気温、コンクリート温度等)と写真により提出する。 (5) 単位水量の測定方法は、高周波誘電率測定法(電子レンジ法)、TFA法又は静電容量測定法による。また、試験機関は該当コンクリート製造所以外の機関とする。
	8 機械式継手	(5.5.3, 5) 適用箇所 - 図示による () H12告示第1403号に適合する性能 - A級 種類 - ねじ式鉄筋継手 - 充填方式 - 無機グラウト方式 - 端部ねじ加工継手 - 手動充填式継手 工法 ※第三者機関の評定等取得している工法 鉄筋相互のあき ※評定等の評価内容による 品質の確認 ※評定等の評価内容による 検査 ※評定等の評価内容による 施工完了後の継手部の試験 - 外観試験 ※全数 試験対象 試験項目 - 評定等の評価内容による 試験方法 - 評定等の評価内容による - 超音波測定試験 試験対象 - 抜取り - ロット - 1組の作業班が1日に行った継手箇所、最大200箇所程度とする 試験の箇所数 - 1ロットに対して () 箇所 - 全数 試験項目 ※挿入長さ 試験方法 ※JIS Z 3064 (鉄筋コンクリート用機械式継手の鉄筋挿入長さの超音波測定方法及び判定基準) による 不合格となった場合の措置		8 打増し厚さ(打放し仕上げ部) (6.8.1) 打増し厚さ - 打放し仕上げの打増し厚さ(外部に面する部分に限る) - 20mm - 打放し仕上げの打増し厚さ(内部に面する部分に限る) - 10mm - 20mm - 外装タイル後張り面の打増し処理 - 20mm 打増し範囲 - 図示による ()	12 暑中コンクリート (6.12.2) 適用期間 (月日~月日) 構造体強度補正値 (S) ※GN/mm ² - 図示による ()、S=()					13 マスコンクリート (6.13.1, 2) 適用箇所 - 図示による () セメントの種類 - 普通ポルトランドセメント - 中熱ポルトランドセメント - 低熱ポルトランドセメント - 高炉セメントB種 - ファイアッシュセメントB種 - シリカセメント - あり (標準仕様書6.13.2(2)(7)による) 標準仕様書6.13.2(2)(9)による	14 無筋コンクリート (6.14.1) コンクリートの種類 ※普通コンクリート セメントの種類 ※普通ポルトランドセメント、高炉セメントA種、シリカセメントA種又は ファイアッシュセメントA種 - 高炉セメントB種 - ファイアッシュセメントB種 設計基準強度 ※18 (N/mm ²) スラブ ※15cm又は18cm 適用箇所 ※標準仕様書6.14.1(4)による箇所 - 図示による ()	15 コンクリートの単位水量測定 (6.14.1) 実施要領 (1) 単位水量の測定は、150m ³ に1回以上及び荷下し時に品質の異常が認められた時に実施する。 (2) 単位水量の上限値は、標準仕様書6.3.2(4)(c)による。 (3) 単位水量の管理目標値は次の通りとして、施工する。 1) 測定した単位水量が、計画適合率の設計値(以下「設計値」という。)±15kg/m ³ の範囲にある場合はそのまま施工する。 2) 測定した単位水量が、設計値±15を超過し20kg/m ³ の範囲にある場合は、水量変動の原因を調査するとともに生コン製造者に改善を指示し、その運搬車の生コンは打設する。その後、設計値±15kg/m ³ 以内で安定するまで、運搬車の3台毎に1回、単位水量の測定を行う。 3) 設計値±20kg/m ³ を超過する場合は、生コンを打設せずに持ち帰らせ、水量変動の原因を調査するとともに生コン製造者に改善を指示しなければならない。その後の全運搬車の測定を行い設計値±20kg/m ³ 以内であることを確認する。更に、設計値±15kg以内で安定するまで、運搬車の3台毎に1回、単位水量の測定を行う。 (4) 単位水量管理についての記録を計画適合率(計画適合率、製造管理記録、打込み時の外気温、コンクリート温度等)と写真により提出する。 (5) 単位水量の測定方法は、高周波誘電率測定法(電子レンジ法)、TFA法又は静電容量測定法による。また、試験機関は該当コンクリート製造所以外の機関とする。
	9 溶接継手	(5.5.3, 5) 適用箇所 - 図示による () H12告示第1403号に適合する性能 - A級 溶接継手の工法 - 図示による () 鉄筋相互のあき - 標準仕様書5.3.5(4)による - 評定等の評価内容による - 図示による ()		9 型枠 (6.8.2) せき板の材料及び厚さ - 合板 (※12mm) () コンクリート打設時の充填性の確認のため、型枠の一部に透明型枠を使用する場合は、強度、変形等について、事前に監督員と協議する。 - 断熱材を使用した型枠の使用 適用箇所 - 図示による () - MCR工法用シートの使用 適用箇所 - 図示による () 打増し厚さ - 20mm 打増し範囲 - 図示による () スリーブの材質・規格等 - 図示による () 設置期間及び取外し ※標準仕様書6.8.4による - 普通エコセメントの場合 (※図示による ())	12 暑中コンクリート (6.12.2) 適用期間 (月日~月日) 構造体強度補正値 (S) ※GN/mm ² - 図示による ()、S=()					13 マスコンクリート (6.13.1, 2) 適用箇所 - 図示による () セメントの種類 - 普通ポルトランドセメント - 中熱ポルトランドセメント - 低熱ポルトランドセメント - 高炉セメントB種 - ファイアッシュセメントB種 - シリカセメント - あり (標準仕様書6.13.2(2)(7)による) 標準仕様書6.13.2(2)(9)による	14 無筋コンクリート (6.14.1) コンクリートの種類 ※普通コンクリート セメントの種類 ※普通ポルトランドセメント、高炉セメントA種、シリカセメントA種又は ファイアッシュセメントA種 - 高炉セメントB種 - ファイアッシュセメントB種 設計基準強度 ※18 (N/mm ²) スラブ ※15cm又は18cm 適用箇所 ※標準仕様書6.14.1(4)による箇所 - 図示による ()	15 コンクリートの単位水量測定 (6.14.1) 実施要領 (1) 単位水量の測定は、150m ³ に1回以上及び荷下し時に品質の異常が認められた時に実施する。 (2) 単位水量の上限値は、標準仕様書6.3.2(4)(c)による。 (3) 単位水量の管理目標値は次の通りとして、施工する。 1) 測定した単位水量が、計画適合率の設計値(以下「設計値」という。)±15kg/m ³ の範囲にある場合はそのまま施工する。 2) 測定した単位水量が、設計値±15を超過し20kg/m ³ の範囲にある場合は、水量変動の原因を調査するとともに生コン製造者に改善を指示し、その運搬車の生コンは打設する。その後、設計値±15kg/m ³ 以内で安定するまで、運搬車の3台毎に1回、単位水量の測定を行う。 3) 設計値±20kg/m ³ を超過する場合は、生コンを打設せずに持ち帰らせ、水量変動の原因を調査するとともに生コン製造者に改善を指示しなければならない。その後の全運搬車の測定を行い設計値±20kg/m ³ 以内であることを確認する。更に、設計値±15kg以内で安定するまで、運搬車の3台毎に1回、単位水量の測定を行う。 (4) 単位水量管理についての記録を計画適合率(計画適合率、製造管理記録、打込み時の外気温、コンクリート温度等)と写真により提出する。 (5) 単位水量の測定方法は、高周波誘電率測定法(電子レンジ法)、TFA法又は静電容量測定法による。また、試験機関は該当コンクリート製造所以外の機関とする。

8 耐震改修工事

(一般事項)
1 適用範囲
・改修標準仕様書 第8章 耐震改修工事
・改修標準仕様書における第8章耐震改修工事以外の改修工事で第8章を引用している部分

2 既存部分の処理等
既存構造体の撤去
撤去範囲
・図示による()
・はつり出した鉄筋及び鉄骨の位置
・図示による()

3 撤去工事の施工内容
※耐震壁等の増設に伴い、これらの増設部材が設置される構内既存仕上げ・躯体の撤去と土間等の一部を撤去する。
※増設部材と接する既存コンクリート面は十分に目荒らしを行う。
※塗り仕上げ又はこれに準ずる仕上げ材、及び躯体を撤去する場合は、カッターで切込みを付けてから撤去する。なお、躯体を撤去する場合は、両面からカッター切込みを付けてから撤去する。
※撤去に際しては、廃棄物の処理に関する法律に準拠する。

4 撤去工事における注意事項
※コンクリート及び塗り仕上げを部分的に撤去する場合は、既存部分の仕上げに損傷を与えないよう充分注意する。特に塗り仕上げ、増設部材設置構内内の壁コンクリート及び土間コンクリート等の撤去に際しては、カッター等で切込みを付け、既存部分の保護を図る。
※増設する部材に接する既存コンクリートは、十分に目荒らしを行い増設部材との一体化を図る。なお、目荒らしは、深さ6mm程度の凹凸で全体を荒らすように行うこと。
※コンクリート打設前に検査、はつりがらを清掃し、数日から充分に水湿めを行う。
※既存の躯体状態の確認及び補修
石膏ボードについては、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」等に従い、原形のまま運搬し管理型最終処分場で処分すること。
石綿スレート、フレキシブルボード等石綿製品の撤去にあたっては、関係法令に従い、部材が破損しないよう手はずで行い、原形のまま運搬処分すること。
以下の天井材の撤去にあたっては、ボードが破損しないよう、手はずで行うこと。
床：ビニル系タイルの撤去にあたっては、関係法令に従い部材が破損しないよう目荒らし後、手はずで行い、原形のまま最終処分しを運搬処分すること。

表: 鉄筋の種類
種類
種類の見号 呼び径(mm) 備考
SD295 ※D16以下
SD345 ※D19以上

表: 溶接金網
形状等
種類 種類の見号 網目の形状、寸法、鉄線の径(mm) 使用部位
溶接金網
鉄筋格子

表: 継手及び定着
継手方法等
部位 継手の方法 呼び径(mm)
柱、梁の主筋 ガス圧接・機械式継手 ※D19以上
耐力壁の鉄筋 重ね継手
基礎、耐力スラブ、土圧壁 ガス圧接・重ね継手
上記以外 重ね継手

4 鉄筋のかぶり厚さ及び間隔
(溶接金網含む)
最小かぶり厚さ(目地底から算出を行う)
・図示による(構造関係共通図(配筋標準図)表4.1)
・耐久性上不利な部分(塩害等を受けるおそれのある部分等)
適用箇所() mm

5 ガス圧完了後の試験
外観試験は全ての圧接部で行う。
圧接部の確認試験 ※超音波探傷試験

6 圧接完了後の圧接部の試験
外観試験 ※行う(全ての圧接部)
超音波探傷試験 ※行う(全ての圧接部)

7 割製補筋
形状 ・スパイラル筋
種類の見号 ・SR235またはSMM-P
呼び径、曲げ直径、ピッチ ・図示による

表: コンクリートの種類等
コンクリートの類別
※I類(JIS A 5308への適合を認められたコンクリート)
II類(JIS A 5308に適合したコンクリート)
※普通コンクリート

表: 構造体強度補正値
※[表8.2.4]による

2 セメント
種類
※普通ポルトランドセメント、高炉セメントA種、シリカセメントA種又はフライアッシュセメントA種
適用箇所(※下記以外全て)
普通ポルトランドセメントの品質は、JIS R 5210に示された規定の他、水和熱が7日目で352 J/g以下、かつ28日目で402 J/g以下のものとする
高炉セメントB種
適用箇所(・IFより下部(立ち上がり部含む))
フライアッシュセメントB種
適用箇所()

3 骨材
アルカリシリカ反応性による区分
※A・B(コンクリート中のアルカリ総量Rt=3.0kg/m³以下)
[8.2.5]

4 混和材料
・混和剤 種類 ※(8.2.5)(4)(a)による
・混和材 種類 ※(8.2.5)(4)(b)による

5 構造体用モルタル
圧縮強度()、フロー値()
[8.2.6]

6 ひび割れ誘発目地、打継目地
目地寸法
・標準仕様書9.7.3(1)(7)~(9)による
※ひび割れ誘発目地、打継目地の深さ寸法は、躯体外側の打増し部で処理する
・図示による()
ひび割れ誘発目地の位置
・図示による()

7 構造体コンクリートの仕上り
合板せき板を用いるコンクリートの打放し仕上げ
[8.1.4][8.2.7]

表: 打増し厚さ(打放し仕上げ部)
打増し厚さ
・打放し仕上げの打増し厚さ(外部に面する部分に限る)
・20mm
・打放し仕上げの打増し厚さ(内部に面する部分に限る)
・20mm

8 打増し厚さ(打放し仕上げ部)
打増し厚さ
・打放し仕上げの打増し厚さ(外部に面する部分に限る)
・20mm
・打放し仕上げの打増し厚さ(内部に面する部分に限る)
・20mm

9 型枠
せき板の材料及び厚さ
(6.8.2)[8.2.7]
合板(※12mm)
コンクリート打設時の充満性の確認のため、型枠の一部に透明型枠等を使用
する場合は、強度、変形等について、事前に監督員と協議する。
・断熱材を用いた型枠の使用
適用箇所 ・図示による()
・MGR工法用シートの使用
適用箇所 ・図示による()

10 型枠の加工及び組立
シアコネクタをセパレーターとして使用
適用箇所 ・図示による()

11 無筋コンクリート
コンクリートの種類
※普通コンクリート
セメントの種類
※普通ポルトランドセメント、高炉セメントA種、シリカセメントA種又はフライアッシュセメントA種
高炉セメントB種
フライアッシュセメントB種
適用箇所
※標準仕様書6.14.1(4)による箇所 ・図示による()
設計基準強度 ※18(N/mm²)
スランプ ※15cm又は18cm

表: コンクリートの打設工法の種類
補修工事 下法の種類 適用箇所
・現場打ちコンクリート壁の増設工事
・工法指定なし
・流込み工法8.21.8(1)(7)(2)
・圧入工法8.21.8(1)(7)(3)

12 コンクリートの打込み方法等
補修工事
・柱補強工事(溶接金網巻き及び溶接鉄筋テープ巻き工法)
・工法指定なし
・流込み工法8.21.8(1)(7)(2)
・圧入工法8.21.8(1)(7)(3)

1 鉄骨製作工場
鉄骨製作工場の加工能力
※建築基準法第77条の56に基づき国土交通大臣から性能評価機関として認定を受けた(株)日本鉄骨評価センター及び(株)全国鉄骨評価機構(旧(社)全国鉄骨工業協会)の「鉄骨製作工場の性能評価基準」により評価を受け、国土交通大臣から認定を受けた工場、又は同等以上の能力のある工場
評価の区分 ※()グレード 指定しない
・監督員の承認する工場(標準仕様書7.1.1以外の適用範囲に限る)

2 鉄骨製作工場における施工管理技術者
配置する

表: 鋼材
種類等
種類の見号 適用箇所(主要な部分) 規格
※JIS規格による
※JIS規格による
※JIS規格による

4 高力ボルト
ボルトの種類
・トルシア形高力ボルト
・JIS高力ボルト
・溶融亜鉛めっき高力ボルト
ボルトのねじの呼び
・図示による()
ボルトの線端距離、ボルト間隔、ゲージ等
・図示による(構造関係共通図(鉄骨標準図)1-1線端距離及びボルト間隔)
摩擦面の処理方法等
溶融亜鉛めっき以外
※[8.14.2](1)による
溶融亜鉛めっき面
・プラスト処理(表面粗度50µm Rz以上)
・プラスト処理以外の特別な処理方法
・図示による()
すべり試験
・行う(※すべり係数試験・すべり耐力試験)
試験の方法等 ・図示による()

5 普通ボルト
ボルト及びナットの種類
(7.2.3)
・標準仕様書 表7.2.3(JIS附属書品目)又は次による
ボルトの規格は JIS B 1180 とする。
(ボルトの種類は、呼び径六角ボルト又は全ねじ六角ボルトとし、材料は鋼とする。ボルトの強度区分は、4.6又は4.8とする。なお、呼び径六角ボルトの軸径の最大寸法は、ボルトの径の値以下とする。ナットの規格は、JIS B 1181 とする。ナットの種類は、六角ナットとし、材料は鋼とする。)

6 アンカーボルト
・構造用アンカーボルト (JIS B 1220)
種類 ・ABR400 ・ABR490
・建方用アンカーボルト (JIS G 3101)
種類 ・SS400
アンカーボルト及びナットのねじの公差クラス及び仕上げの程度
※標準仕様書7.2.3による

7 溶接材料
・[8.2.10](1)、(2)による
・[8.2.10](1)、(2)以外の溶接材料
材料及び使用箇所 ・図示による()

8 ターンバックル
種類
建築用ターンバックル
※昇降ボルト
建築用ターンバックル調
※割付式
ねじの呼び
・図示による()

表: スタッド
頭付きスタッド (JIS B 1198) の種類等
呼び名 呼び長さ(mm) 適用箇所
-16
-19
-22

10 製作精度
鉄骨の製作精度は、JASS 6 付則6 鉄骨検査検査基準に加えて、次による。
[8.13.3]
適しダイヤグラムの突合せ継手の食い違いの寸法
※H12(建設第1464号第二号)による
アンダーカットの寸法
※H12(建設第1464号第一号)による
食い違い、仕口のずれの検査方法及び補強方法
・「突合せ継手の食い違い仕口のずれの検査・補強マニュアル」による

11 溶接作業者の技量付加試験
試験の要領
・図示による()

12 溶接接合
開先の形状
・図示による(構造関係共通図(鉄骨標準図)1-2 溶接継手の種類別開先標準)

鋼製エンドタブの切断部分
切断する場所 ・図示による()
切断範囲
鋼製エンドタブ、裏当て金等は、梁フランジ等の端から5mm以下残して直線上に切断する。なお、切断線が交差する場合は、交差部をアール状に加工する。
切断面の仕上げ
[8.15.7](1)(a)(b)による
スカップの形状
・図示による(構造関係共通図(鉄骨標準図)1-4(4)改良型スカップ)

13 入熱、バス間温度の管理
適用箇所
・図示による()

14 溶接部の試験
H12(建設第1464号第二号)に関する外観試験方法等
・「突合せ継手の食い違い仕口のずれの検査・補強マニュアル」3.5.2 受入検査による
・抜き取り検査①
・抜き取り検査②

JASS 6 付則6(鉄骨検査検査基準)の付表3「溶接」に関する確認方法等
・JASS 6 10.4「受入検査」e.溶接部の外観検査(1)から(5)までによる。ただし、完全溶込み溶接部の外観検査の抜き取り箇所は、超音波探傷試験の試験箇所と同一とする。外観試験の不合格箇所は、すべて標準仕様書7.6.13による補修を行い、再試験する。

完全溶込み溶接部の超音波探傷試験
・工場溶接の場合
※全数
・工事現場溶接の場合
※全数

15 錆止め塗装
塗装の範囲
耐火被覆材の接着する面
・図示による()
耐火被覆材の接着する面以外
※[8.17.2](1)(7)~(9)以外の範囲 ・図示による()
塗料の種類
・鉄骨部の錆止め塗料
・[表7.4.1] A種
・[表7.4.1] ()種
・亜鉛めっき鋼面の錆止め塗料
・[表7.4.2] ()種
・鉄骨鉄筋コンクリート造の鋼製スリーブの内面(鉄骨に溶接されたものに限る)
・[表7.4.1] A種
・耐火被覆材の接着する面へ塗装する場合の錆止め塗料
・[表7.4.1] ()種 ・ [表7.4.2] ()種

表: 耐火被覆
種類、材料、工法等
種類 材料・工法 性能(耐火時間) 適用箇所(部位・配分)

耐火材吹付け
・乾式吹付けカーク
・湿式ロックウール
・半乾式吹付けカーク
耐火板張り
・繊維混入けい酸カルシウム板
耐火材巻付け
・高断熱ロックウール
・ラス張りモルタル塗り
・耐火塗料

17 建方精度
※JASS6 付則6(鉄骨検査検査基準)付表5「工事現場」による (7.10.2)

18 アンカーボルト等の設置
構造用アンカーボルトの形状及び寸法
[7.10.3]
・図示による()
構造用アンカーフレームの形状及び寸法
・図示による()
建方(及び付属鉄骨)用アンカーボルトの保持及び埋込み工法(表7.10.1)
種類 ・A種 ・B種
柱底均しモルタルの厚さ及び工法の種類(表7.10.2)
厚さ
種類 ・A種 ・B種

表: 溶融亜鉛めっき(基礎、主要構造部及びその他構造耐力上主要な部分に限る)
種類等 [8.20.4][表8.20.1]

2 あと施工アンカー工事
(あと施工アンカー)
1 あと施工アンカー仕様等
・金属系アンカー(耐震補強用)
引張耐力 ※図示による()
せん断耐力 ※図示による()
アンカー本体の径及び埋込み長さ
・図示による()
セット方式 ※本体打込み式改良型
接合部の種類、径、長さ
・図示による()
・接着系アンカー
引張耐力 ※図示による()
せん断耐力 ※図示による()
アンカーの種類 ※カプセル方式回転・打撃式・カプセル方式打込み型

接着剤の品質 ※有機系 ・無機系
アンカーの径及び埋込み深さ
・図示による(「耐震改修共通事項」アンカー関係共通事項)
アンカー筋の種類 ・表8.2.1の異形鋼筋 ・全ねじボルト
アンカー筋の新設壁内への定着長さ
・図示による(「耐震改修共通事項」アンカー関係共通事項)

性能確認試験
試験方法及び試験数 ・図示による()

2 あと施工アンカー工事
穿孔機械(金属検知により電源供給が停止する付属装置等を使用する) [8.12.4, 7]
※ハンマードリル ・コアドリル
穿孔前の埋込み配管の検査方法
・JASS 11 10.4c「埋込み配管の非破壊検査」による
・鉄筋探知器(金属探知器)により探査し、鉄筋、配管類の位置に墨を出しを行う
探査方式
・電磁波レーダ法(30表示対応型) ・電磁波レーダ法又は電磁波誘導法
鉄筋探知器の性能
・CP管及び非金属類の探査が可能である機器とする
・はつり出しによる

施工確認試験
試験方法 ※引張試験機による引張試験
確認強度 ・図示による()

(グラウト工事)
1 柱底均しモルタル及びグラウト材
・柱底均しモルタル
※無収縮モルタル
無収縮モルタルの材料及び割合
※[8.2.12](1)(7)から(1)による
・グラウト材
無収縮グラウト材の材質等
種類 ・プレミックス形又は現場調合形とする
セメント JIS R 5210(ポルトランドセメント)に適合した普通または早強ポルトランドセメントとする
砂 製造物の仕様による
セメント系膨張剤(酸化カルシウム及びカルシウム・サルファ・アルミネート)
配合比(質量比) (セメント+混和材) : (砂) 製造物の仕様による

無収縮グラウト材の品質及び試験方法
コンシステンシー Jロートによる落下時間
ブリージング率 養生完了後3分以内の値 : 8±2秒
ブリージング率 養生完了後3分以内の値 : 2.0%以下
凝結開始時間 最終開始時間 : 1時間以上
最終時間 : 10時間以内
膨張収縮 (無収縮性) 材齢 7日 収縮しない
圧縮強度 材齢 3日 20.0 N/mm² 以上
材齢 28日 40.0 N/mm² 以上
付着強度 材齢 28日 2.5 N/mm² 以上
塩化物量 0.30kg/kg 以下

試験方法
1) NEXO試験方法 試験法 312-1999「無収縮モルタル品質管理試験方法」による。
2) プレミックス形と現場調合形と混和材が同一の場合の試験はプレミックス形のみとする。
3) 塩化物量の試験は、「JIS A 1144「フレッシュコンクリート中の水の塩化物イオン濃度試験方法」による。

(連続繊維補強工事)
1 連続繊維シート巻き
連続繊維シート
材料 ・図示による()
工法 ※(-財)日本建築防災協会の評価を受けた工法
引張強度(含浸硬化後)
・2500N/mm² 以上
・3000N/mm² 以上
ヤング係数(含浸硬化後)
・2.35×10⁴ N/mm² 以上
・2.00×10⁴ N/mm² 以上

下地調整
ひび割れ部の改修工法の種類
・樹脂注入工法
・リカットシール材充填工法
・シール工法
及び壁の隅角部の面取りの大きさ ※工法の評価内容による
連続繊維補強材の強度試験
引張強度試験
※JIS A 1191(コンクリート補強用連続繊維シートの引張試験方法)による
試験数量 ・図示による()
付着強度試験
※JIS A 6909(建築用仕上塗材)による
試験数量 ・図示による()
補強後の仕上げ ・図示による()

(耐震スリット新設工事)
1 施工前埋込み配管等の探査
既存撤去部の埋込み配管等の探査方法
・鉄筋探知器(金属探知器)により探査し、鉄筋、配管類の位置に墨を出しを行う
探査方式 ・電磁波レーダ法(30表示対応型) ・電磁波レーダ法又は電磁波誘導法
・はつり出しによる

2 耐震スリット
幅及び深さ ・図示による()
設置箇所 ・図示による()

3 充填材の挿入及び周囲補修等
・耐火材 使用箇所及び仕様 ・図示による()
・塗布材 使用箇所及び仕様 ・図示による()
撤去部の補修 ※撤去材と同一材で補修

<p><免震改修工事></p>	<p>・別添の免震工事特記仕様書による</p>																			
<p><制振改修工事></p>	<p>・別添の制振工事特記仕様書による</p>																			
<p><土工事及び地業工事> 1 既存杭の撤去等</p>	<p>撤去範囲及び撤去方法 図示による () ; [8.28.2] 杭頭部の処理 図示による () ; 既存杭の補強 図示による () ; 健全性の確認試験 図示による () ;</p>																			
<p>2 土工事</p>	<p>埋戻し及び盛土の種類 [8.28.3] ・A種 適用場所 () ・B種 適用場所 () ・C種 適用場所 () 土質 () 受渡場所 () ・D種 適用場所 () 品質 細粒分(75μm以下)の含有率(重量百分率)の上限を50%未満とする。 六価クロム溶出試験 行う 建設発生土の処理 構内指示の場所に堆積 構内指示の場所に敷均し 鋼矢板等の抜き跡の処理 ※※地盤の変形を防止する適切な措置を講ずる 山留め壁等の存置 行う(存置範囲 ※図示)</p>																			
<p>3 地業工事</p>	<p>・杭地業 [8.2.15][8.28.4] 支持層の位置及び土質(基礎ぐいの先端の位置含む) 図示による () 杭の材料、工法、寸法、施工方法等 図示による () 試験杭の位置、本数、寸法、施工方法 図示による () 杭の載荷試験 適用(鉛直・水平) 試験杭(位置、本数、載荷荷重、試験方法、報告書記載事項 ※図示) 地盤の載荷試験 適用(※平板) 試験位置、載荷荷重、試験方法、報告書記載事項 ※図示 杭の溶接継手 あり(継手の箇所数、材料、工法等 ※図示) 技能資格者の技量及び溶接部の確認 ※図示 杭頭の処理等 する(処理方法(切断にともなう補強方法含む)※図示・) 記録する施工状況等 図示による () ・砂利地業 [8.2.15][8.28.4] 材料 再生クラッシュラン 切込砂利又は切込砕石 施工範囲 図示による () 厚さ ※60mm ・砂地業 [8.2.15][8.28.4] 材料 シルト 有機物等の混入しない締固めに適した山砂、川砂又は砕砂 施工範囲 図示による () 厚さ ※60mm ・捨コンクリート地業 [8.11.1~3][8.28.4] 材料 ※普通コンクリート 設計基準強度 ※18N/mm² スラブ ※15cm又は18cm 施工範囲 図示による () 厚さ ※50mm(※平たん仕上げ)</p>																			

前原中学校

特記事項

- 【アスベスト含有仕上塗材・下地調整材除去工事】
- (1) 令和3年3月 厚生労働省労働基準局安全衛生部化学物質対策課/環境省水・大気環境局大気環境課「建築物等の解体等に係る石綿ばく露防止及び石綿飛散漏えい防止対策徹底マニュアル」(以下マニュアル)により、下記工法の併用工法とする。
 [一般部] (7) 集塵装置付き超高压水施工法(100MPa以上)・同時吸引式(ウォータークリーン工法)
 [狭あい部] (4) (湿式) 集塵装置付きディスクグラインダーケレン工法・同時吸引式(ウォータークリーンSG工法)
 (6) (湿式) 集塵装置併用手工具ケレン工法または剥離剤併用手工具ケレン工法
- (2) 石綿除去処理工事に際しては、通常の工事と異なる側面があるため、工事の特殊性を十分確認した上で、専門業者で行うこと。ここでいう専門業者とは、建設技術審査証明(財)日本建築センター)により確立された、「石綿含有建築用仕上塗材からの石綿粉じん飛散防止処理技術」を取得している業者のことを指す。

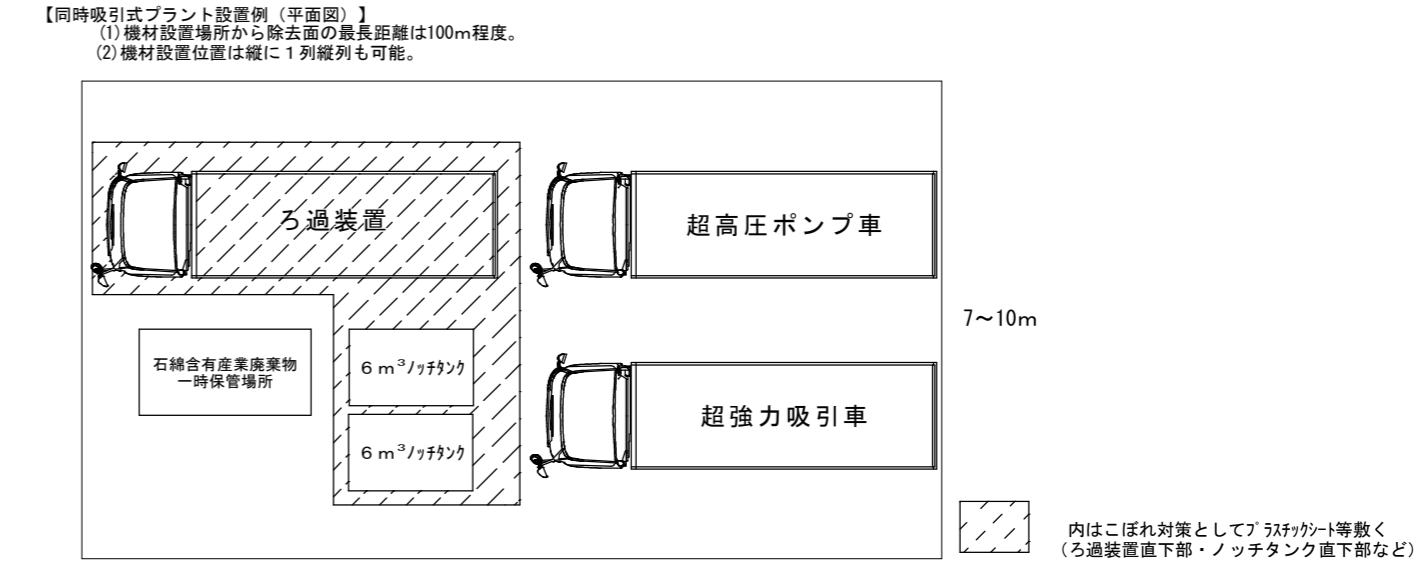
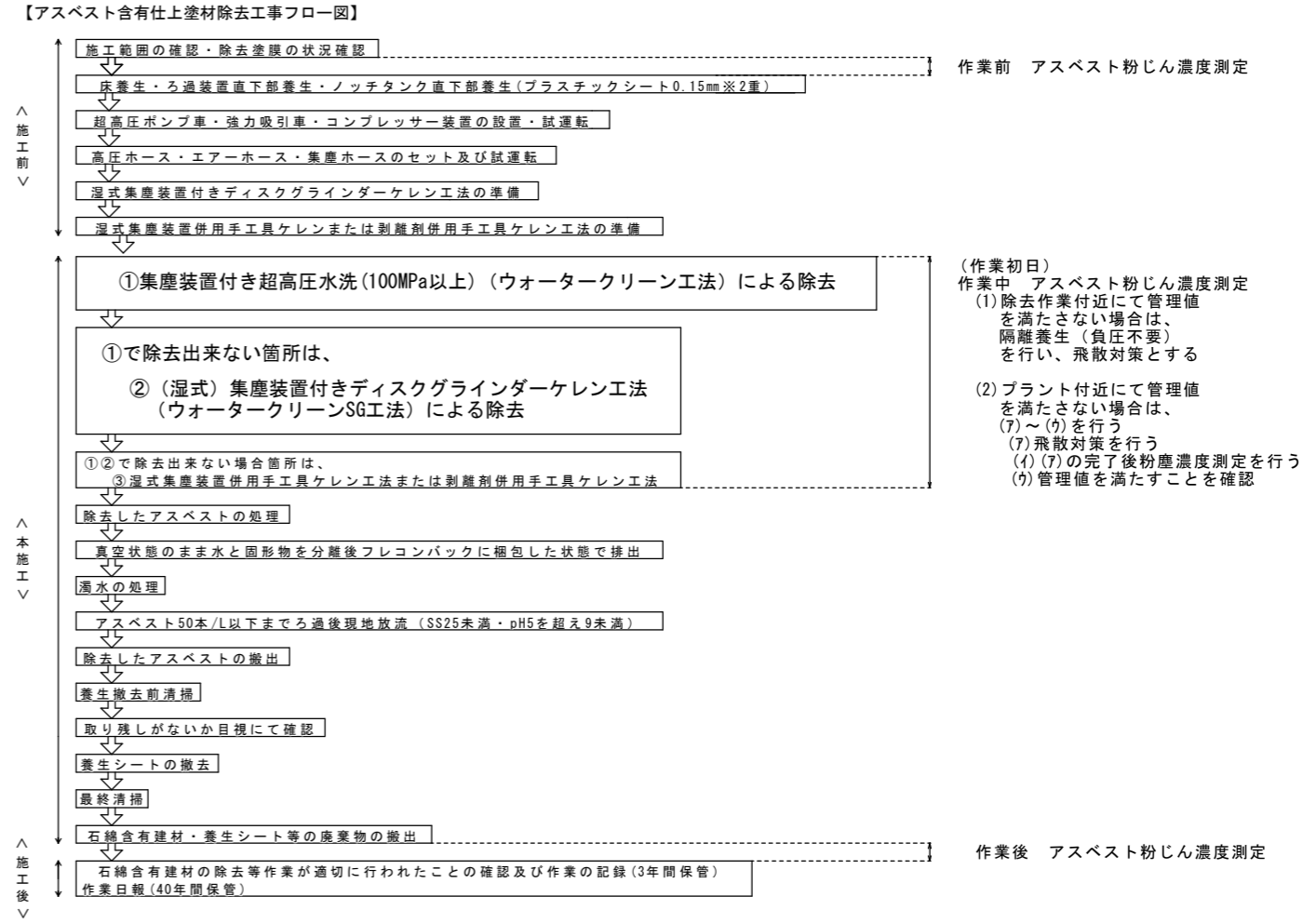
(3) 本施工は以下の項目を遵守して行うこと。

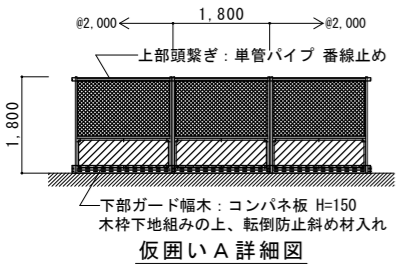
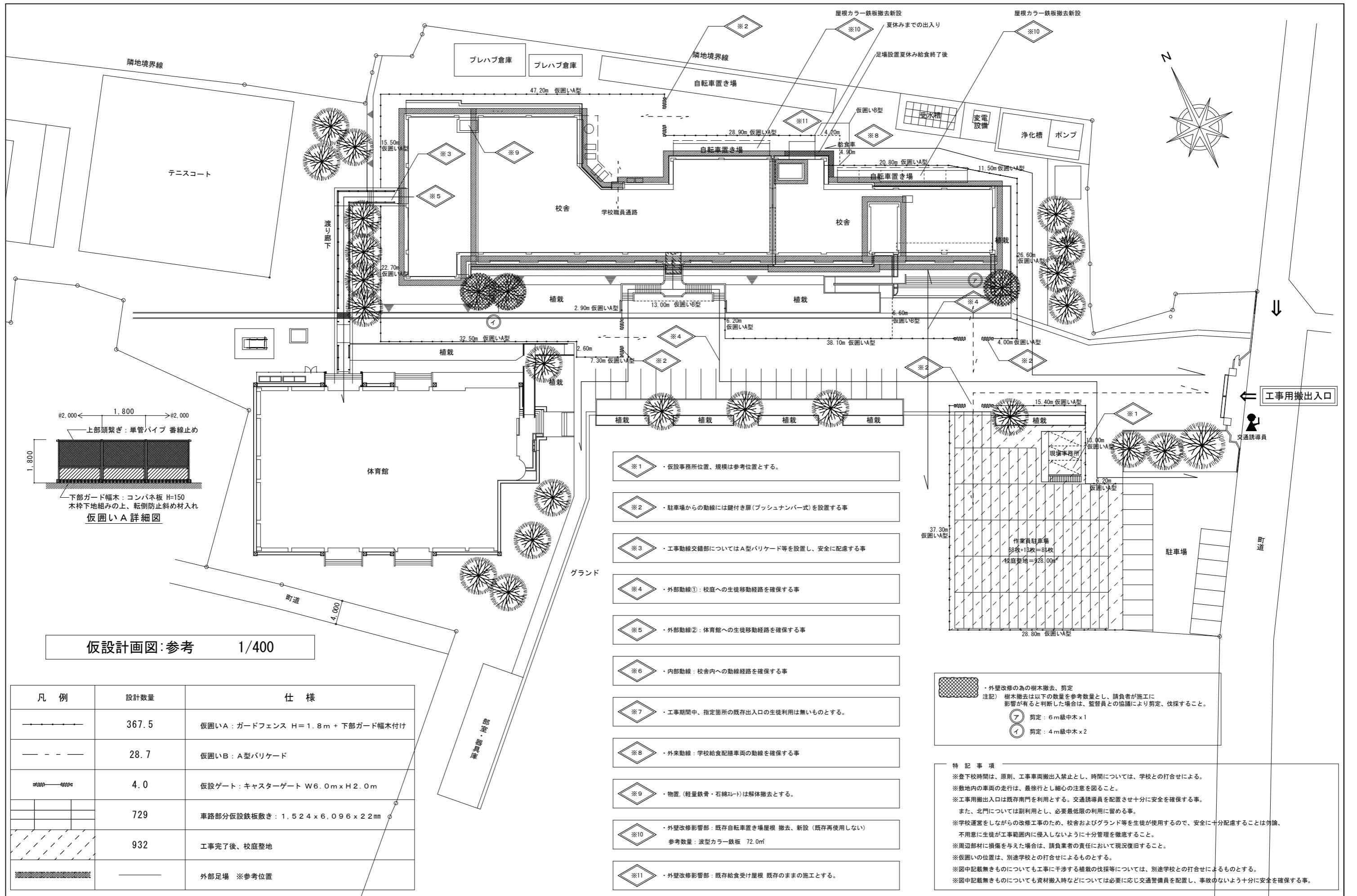
項目	特記仕様	管理方法																					
工事計画		「特定石綿含有建材調査者」の参画を前提とする。																					
吸引機の圧力と風量	吸引圧力/真空圧 -60~-90kPa 風量 30~40m ³ /分	撮影 臨機に仕様書提出																					
吸引時の排気濾過	ジェットスクラバ方式及びHEPAフィルター	撮影																					
水処理(濁水処理内容)	上澄み水は最終0.2μmフィルターを透過させ以下の値を遵守する。 ・アスベスト含有量 50本/L以下(検出限界値) ・pH pH5を超え9未満 ・浮遊物質(SS) 25mg/L未満	第三者機関にて測定 (放流前)pH調整器にて確認・撮影 (放流前)簡易透視度計にて確認・撮影																					
アスベスト粉じん濃度測定	速報値で管理値(10本/L以下)を満たしていることを確認する。 本施工時 <table border="1"> <tr><td>測定時期</td><td>測定箇所</td><td>測定時間</td></tr> <tr><td>作業前</td><td>敷地境界 4方向各1点 計4点</td><td>240分</td></tr> <tr><td>作業中</td><td>敷地境界 4方向各1点</td><td>240分</td></tr> <tr><td></td><td>プラント設置付近 1点</td><td>120分</td></tr> <tr><td></td><td>除去作業付近 1点 計6点</td><td>120分</td></tr> <tr><td>作業後</td><td>敷地境界 4方向各1点 計4点</td><td>240分</td></tr> <tr><td></td><td></td><td>合計14点</td></tr> </table>	測定時期	測定箇所	測定時間	作業前	敷地境界 4方向各1点 計4点	240分	作業中	敷地境界 4方向各1点	240分		プラント設置付近 1点	120分		除去作業付近 1点 計6点	120分	作業後	敷地境界 4方向各1点 計4点	240分			合計14点	第三者機関にて測定
測定時期	測定箇所	測定時間																					
作業前	敷地境界 4方向各1点 計4点	240分																					
作業中	敷地境界 4方向各1点	240分																					
	プラント設置付近 1点	120分																					
	除去作業付近 1点 計6点	120分																					
作業後	敷地境界 4方向各1点 計4点	240分																					
		合計14点																					
廃材処理	(1) 強力吸引車を使用した同時吸引式工法により撤去した塗膜と廃水を外気に触れることなく密閉状態で安全に集積・分別をする。 (2) 分別した塗膜はフレコンバックに集めたのちプラスチック袋(0.15mm以上)で2重梱包する。	撮影																					
除去したアスベスト等の保管、運搬、処分等	(1) 除去したアスベスト含有材等を撤出するまでの間現場に保管する場合は、石綿含有産業廃棄物として一定の保管場所を定め、他の建設副産物等と分別して保管する。 (2) 一時保管場所はシートで覆うなどの飛散対策を講じ、アスベスト含有材等の保管場所であることを掲示する。 (3) アスベスト含有材等の運搬車及び運搬容器は、アスベスト含有材等が飛散及び流出するおそれのないものとする。 (4) 運搬車の荷台には覆いをかけるなど飛散防止措置を講じる。 (5) 除去したアスベスト含有材の処分はマニュアル基準にて適正に最終処分場の一定の場所で埋め立て処分する。	撮影																					

(4) 特記仕様に記載された以下の項目は施工完了後報告書として提出すること。

項目	特記仕様	報告方法
吸引時の圧力と風量	吸引圧力/真空圧 -60~-90kPa 風量 30~40m ³ /分	写真 臨機に仕様書提出
吸引時の排気濾過	ジェットスクラバ方式及びHEPAフィルター	写真
水処理(濁水処理内容)	アスベスト含有量 50本/L以下 pH pH5を超え9未満 浮遊物質(SS) 25mg/L未満	第三者機関の報告書 写真および第三者機関の報告書
アスベスト粉じん濃度測定	管理値(10本/L)以下	第三者機関の報告書
廃材処理	(1) 飛散防止状況 (2) 二重梱包状況	写真 写真
除去したアスベスト等の保管、運搬、処分等	(1) 一時保管庫での保管状況 (2) 一時保管庫および看板設置状況 (3) 石綿含有産業廃棄物搬出状況 (4) 石綿含有産業廃棄物シート掛け状況 (5) 石綿含有産業廃棄物最終処分場	写真 写真 写真 写真 写真

(5) 石綿含有建材の除去等作業が適切に行われたことの確認及び作業の記録
 石綿の取り残しがないこと等の確認・記録の手順として、マニュアルの4.15(p.225)に従って行う。
 ・4.15.1 作業が適切に行われたことの確認の流れ
 ・4.15.2 作業の記録、確認及び記録の保存
 ・4.15.3 石綿の取り残しがないこと等の確認方法
 ・4.15.5 発注者への報告





仮設計画図：参考 1/400

凡例	設計数量	仕様
— — — — —	367.5	仮囲いA：ガードフェンス H=1.8m + 下部ガード幅木付け
— — — — —	28.7	仮囲いB：A型バリケード
□□□□□	4.0	仮設ゲート：キャストゲート W6.0m x H2.0m
□□□□□	729	車路部分仮設鉄板敷き：1,524 x 6,096 x 22mm
□□□□□	932	工事完了後、校庭整地
□□□□□	—	外部足場 ※参考位置

- ※1 ・仮設事務所位置、規模は参考位置とする。
- ※2 ・駐車場からの動線には鍵付き扉(プッシュナンバー式)を設置する事
- ※3 ・工事動線交錯部についてはA型バリケード等を設置し、安全に配慮する事
- ※4 ・外部動線①：校庭への生徒移動経路を確保する事
- ※5 ・外部動線②：体育館への生徒移動経路を確保する事
- ※6 ・内部動線：校舎内への動線経路を確保する事
- ※7 ・工事期間中、指定箇所の既存出入口の生徒利用は無いものとする。
- ※8 ・外来動線：学校給食配膳車両の動線を確保する事
- ※9 ・物置(軽量鉄骨・石綿入)は解体撤去とする。
- ※10 ・外壁改修影響部：既存自転車置き場屋根 撤去、新設(既存再使用しない)
参考数量：波型カラー鉄板 72.0㎡
- ※11 ・外壁改修影響部：既存給食受け屋根 既存のままの施工とする。

・外壁改修の為の樹木撤去、剪定
 注記) 樹木撤去は以下の数量を参考数量とし、請負者が施工に影響があると判断した場合は、監督員との協議により剪定、伐採すること。
 ア 剪定：6m級中木 x 1
 イ 剪定：4m級中木 x 2

特記事項
 ※登下校時間は、原則、工事車両搬出入禁止とし、時間については、学校との打合せによる。
 ※敷地内の車両の走行は、最優先とし細心の注意を図ること。
 ※工事用搬出入口は既存南門を利用とする。交通誘導員を配置させ十分に安全を確保する事。
 また、北門については副利用とし、必要最低限の利用に留める事。
 ※学校運営をしながらの改修工事のため、校舎およびグラウンド等を生徒が使用する為、安全に十分配慮することは勿論、不用意に生徒が工事範囲内に侵入しないように十分管理を徹底すること。
 ※周辺部材に損傷を与えた場合は、請負業者の責任において現況復旧すること。
 ※仮囲いの位置は、別途学校との打合せによるものとする。
 ※図中記載無きものについても工事に干渉する植栽の伐採等については、別途学校との打合せによるものとする。
 ※図中記載無きものについても資材搬入時などについては必要に応じ交通警備員を配置し、事故のないよう十分に安全を確保する事。

■ 外部仕上表

部 位	既存部仕上表			改修後仕上表			
	改 修 前	備 考	下 地 処 理	改 修 後	備 考		
外 壁	一 般	モルタル刷毛引き、旧リシンの上吹付タイル重ね吹き	撤去 ● 既存処理	既存塗膜全面除去	吹付下地材全撤去、高圧水洗浄(3MPa) 劣化補修(自動式低圧エポキシ樹脂注入工法、欠損部ポリマーセメントモルタル充填)	下地調整材：C-2 仕上：防水形複層塗材 E	外壁改修 4
	軒天・上裏	モルタル金縁、アクリルシン吹付	撤去 ● 既存処理	既存塗膜全面除去	吹付下地材全撤去、高圧水洗浄(3MPa) 劣化補修(自動式低圧エポキシ樹脂注入工法、欠損部ポリマーセメントモルタル充填)	下地調整材：C-1 仕上：外装薄塗材 E	外壁改修 5
	立上り巾木	モルタル金縁仕上げ	撤去 ● 既存処理		高圧水洗浄(30MPa)、劣化補修(Uカットシール材充填、欠損部ポリマーセメントモルタル充填)	樹脂モルタル薄塗り	外壁改修 3
	梁型側面・底面	モルタル刷毛引き、旧リシンの上吹付タイル重ね吹き	撤去 ● 既存処理	既存塗膜全面除去	吹付下地材全撤去、高圧水洗浄(3MPa) 劣化補修(自動式低圧エポキシ樹脂注入工法、欠損部ポリマーセメントモルタル充填)	下地調整材：C-2 仕上：防水形複層塗材 E	外壁改修 4
	梁型天端	モルタル金縁、吹付タイル	撤去 ● 既存処理		高圧水洗浄(30MPa)、下地調整用ポリマーセメントモルタル塗布	ウレタン塗膜防水 X-2	防水改修
R階屋上	バラベツト外壁	モルタル刷毛引き、旧リシンの上吹付タイル重ね吹き	撤去 ● 既存処理	既存塗膜全面除去	吹付下地材全撤去、高圧水洗浄(3MPa) 劣化補修(自動式低圧エポキシ樹脂注入工法、欠損部ポリマーセメントモルタル充填)	下地調整材：C-2 仕上：防水形複層塗材 E	外壁改修 4
	バラベツト立上り	塩ビ系シート防水	撤去 ● 既存処理		(既存のまま)	(既存のまま)	防水改修
	笠木天端	アルミ製笠木 W=350	撤去 ● 既存処理	下地金物共	高圧水洗浄(30MPa)、下地調整用ポリマーセメントモルタル塗布	既製品カラーアルミ製笠木 W=350	防水改修
	床 面	塩ビ系シート防水	(既存のまま)		(既存のまま)	(既存のまま)	
特別教室屋根	バラベツト外壁	モルタル刷毛引き、旧リシンの上吹付タイル重ね吹き	撤去 ● 既存処理	既存塗膜全面除去	吹付下地材全撤去、高圧水洗浄(3MPa) 劣化補修(自動式低圧エポキシ樹脂注入工法、欠損部ポリマーセメントモルタル充填)	下地調整材：C-2 仕上：防水形複層塗材 E	外壁改修 4
	バラベツト立上り	塩ビ系シート防水	撤去 ● 既存処理		(既存のまま)	(既存のまま)	防水改修
	笠木天端	アルミ製笠木 W=350	撤去 ● 既存処理	下地金物共	高圧水洗浄(30MPa)、下地調整用ポリマーセメントモルタル塗布	既製品カラーアルミ製笠木 W=350	防水改修
	床 面	塩ビ系シート防水	(既存のまま)		(既存のまま)	(既存のまま)	
ベランダ	手摺壁(内外)	モルタル刷毛引き、旧リシンの上吹付タイル重ね吹き	撤去 ● 既存処理	既存塗膜全面除去	吹付下地材全撤去、高圧水洗浄(3MPa) 劣化補修(自動式低圧エポキシ樹脂注入工法、欠損部ポリマーセメントモルタル充填)	下地調整材：C-2 仕上：防水形複層塗材 E	外壁改修 4
	手摺壁天端	防水モルタル金縁仕上げ	撤去 ● 既存処理		高圧水洗浄(30MPa)、下地調整用ポリマーセメントモルタル塗布	ウレタン塗膜防水 X-2	防水改修
	手 摺	鋼製製作2段手摺	撤去 ● 既存処理		鉄部R白種	錆止め・DP(1層)塗装	
	床 面	防水モルタル金縁仕上げ	撤去 ● 既存処理		高圧水洗浄(30MPa)、下地調整用ポリマーセメントモルタル塗布	ウレタン塗膜防水 X-2	防水改修
増設物置 3000x3000x2700	外 壁	小波石繊維張り	撤去 ● 既存処理		撤去部清掃	撤去部清掃	撤去部清掃
	屋 根	小波石繊維張り	撤去 ● 既存処理		撤去部清掃	撤去部清掃	撤去部清掃
	柱・梁	スチール製鋼管 SOP 塗装	撤去 ● 既存処理		撤去部清掃	撤去部清掃	撤去部清掃
	サッシ	アルミサッシ	撤去 ● 既存処理			点検調整、清掃	
外部建具	※一部水切り	モルタル金縁仕上	撤去 ● 既存処理		高圧水洗浄(30MPa)、下地調整用ポリマーセメントモルタル塗布	ウレタン塗膜防水 X-2	防水改修
	耐震改修部分	アルミサッシ + アルミ製耐火パネル併設	撤去 ● 既存処理			点検調整、清掃	
	目地類	打継、化粧目地	シーリング W=20	撤去 ● 既存処理		ポリウレタン系シーリング(PU-2)	
と い	整 種	VP管φ100 VP塗装 VP管φ100 VP塗装 呼種 VPφ100	撤去 ● 既存処理	種受け金物、白ガス養生管φ114 共		カラーVP φ100 呼種 カラーVP φ100	種受け金物：SUS製
	整 種	白ガス管φ80 SOP塗装	撤去 ● 既存処理	種受け金物、白ガス養生管φ114 共		カラーVP φ100 呼種 カラーVP φ100	種受け金物：SUS製
昇降口 階段、踏面・蹴上共	ルーフドレン	鋼鉄製	(既存のまま)		(既存のまま)	(既存のまま)	
	床 面	磁器質タイル150角張り	撤去 ● 既存処理			カラーモルタル金ゴテ 目地切仕上げ	点字ブロック300角既存のまま
建築金物	屋 根	ｽﾌﾟﾗ手摺	(既存のまま)		(既存のまま)	(既存のまま)	

注 記
 ・その他本表に記載無き詳細部については以降各図を参照の事
 ・外壁塗膜吹付材はアスベスト含有建材となるため、吹付下地材全撤去工法を採用する。
 採用工法：集塵装置付き超高压水洗工法(100MPa以上)、及び強式集塵装置付きディスクグラインダーケレン工法 参考)ウォータークリーン工法
 ・上記工法に応じた養生、作業を行う事。
 ・足場床面、及び壁面、開口部については汚れ防止養生シートにて養生施工を行う事。
 ・施工計画書を作成の上、監督員の承認の上施工を行う事。
 ・関係法令に基づく書類の作成、提出を行う事。
 ※その他詳細は「特記仕様書(アスベスト撤去)参考図」参照の事

※外壁アスベスト含有場所
 東棟：外壁仕上 - 含有 無し
 軒裏仕上 - 含有 有り
 西棟：外壁仕上 - 含有 有り
 軒裏仕上 - 含有 有り

■ 外壁劣化補修箇所 数量集計表

名 称	単 位	設計時調査						施工時調査							
		東 面	西 面	南 面	北 面	屋 上	調査数量	係数	設計数量	東 面	西 面	南 面	北 面	屋 上	施工数量
クラック	m	72.4	46.1	170.8	83.8	2.2	375.3	2.0	750.6						
欠 損	箇所	2	0	23	0	49	74	2.0	148						
燻 裂	箇所	17	3	6	17	0	43	2.0	86						
浮 き	m	0	0	0	0	0	0	3.0	0						

■ 劣化補修特記事項
 ・施工数量調査は吹付材、既存塗膜を全撤去した状況にて行う事。
 ・劣化部補修仕様は特記無き限り下記とする。
 クラック：【校舎2棟・配膳室棟】 Uカットシーリング材充填工法 ※ポリマーセメントモルタル充填
 【特別教室棟・校舎1棟】 自動式低圧エポキシ樹脂注入工法 ※注入間隔4本/m
 欠 損：ポリマーセメントモルタル充填工法
 燻 裂：周囲研り出しの上、錆止め塗装処理、ポリマーセメントモルタル充填工法
 浮 き：アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法 ※アンカーピン本数は特記仕様による

注 記
 ・調査数量は既存塗膜有りの状況調査の為、各係数を乗じた数量を設計数量として算出する。

前原中学校

前原中学校外壁改修工事

外部仕上表

SCALE

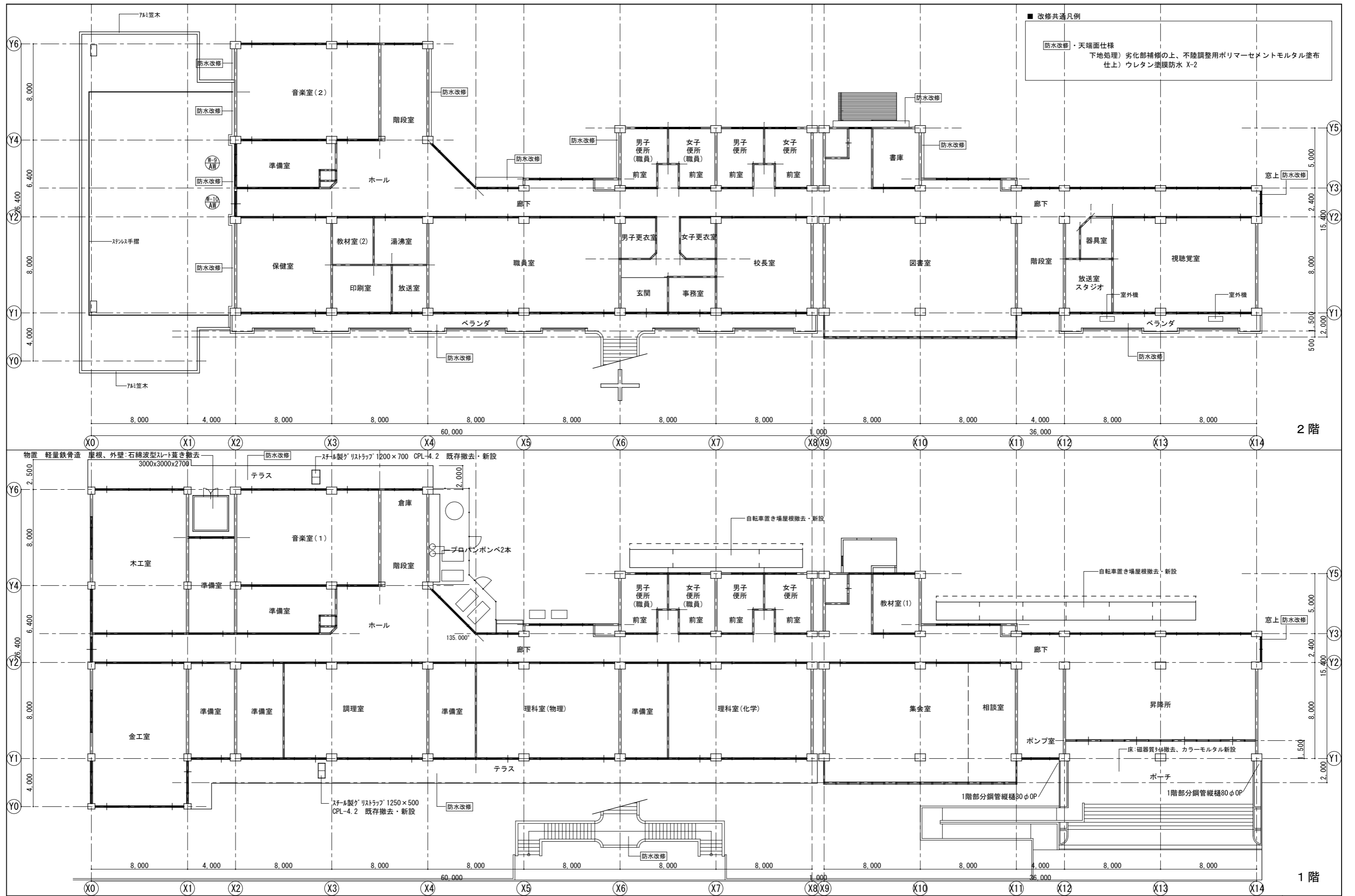
-

設計

製図

宮代町教育推進課

MA-12



前原中学校外壁改修工事

[前原中学校] 1階・2階 平面図

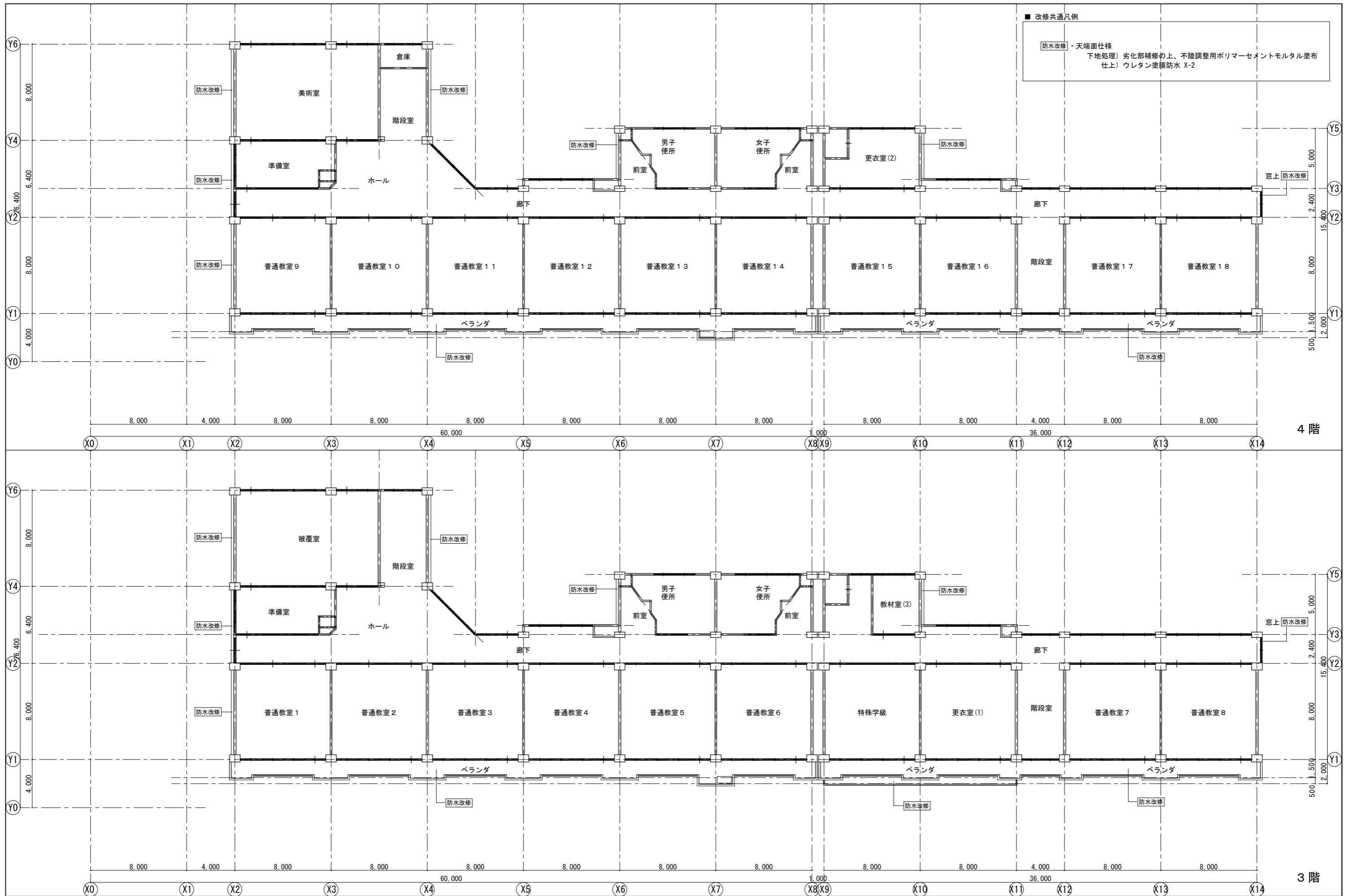
SCALE 1/200

設計

製図

宮代町教育推進課

MA-13



前原中学校外壁改修工事

[前原中学校] 3階・4階 平面図

SCALE 1/200

設計

製図

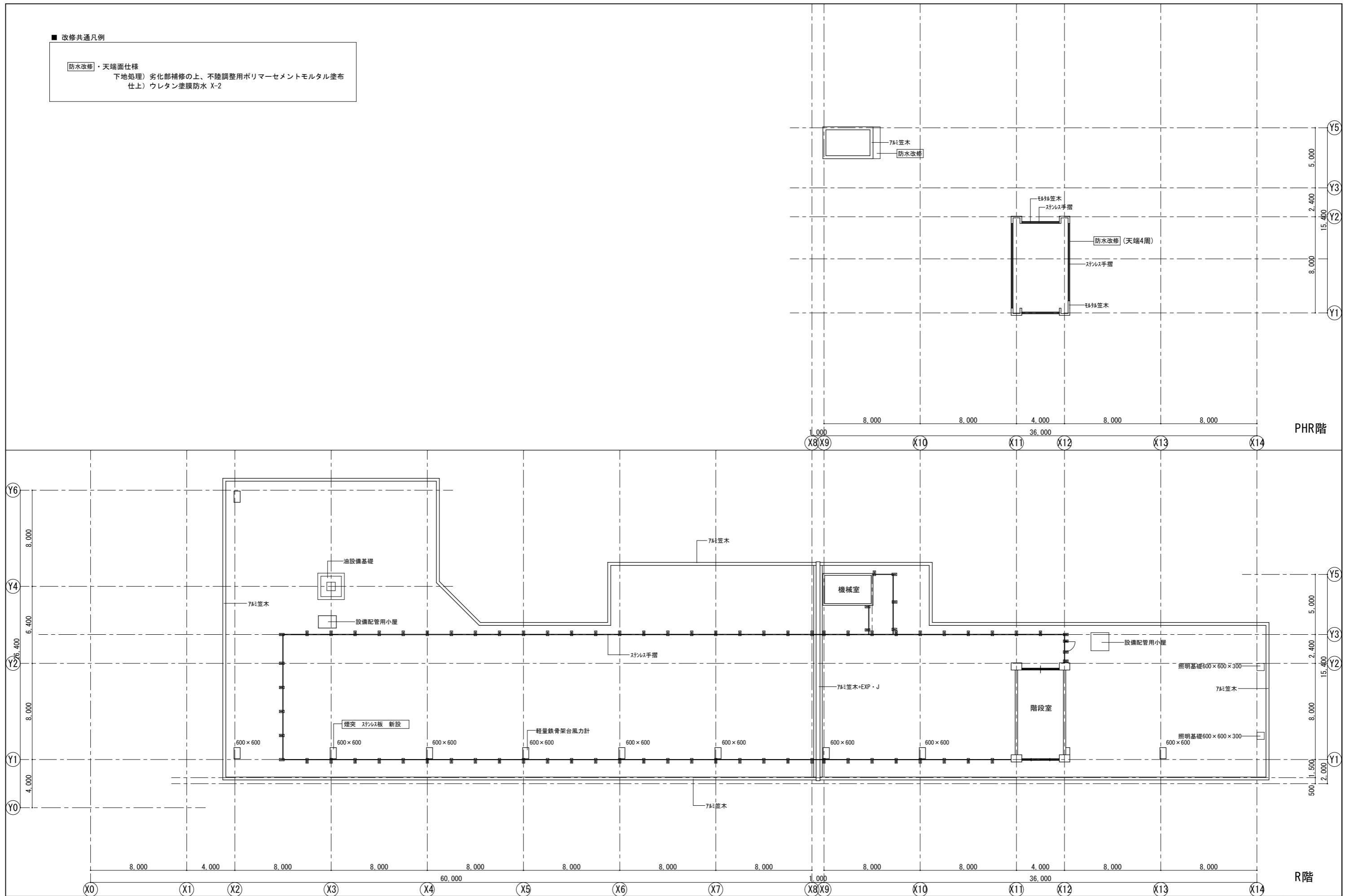
宮代町教育推進課

MA-14

■ 改修共通凡例

防水改修・天端面仕様

下地処理) 劣化部補修の上、不陸調整用ポリマーセメントモルタル塗布
仕上) ウレタン塗膜防水 X-2



前原中学校外壁改修工事

[前原中学校] R階・PH階 平面図

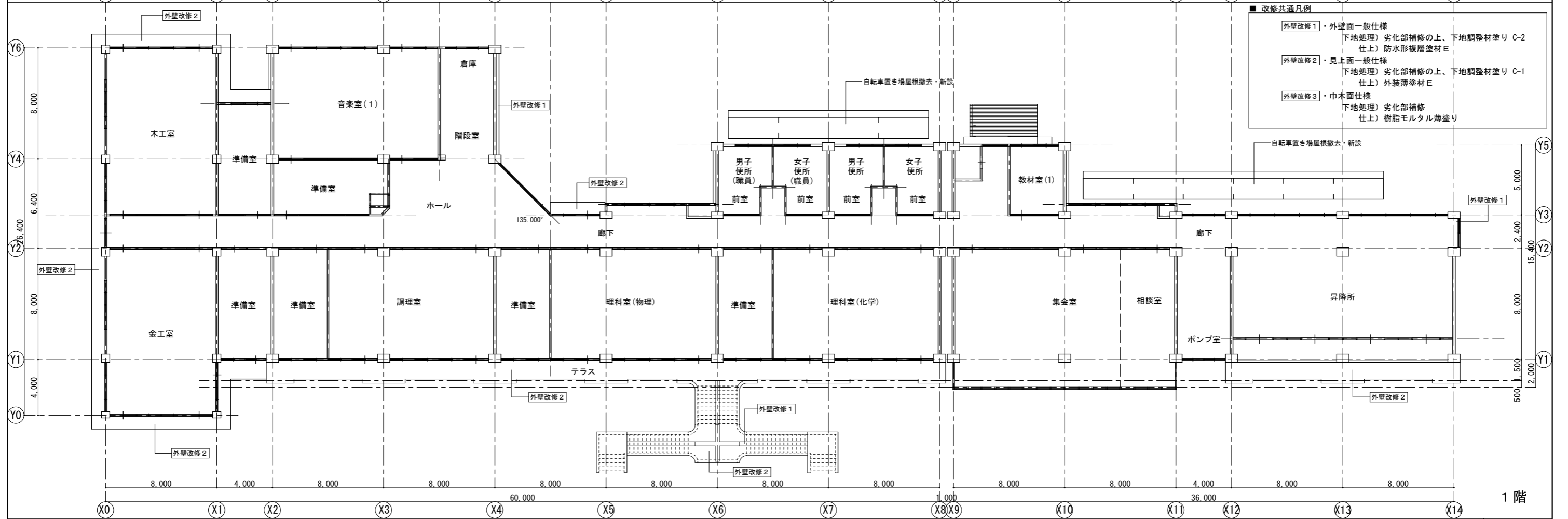
SCALE 1/200

設計

製図

宮代町教育推進課

MA-15



前原中学校外壁改修工事

[前原中学校] 1階・2階 天井伏図

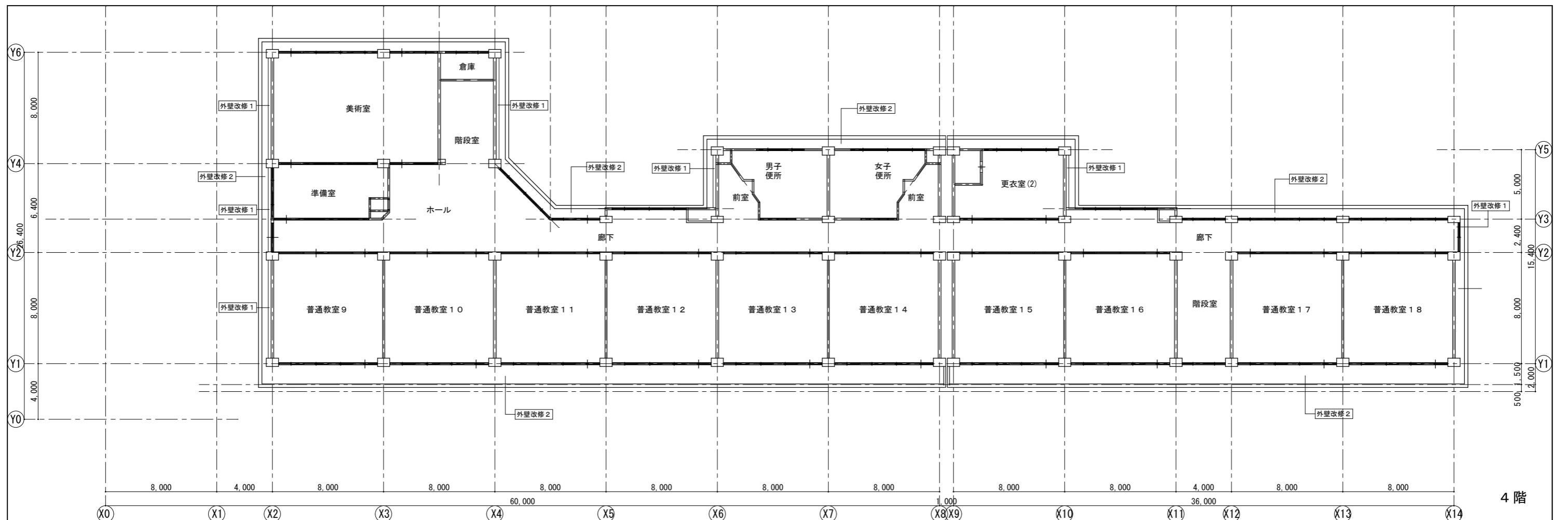
SCALE 1/200

設計

製図

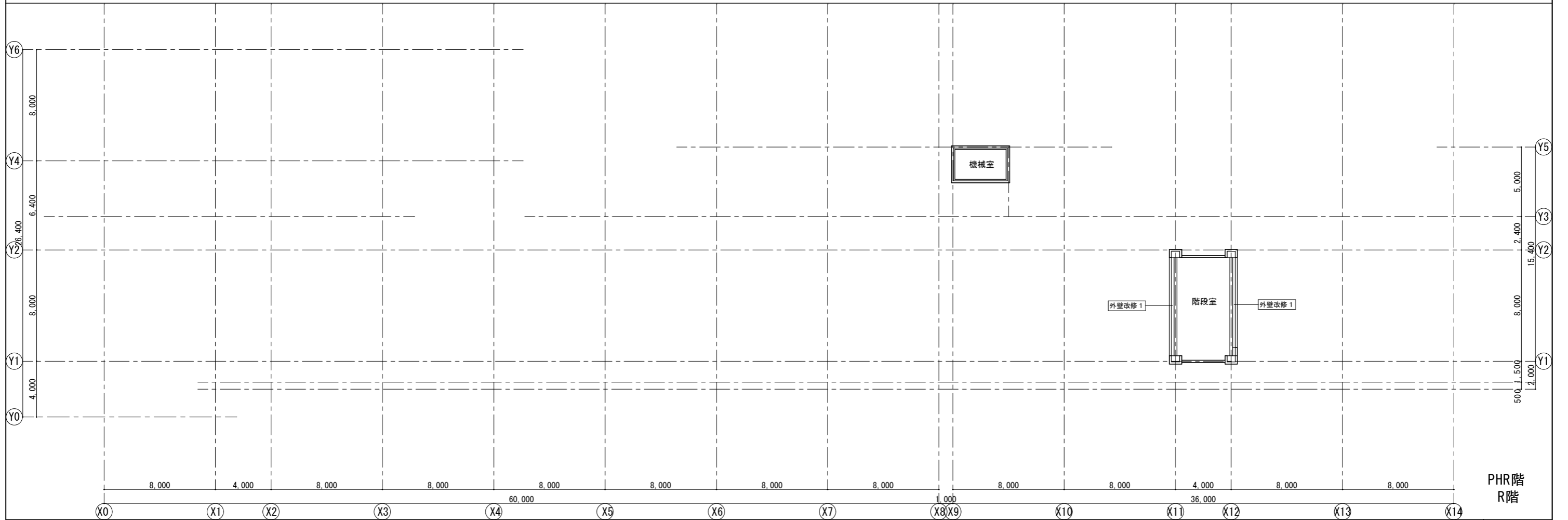
宮代町教育推進課

MA-16

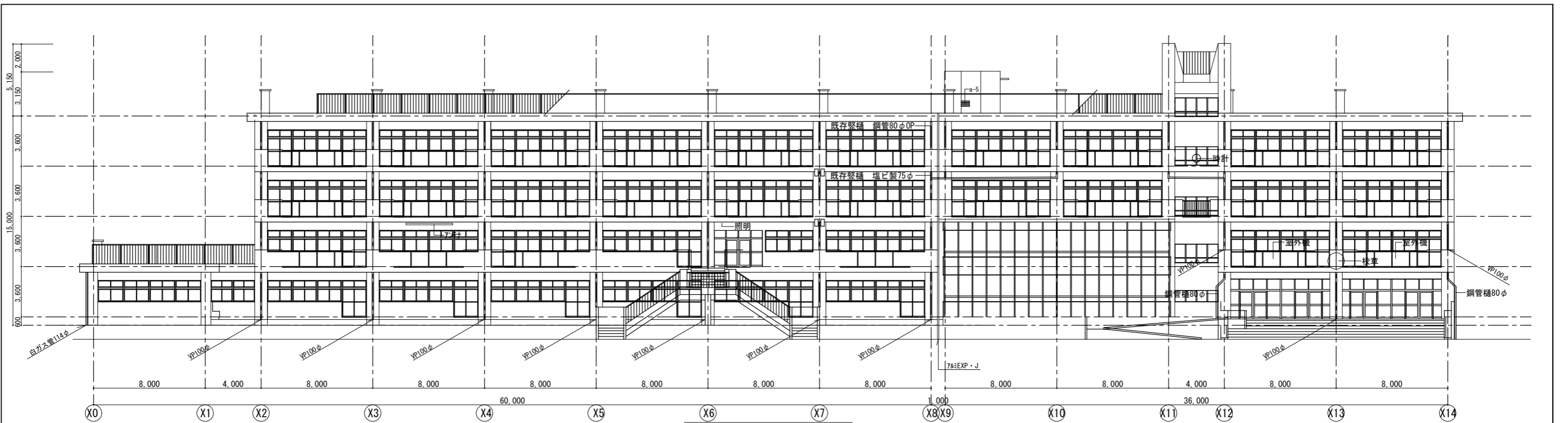


- 改修共通凡例
- 外壁改修1 ・外壁面一般仕様
下地処理) 劣化部補修の上、下地調整材塗り C-2
仕上) 防水形複層塗材 E
 - 外壁改修2 ・見上面一般仕様
下地処理) 劣化部補修の上、下地調整材塗り C-1
仕上) 外装薄塗材 E
 - 外壁改修3 ・巾木面仕様
下地処理) 劣化部補修
仕上) 樹脂モルタル薄塗り

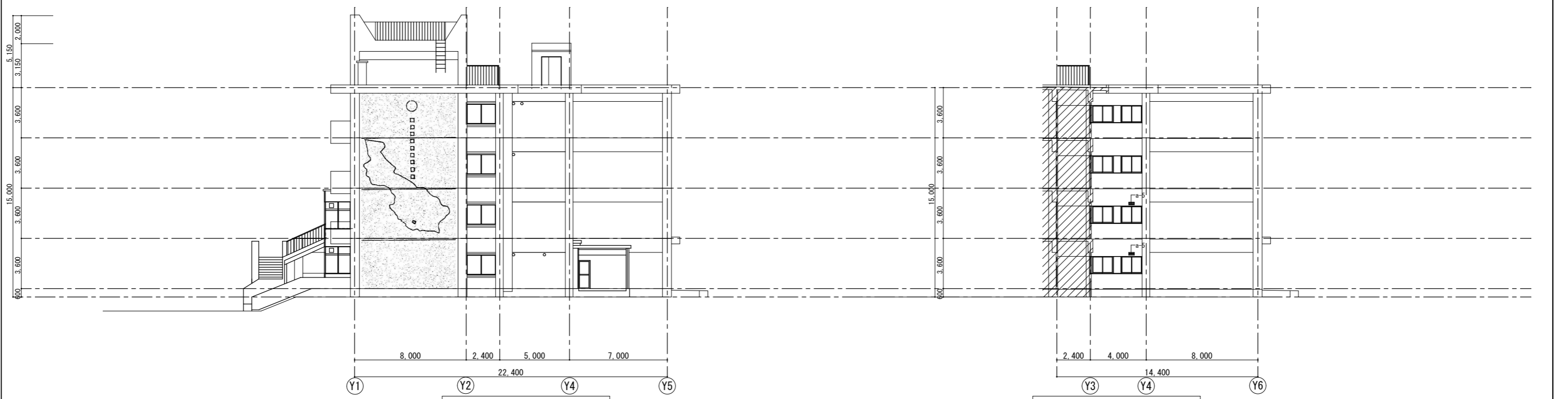
- 改修共通凡例
- 外壁改修1・外壁面一般仕様
下地処理) 劣化部補修の上、下地調整材塗り C-2
仕上) 防水形複層塗材 E
 - 外壁改修2・見上面一般仕様
下地処理) 劣化部補修の上、下地調整材塗り C-1
仕上) 外装薄塗材 E
 - 外壁改修3・巾木面仕様
下地処理) 劣化部補修
仕上) 樹脂モルタル薄塗り



前原中学校外壁改修工事			[前原中学校] R階・PH階 天井伏図		
SCALE	1/200	設計	製図	宮代町教育推進課	MA-18



南立面図 S=1:200



東立面図(1) S=1:200

東立面図(2) S=1:200

注記) 特記無き一般外壁、柱型、梁型面は (A) [外壁改修1] とする

■ 既存外部仕上表

記号	仕上	石綿含有の有無
(A)	コンクリート打放し、アクリルリシン吹付	(無し)
(B)	コンクリート打放し、吹付タイル	(無し)
(C)	防水モルタル金銀仕上げ	(無し)
(D)	モルタル金銀仕上げ	(無し)

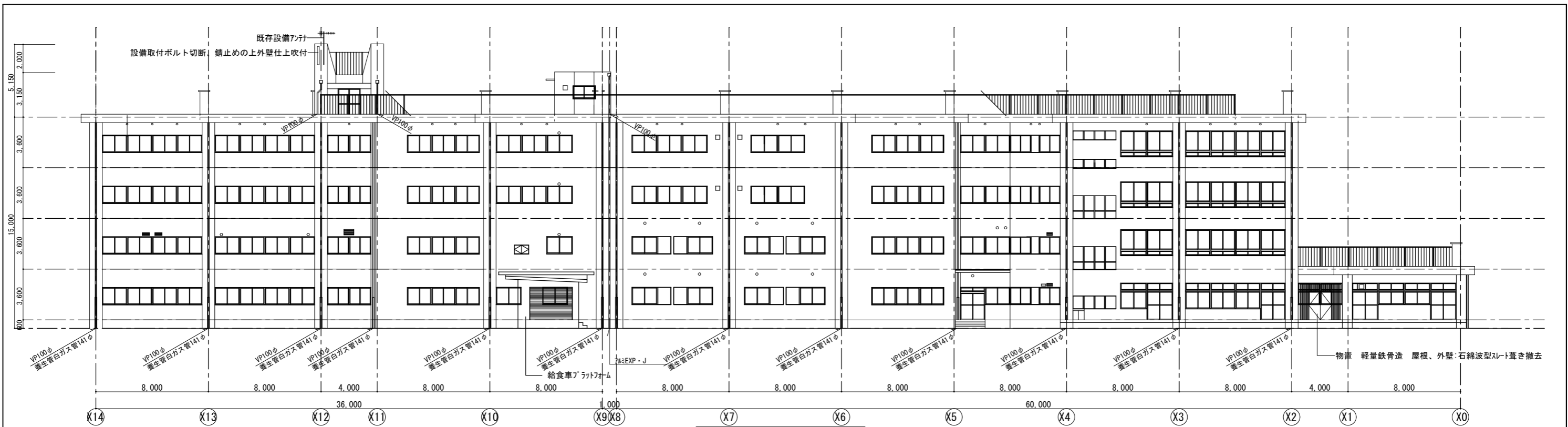
共通 打継、化粧目地: シーリング W=20 改修内容) 既存撤去、充填打替え

番号	部位	既存仕上	改修内容
a-1	屋上笠木	アルミ製 W=250	既存のまま
a-2	手摺	ステンレス製	既存のまま
a-3	屋根	カラー鋼板瓦葺き	[塗装改修]
a-4	破風・幕板	モルタル金銀、アクリルリシン吹付	[外壁改修2]
a-5	換気ガラー	スチール 300x250	[塗装改修] / 周囲シーリング打替え
a-6	配膳室屋根	3ヶ折版	(既存のまま)
a-7	外部流し	人研ぎ石仕上げ	(既存のまま)

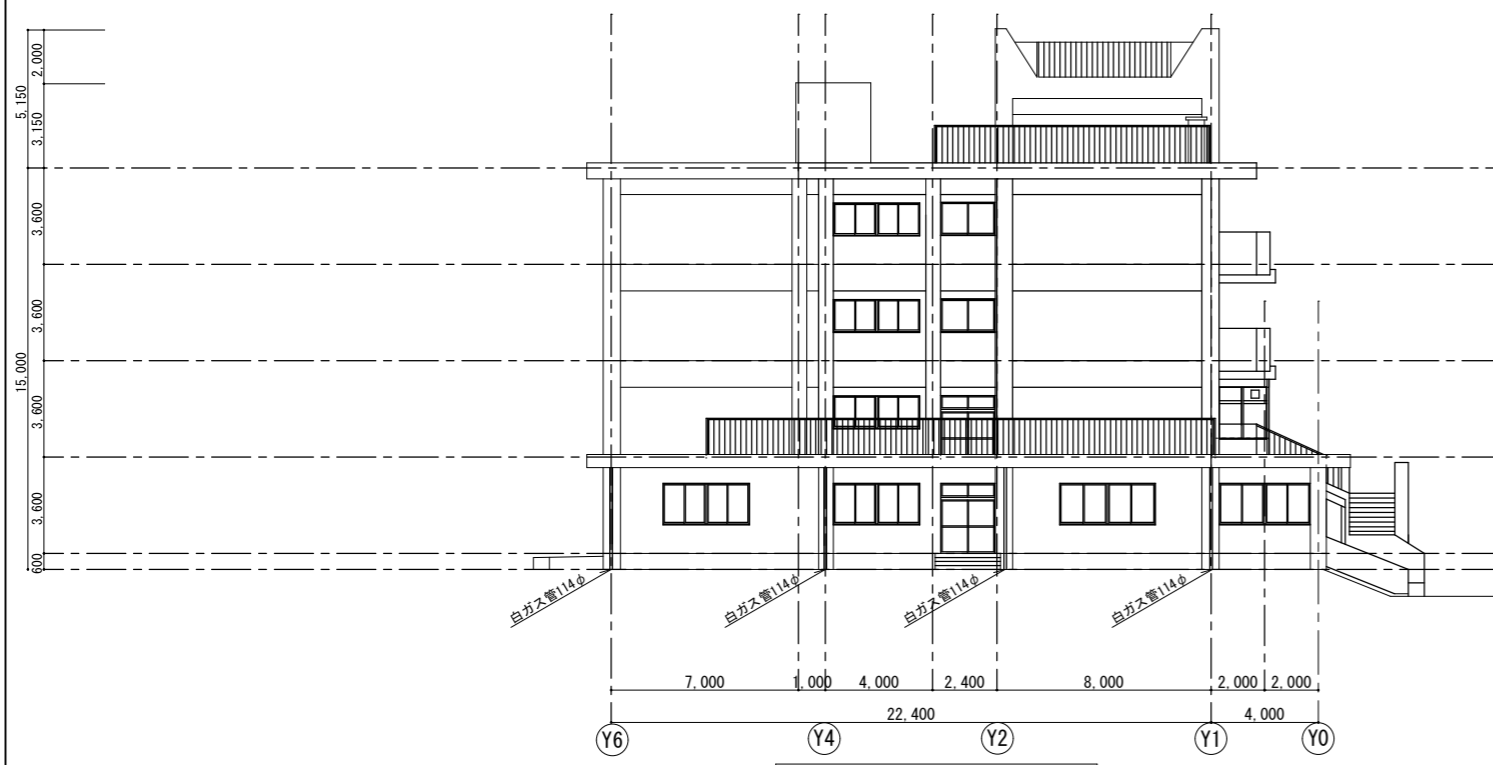
番号	部位	既存仕上	改修内容
a-8	換気フード	スチール製ウェザーカバー 300x300	[塗装改修] / 周囲シーリング打替え
a-9	消火器BOX	露出型 壁掛け式	既存一時撤去の上、再取付 (既存品再使用する)
a-10	スロープ手摺	SUS製 支柱式	(既存のまま)
a-11	7&EXP・J	アルミ製 W=250	既存一時撤去の上、再取付 (既存品再使用する) 3階ベランダ上真1力所新設 屋上部分 (既存のまま)
a-12	昇降口	磁器質90x150角張り	撤去後3ヶ折版金ゴチ目地切仕上げ

■ 改修共通凡例

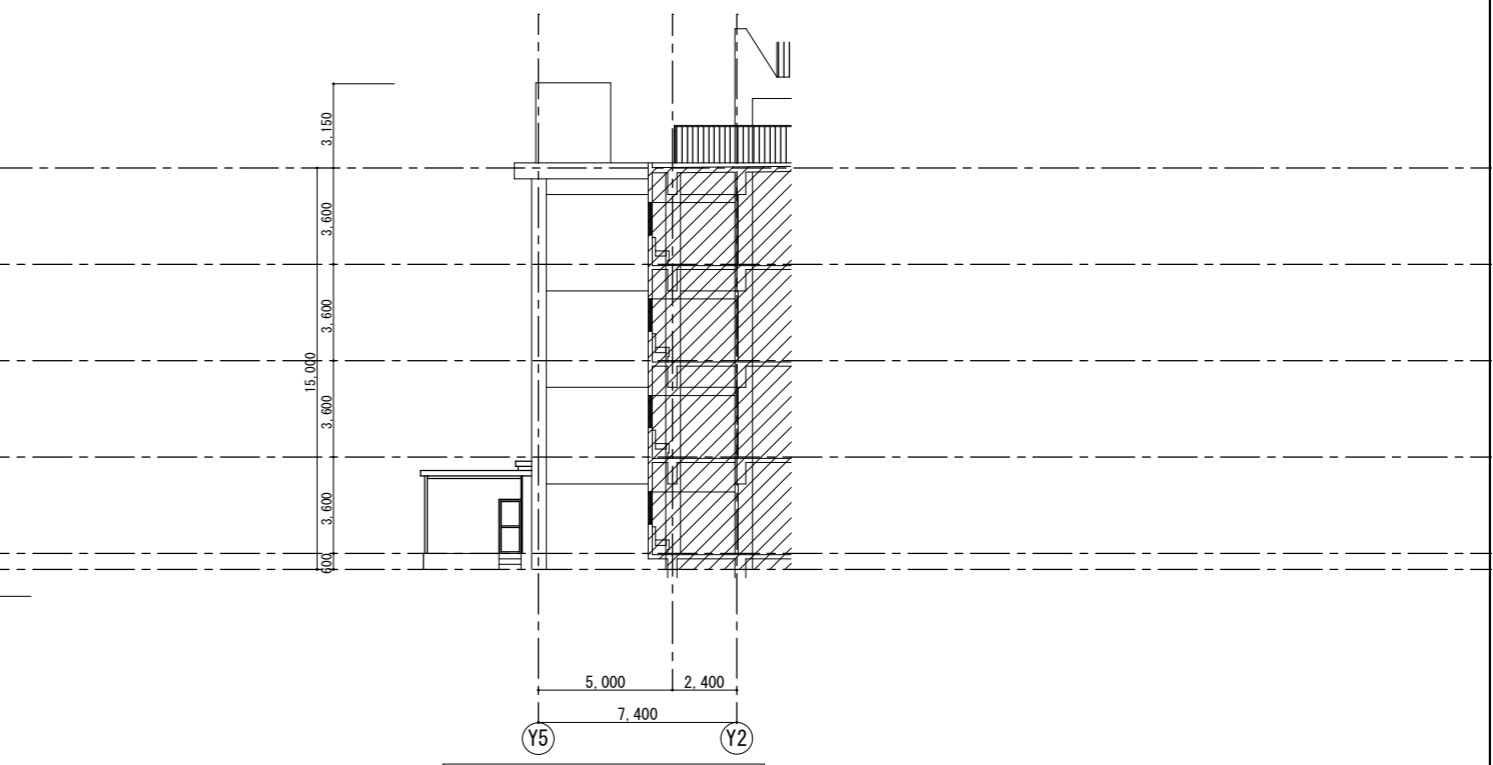
[外壁改修1]・外壁面一般仕様 下地処理) 劣化部補修の上、下地調整材塗り C-2 仕上) 防水形複層塗材 E	[防水改修]・天端面仕様 下地処理) 劣化部補修の上、不陸調整用ポリマーセメントモルタル塗布 仕上) ウレタン塗膜防水 X-2
[外壁改修2]・見上面一般仕様 下地処理) 劣化部補修の上、下地調整材塗り C-1 仕上) 外装薄塗材 E	[塗装改修]・鉄部仕様 下地調整) 鉄部RB種 塗装) 錆止め + DP (1級) 塗装
[外壁改修3]・巾木面仕様 下地処理) 劣化部補修 仕上) 樹脂モルタル薄塗り	



北立面図 S=1:200



西立面図(1) S=1:200



西立面図(2) S=1:200

注記) 特記無き一般外壁、柱型、梁型面は (A) [外壁改修1] とする

■ 既存外部仕上表

記号	仕上	石綿含有の有無
(A)	コンクリート打放し、アクリルリシン吹付	(無し)
(B)	コンクリート打放し、吹付タイル	(無し)
(C)	防水モルタル金網仕上げ	(無し)
(D)	モルタル金網仕上げ	(無し)

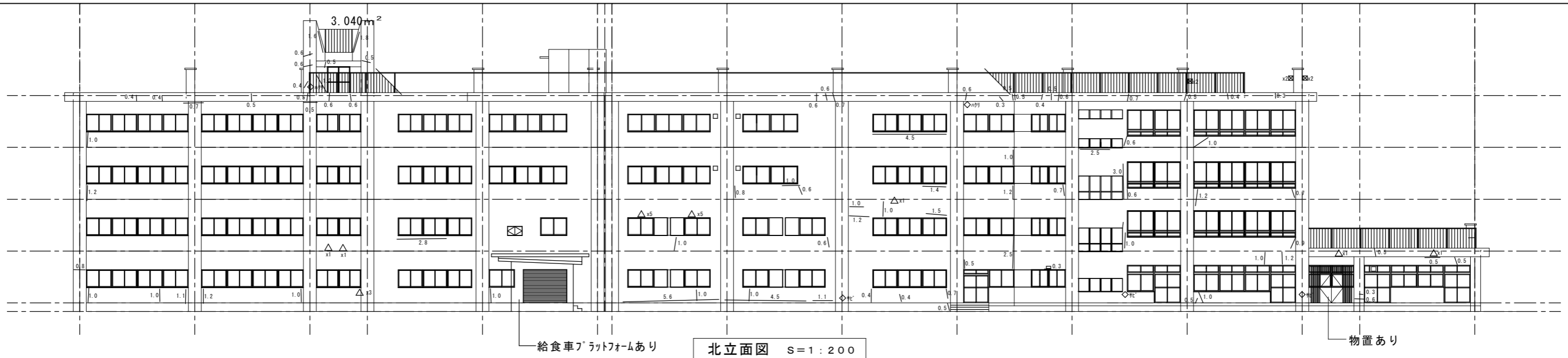
共通 打継、化粧目地：シーリング N=20 改修内容) 既存撤去、充填打替え

番号	部位	既存仕上	改修内容
a-1	屋上笠木	アルミ製 N=250	既存のまま
a-2	手摺	スチール製 SOP塗装	[塗装改修]
a-3	屋根	カラー鉄板瓦葺き	[塗装改修]
a-4	破風・幕板	モルタル金網、アクリルリシン吹付	[外壁改修2]
a-5	換気ガラー	スチール製 300x250	[塗装改修] / 周囲シーリング打替え
a-6	配膳室屋根	杉折板	(既存のまま)
a-7	外部流し	人研ぎ石仕上げ	(既存のまま)

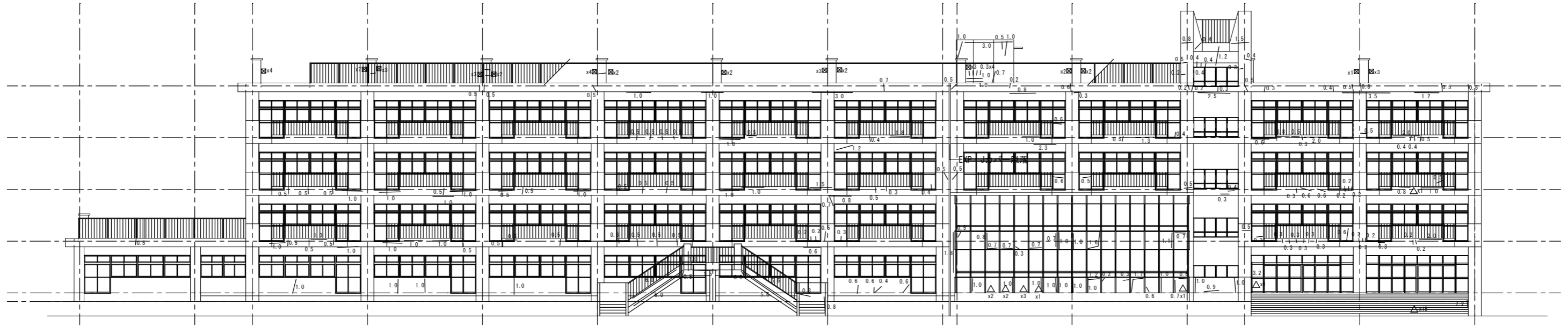
番号	部位	既存仕上	改修内容
a-8	換気フード	スチール製ウェザーカバー 300x300	[塗装改修] / 周囲シーリング打替え
a-9	消火器BOX	露出型 壁掛け式	既存一時撤去の上、再取付 (既存品再使用する)
a-10	スロープ手摺	SUS製 支柱式	(既存のまま)
a-11	7&EXP・J	アルミ製 N=250	既存一時撤去の上、再取付 (既存品再使用する) 3階ベランダ上裏1カ所新設 屋上部分(既存のまま)

■ 改修共通凡例

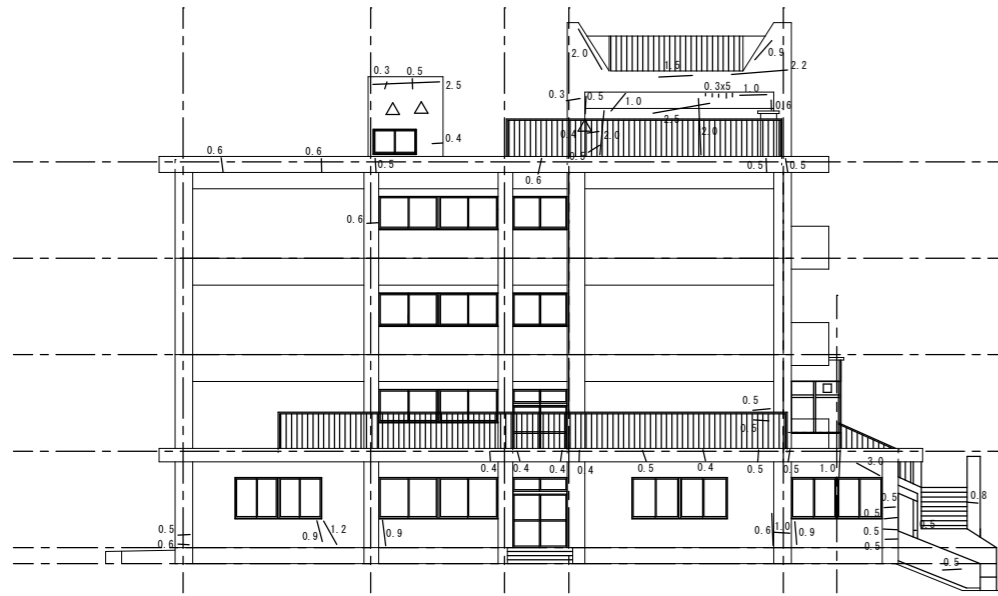
[外壁改修1]・外壁面一般仕様 下地処理) 劣化部補修の上、下地調整材塗り C-2 (仕上) 防水形複層塗材 E	[防水改修]・天端面仕様 下地処理) 劣化部補修の上、不陸調整用ポリマーセメントモルタル塗布 (仕上) ウレタン塗膜防水 X-2
[外壁改修2]・見上面一般仕様 下地処理) 劣化部補修の上、下地調整材塗り C-1 (仕上) 外装薄塗材 E	[塗装改修]・鉄部面仕様 下地調整) 鉄部RB種 (塗装) 錆止め + DP (1級) 塗装
[外壁改修3]・市木面仕様 下地処理) 劣化部補修 (仕上) 樹脂モルタル薄塗り	



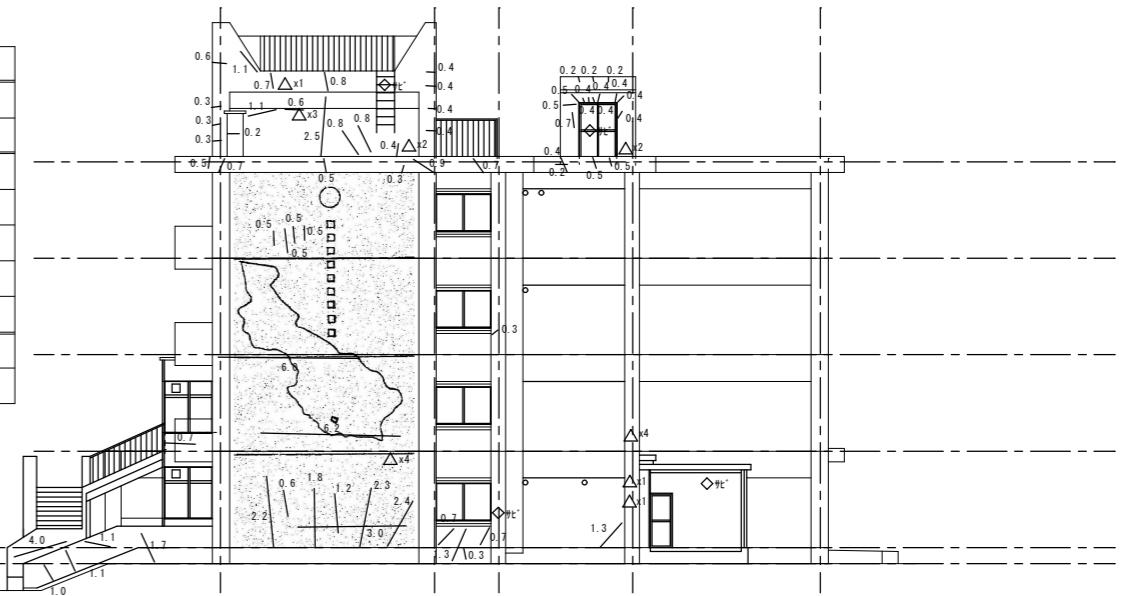
北立面図 S=1:200



南立面図 S=1:200



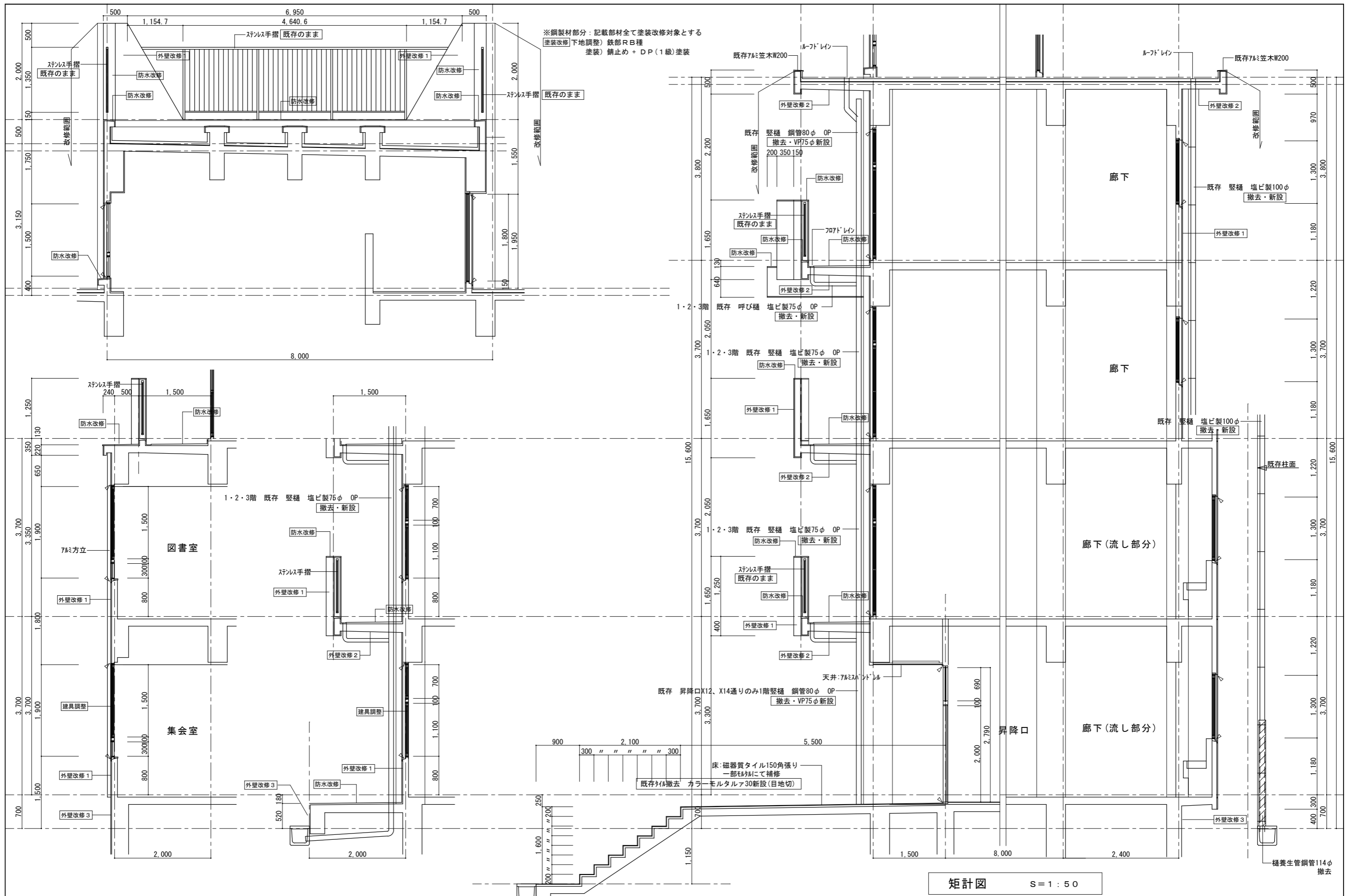
西立面図 S=1:200



東立面図 S=1:200

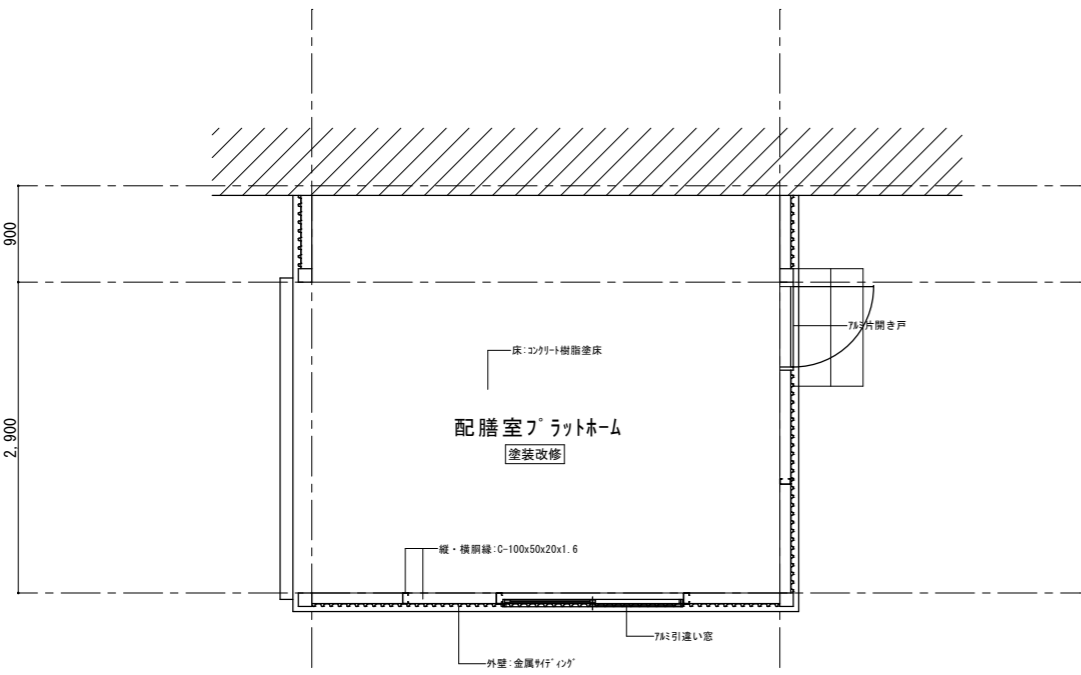
	劣化数量表					
	浮き 個数	面積 (m²)	長さ (m)	クラック 本数	欠損 小計 (m)	爆裂 個数
東面	0	0	74	72.4	2	17
西面	0	0	56	46.1	0	3
南面	0	0	202	170.8	23	6
北面	0	0	84	83.8	0	17
屋上 (PH以外)	0	0	8	2.2	49	0
合計	0	0	424	375.3	74	43
みなし合計 (2.0倍)	0	0	-	750.6	148	86

※外壁はコンクリート打放しの為浮きは無し。 □ △

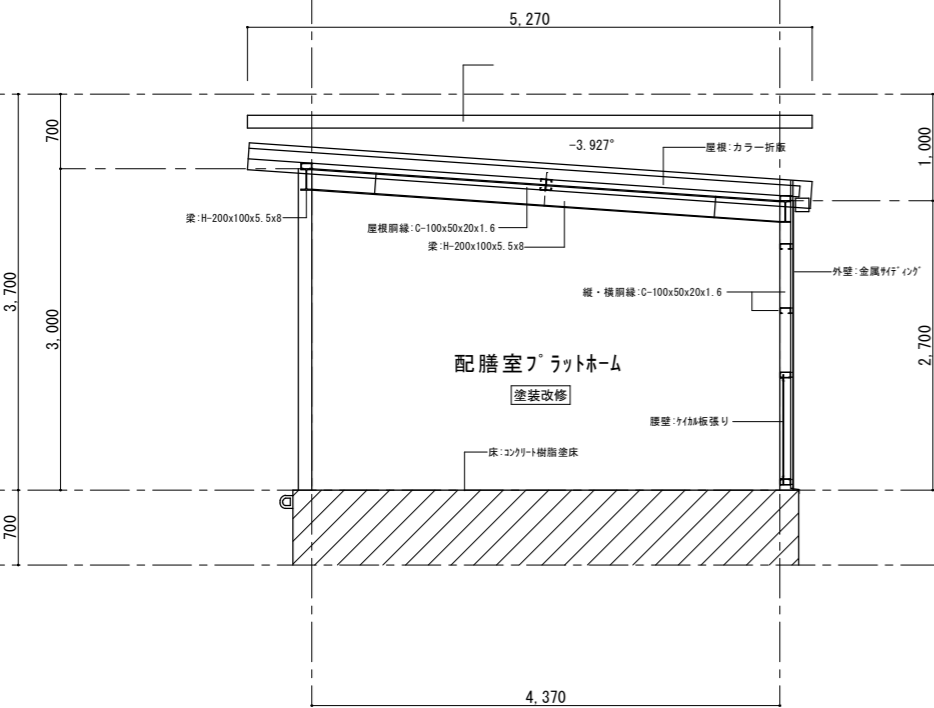


矩計図 S = 1 : 50

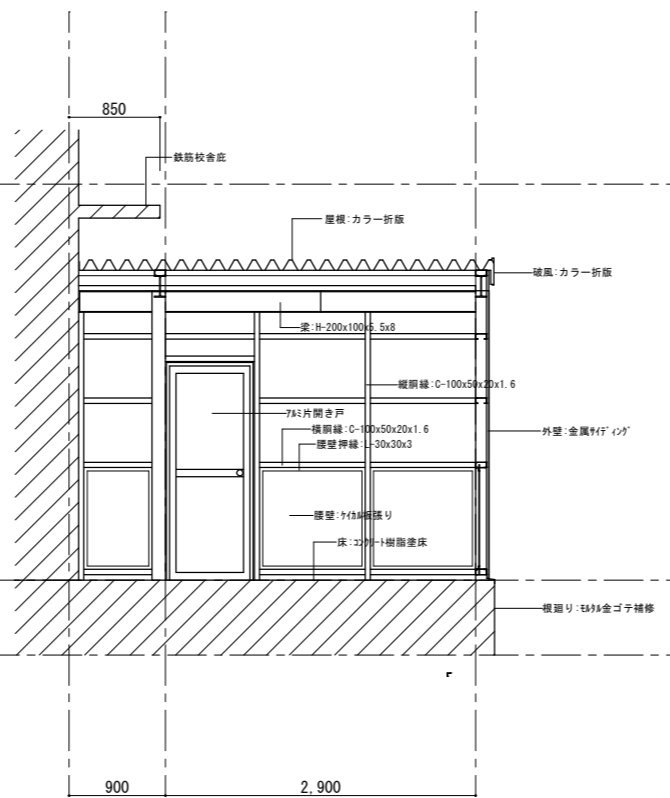
前原中学校外壁改修工事		[前原中学校] 外壁改修詳細図 1	
SCALE 1/50	設計	製図	宮代町教育推進課
			MA-22



配膳室ﾌﾟﾗｯﾄホーム平面図 S=1:50



配膳室ﾌﾟﾗｯﾄホーム断面図1 S=1:50



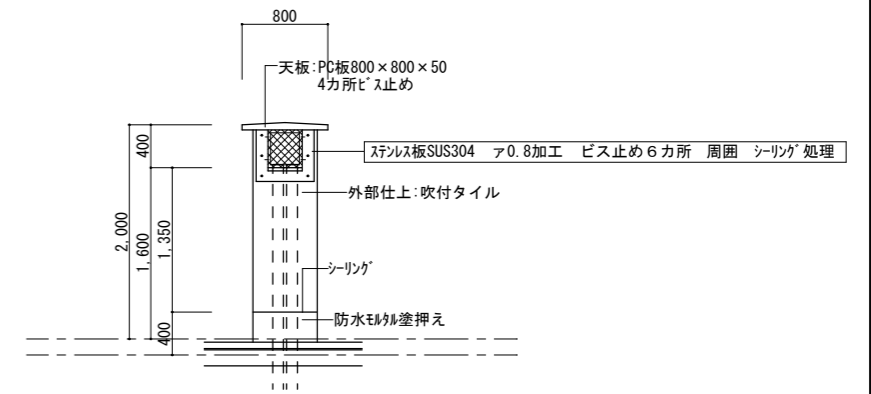
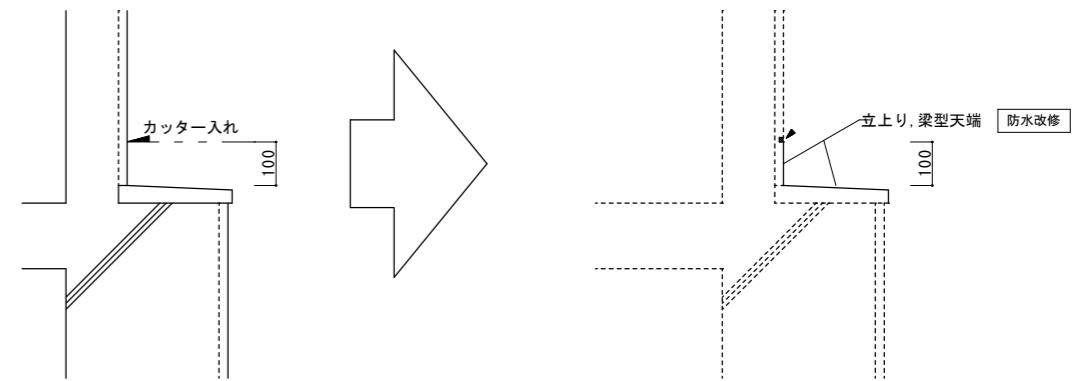
配膳室ﾌﾟﾗｯﾄホーム断面図2 S=1:50

※配膳室ﾌﾟﾗｯﾄホーム内(鋼製材部分):鋼材部全て塗装改修対象とする
 塗装改修)下地調整)鉄部RB種
 塗装)錆止め+DP(1級)塗装

イ 部分詳細図

共通事項)

- 以降各種共通として、梁型、庇類が取合う壁取合い箇所は下図を適用とする。
- ※既に防水立上りの施工が有る場合については、立上り面までを既存形状のままウレタン塗膜防水仕上げとする

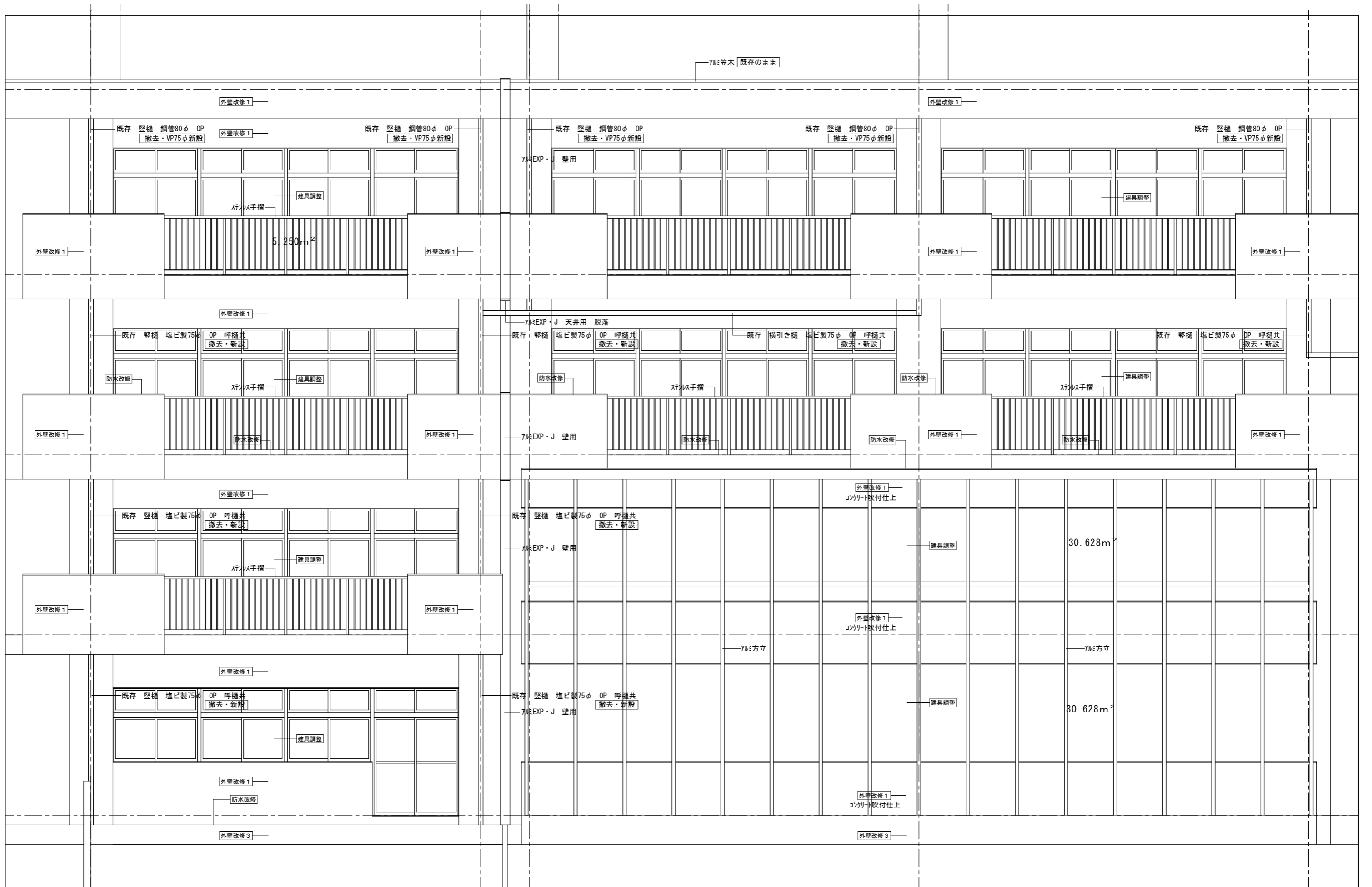


煙突詳細 S=1:50

- 改修共通凡例
- 外壁改修1) 外壁面一般仕様
下地処理)劣化部補修の上、下地調整材塗り C-2
仕上)防水形複層塗材E
 - 外壁改修2) 見上面一般仕様
下地処理)劣化部補修の上、下地調整材塗り C-1
仕上)外装薄塗材E
 - 外壁改修3) 巾木面仕様
下地処理)劣化部補修
仕上)樹脂モルタル薄塗り
 - 防水改修) 天端面仕様
下地処理)劣化部補修の上、不陸調整用ポリマーセメントモルタル塗布
仕上)ウレタン塗膜防水 X-2

- シーリング新設
- シーリング打替え
特記事項)
・図中凡例表記の記載無き箇所についても外壁改修対象面に既存シーリング処理がある場合については、本工事対象とし、シーリングの打替えを行う事

※鋼製材部分:記載部材全て塗装改修対象とする
 塗装改修)下地調整)鉄部RB種
 塗装)錆止め+DP(1級)塗装



EXP・J部分姿図

■ 改修共通凡例

外壁改修1・外壁面一般仕様
下地処理)劣化部補修の上、下地調整材塗り C-2
仕上)防水形復層塗材 E

外壁改修2・見上面一般仕様
下地処理)劣化部補修の上、下地調整材塗り C-1
仕上)外装薄塗材 E

外壁改修3・巾木面仕様
下地処理)劣化部補修
仕上)樹脂モルタル薄塗り

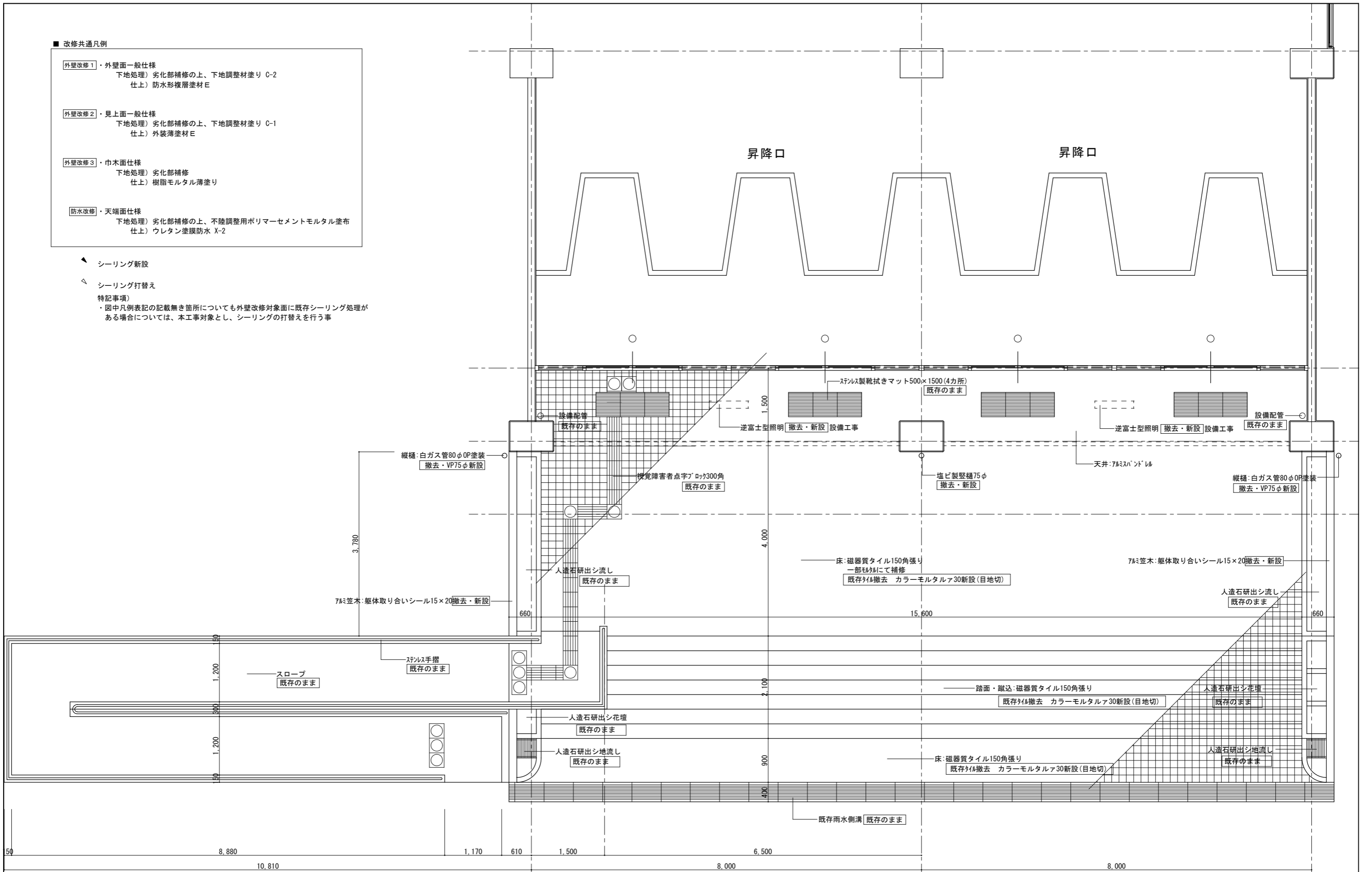
防水改修・天端面仕様
下地処理)劣化部補修の上、不陸調整用ポリマーセメントモルタル塗布
仕上)ウレタン塗膜防水 X-2

▲ シーリング新設

△ シーリング打替え

特記事項)

・図中凡例表記の記載無き箇所についても外壁改修対象面に既存シーリング処理がある場合については、本工程対象とし、シーリングの打替えを行う事



前原中学校外壁改修工事

[前原中学校] 外壁改修詳細図 4

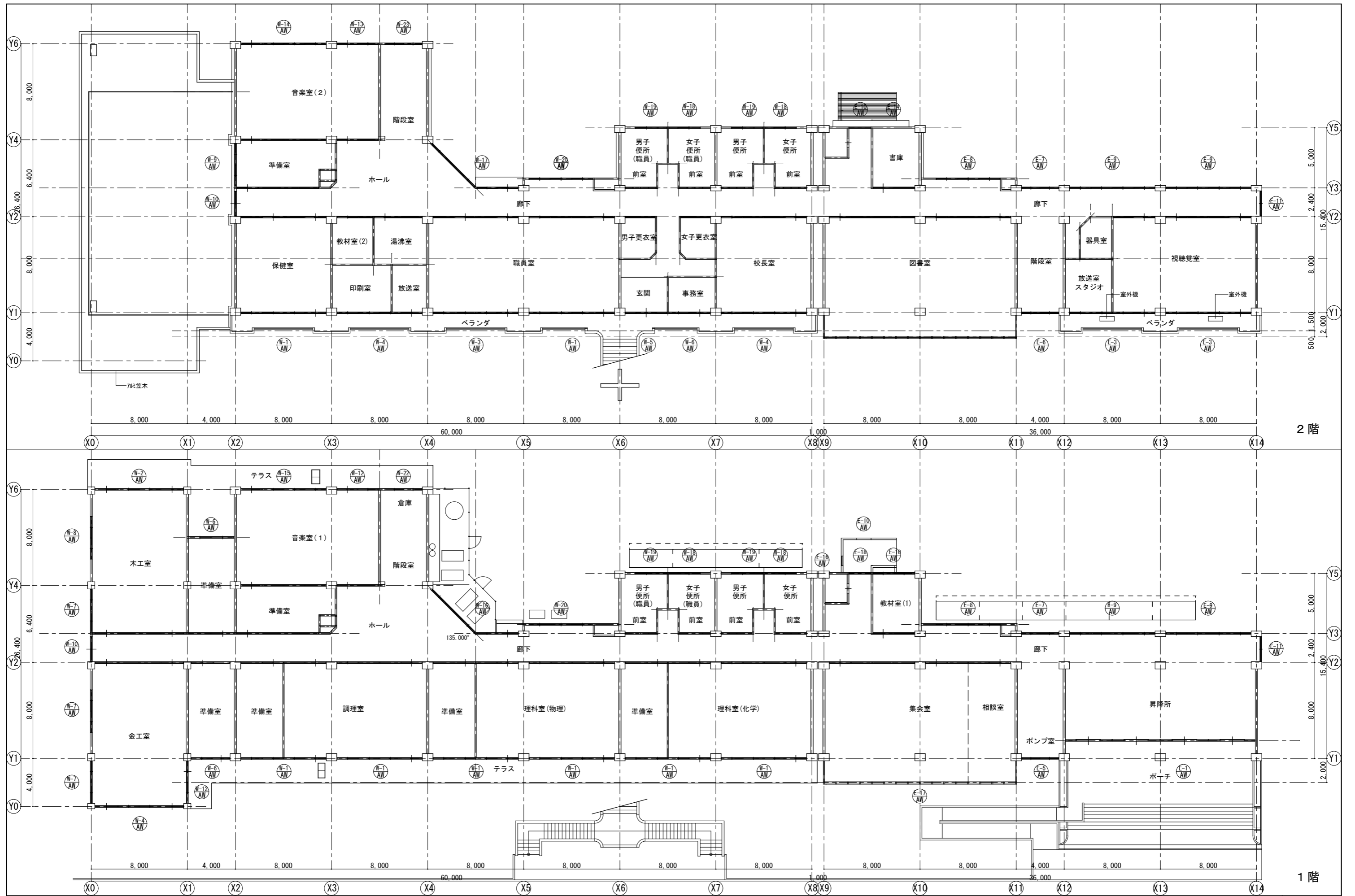
SCALE 1/50

設計

製図

宮代町教育推進課

MA-25



前原中学校外壁改修工事

[前原中学校] 1階・2階 キープラン

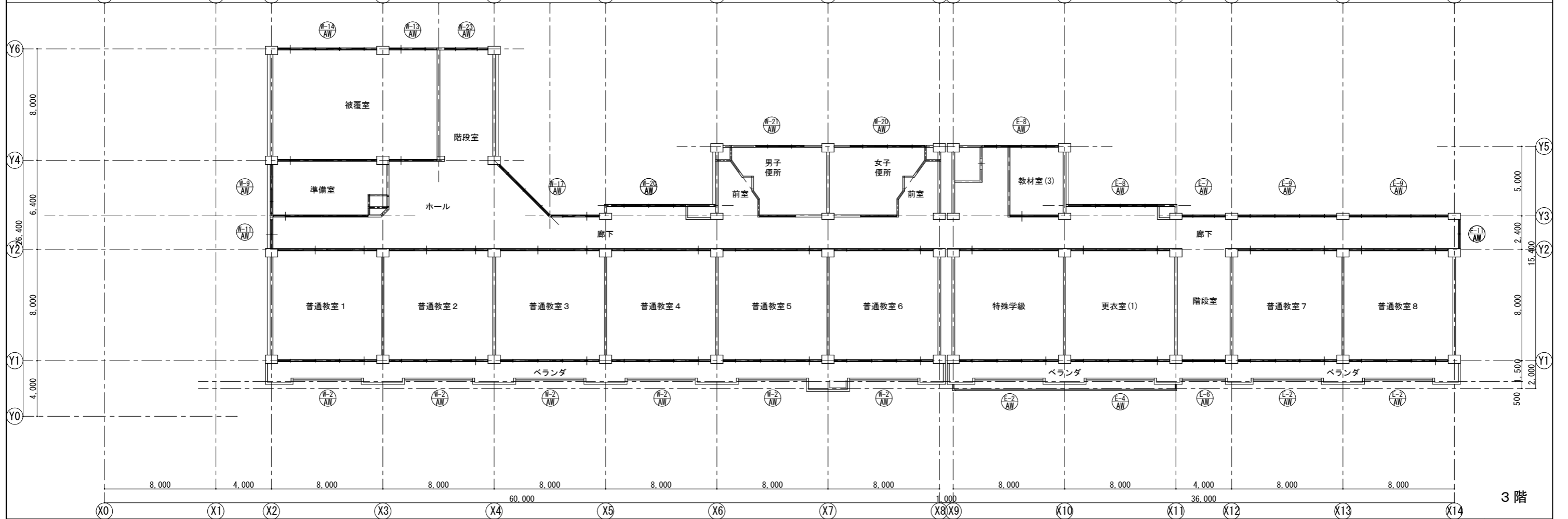
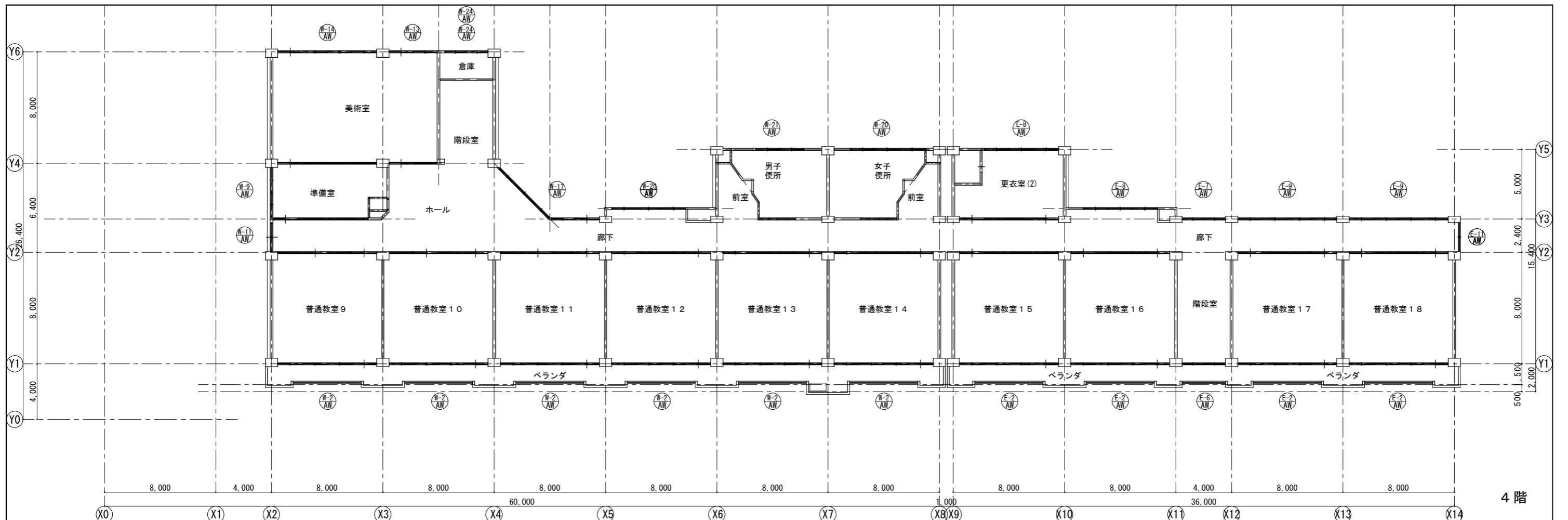
SCALE 1/200

設計

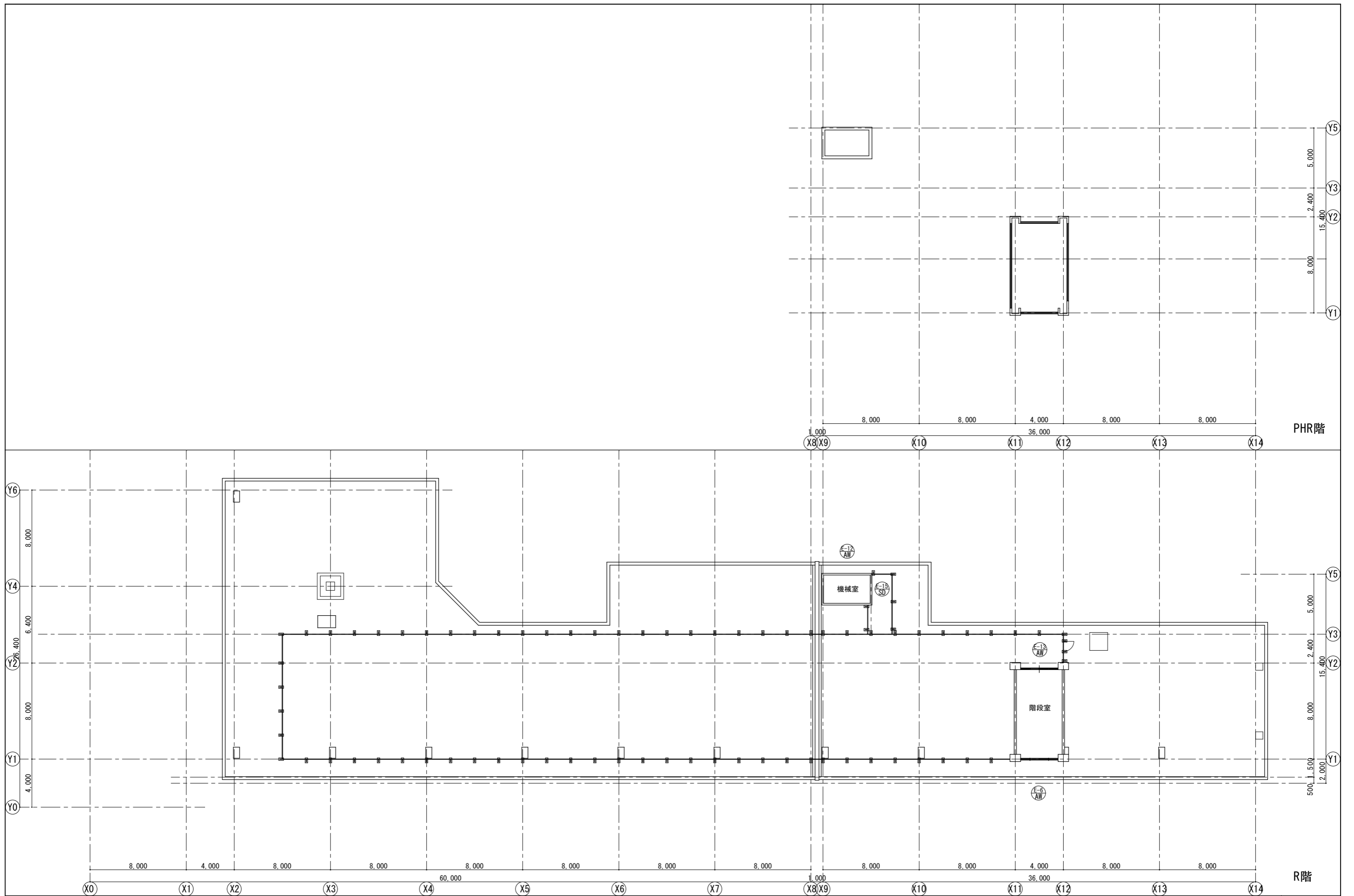
製図

宮代町教育推進課

MA-26



前原中学校外壁改修工事			[前原中学校] 3階・4階 キープラン	
SCALE	1/200	設計	製図	宮代町教育推進課
				MA-27



前原中学校外壁改修工事				[前原中学校] R階・PH階 キープラン	
SCALE	1/200	設計	製図	宮代町教育推進課	
					MA-28

記号/室名/数量	E-1 SSD	昇降口	数量【1階】1	E-2 AW	普通教室等	数量【3,4階】7
形状						
形式	引分け戸+袖詰め殺し窓 + 欄間詰め殺し窓			引違い掃出窓引違い2連窓 + 欄間引違い4連窓		
材質	ステンレス製			アルミ製		
見込	70			70		
ガラス	記載略			記載略		
改修内容	1. 建具調整・点検調整、及び清掃 2. 防水改修・建具周囲、シーリング打替え 44.222m ²			1. 建具調整・点検調整、及び清掃 2. 防水改修・建具周囲、シーリング打替え 14.477m ²		
記号/室名/数量	E-3 AW	普通教室等	数量【2階】2	E-4 AW	普通教室等	数量【3階】1
形状						
形式	引違い掃出し窓引違い3連窓 + 欄間引違い4連窓		引違い4連窓 + 欄間引違い4連窓		4連F1X窓	
材質	アルミ製		アルミ製		アルミ製	
見込	70		70		70	
ガラス	記載略		記載略		記載略	
改修内容	1. 建具調整・点検調整、及び清掃 2. 防水改修・建具周囲、シーリング打替え 12.541m ²		1. 建具調整・点検調整、及び清掃 2. 防水改修・建具周囲、シーリング打替え 10.605m ²		1. 建具調整・点検調整、及び清掃 2. 防水改修・建具周囲、シーリング打替え 2.410m ²	
記号/室名/数量	E-6 AW	階段室	数量【2,3,4階】4	E-7 AW	廊下	数量【※階】4
形状						
形式	2段4連F1X窓		引違い2連窓		引違い3連窓	
材質	アルミ製		アルミ製		アルミ製	
見込	70		70		70	
ガラス	記載略		記載略		記載略	
改修内容	1. 建具調整・点検調整、及び清掃 2. 防水改修・建具周囲、シーリング打替え 3.991m ²		1. 建具調整・点検調整、及び清掃 2. 防水改修・建具周囲、シーリング打替え 3.684m ²		1. 建具調整・点検調整、及び清掃 2. 防水改修・建具周囲、シーリング打替え 6.120m ²	
記号/室名/数量	E-8 AW	廊下	数量【※階】6	E-9 AW	廊下	数量【※階】8
形状						
形式	引違い4連窓		引違い4連窓		引違い4連窓	
材質	アルミ製		アルミ製		アルミ製	
見込	70		70		70	
ガラス	記載略		記載略		記載略	
改修内容	1. 建具調整・点検調整、及び清掃 2. 防水改修・建具周囲、シーリング打替え 8.484m ²		1. 建具調整・点検調整、及び清掃 2. 防水改修・建具周囲、シーリング打替え 8.484m ²		1. 建具調整・点検調整、及び清掃 2. 防水改修・建具周囲、シーリング打替え 8.484m ²	

前原中学校外壁改修工事

[前原中学校] 東棟 建具表 1

SCALE 1/200

設計

製図

宮代町教育推進課

MA-29

記号/室名/数量	E-10 AW 教室・配膳室 数量【1階】2 【2階】1	E-11 AW 廊下 数量【※階】4	E-12 AW 屋上機械室 数量【R階】1	E-13 AW 屋上塔屋 数量【R階】1	E-14 SD 廊下 数量【2階】1	E-15 SD 屋上機械室 数量【R階】1
形状						
形式	引違い窓	2連F1X窓	引違い窓	引違い掃出窓	両開きスチール戸	両開きスチール戸
材質	アルミ製	アルミ製	アルミ製	アルミ製	鋼製	鋼製
見込	70	70	70	70	80	80
ガラス	記載略	記載略	記載略	記載略	記載略	記載略
改修内容	1. 建具調整・点検調整、及び清掃 2. 防水改修・建具周囲、シーリング打替え 2.160m ²	1. 建具調整・点検調整、及び清掃 2. 防水改修・建具周囲、シーリング打替え 2.724m ²	1. 建具調整・点検調整、及び清掃 2. 防水改修・建具周囲、シーリング打替え 1.413m ²	1. 建具調整・点検調整、及び清掃 2. 防水改修・建具周囲、シーリング打替え 3.100m ²	1. 建具調整・点検調整、及び清掃 2. 防水改修・建具周囲、シーリング打替え 0.600m ²	1. 建具調整・点検調整、及び清掃 2. 防水改修・建具周囲、シーリング打替え 2.800m ²
記号/室名/数量	E-16 AD ブラットホーム 数量【1階】1	E-17 AW 集会室・図書室 数量【1,2階】1				
形状						
形式	片開き框戸	片開き連窓(7mm方立)				
材質	アルミ製	アルミ製				
見込	70	70				
ガラス	記載略	記載略				
改修内容	1. 建具調整・点検調整、及び清掃 2. 防水改修・建具周囲、シーリング打替え 1.600m ²	1. 建具調整・点検調整、及び清掃 2. 防水改修・建具周囲、シーリング打替え 腰壁含む12.172m ² 腰壁含む110.092m ² 腰壁含む12.172m ²				
記号/室名/数量	E-18 SS ブラットホーム 数量【1階】1					
形状						
形式	スチールシャッター					
材質	アルミ製					
見込	70					
ガラス	記載略					
改修内容	1. 建具調整・点検調整、及び清掃 2. 防水改修・建具周囲、シーリング打替え 6.900m ²					
			前原中学校外壁改修工事		[前原中学校] 東棟 建具表2	
			SCALE 1/200	設計	製図	
			宮代町教育推進課		MA-30	

記号/室名/数量	W-1 AW 職員室・特別教室 数量【1階】8	W-2 AW 普通教室等 数量【※階】13		
形状				
形式	引違い掃出窓 + 引違い3連窓 + 欄間引違い4連窓	引違い掃出窓 + 引違い2連窓 + 欄間引違い4連窓		
材質	アルミ製	アルミ製		
見込	70	70		
ガラス	記載略	記載略		
改修内容	1. 建具調整・点検調整、及び清掃 2. 防水改修・建具周囲、シーリング打替え 12.541m ²	1. 建具調整・点検調整、及び清掃 2. 防水改修・建具周囲、シーリング打替え 14.477m ²		
記号/室名/数量	W-3 AW 職員室 数量【2階】1	W-4 AW 校長室・放送室等 数量【2階】3		
形状				
形式	引違い掃出窓 + 引違い3連窓 + 欄間引違い4連窓	引違い4連窓 + 欄間引違い4連窓		
材質	アルミ製	アルミ製		
見込	70	70		
ガラス	記載略	記載略		
改修内容	1. 建具調整・点検調整、及び清掃 2. 防水改修・建具周囲、シーリング打替え 13.121m ²	1. 建具調整・点検調整、及び清掃 2. 防水改修・建具周囲、シーリング打替え 11.055m ²		
記号/室名/数量	W-5 AW 玄関 数量【2階】1	W-6 AW 事務室・準備室等 数量【2階】3	W-7 AW 金工室・木工室 数量【1階】3	W-8 AW 木工室 数量【1階】1
形状				
形式	引違い掃出し窓 + 両袖F1X窓 + 欄間引違い窓 + 欄間F1X窓	引違い2連窓+欄間引違い2連窓	引違い2連窓	引違い2連窓
材質	アルミ製	アルミ製	アルミ製	アルミ製
見込	70	70	70	70
ガラス	記載略	記載略	記載略	記載略
改修内容	1. 建具調整・点検調整、及び清掃 2. 防水改修・建具周囲、シーリング打替え 9.490m ²	1. 建具調整・点検調整、及び清掃 2. 防水改修・建具周囲、シーリング打替え 4.680m ²	1. 建具調整・点検調整、及び清掃 2. 防水改修・建具周囲、シーリング打替え 6.630m ²	1. 建具調整・点検調整、及び清掃 2. 防水改修・建具周囲、シーリング打替え 4.811m ²

前原中学校外壁改修工事

[前原中学校] 西棟 建具表3

SCALE 1/200

設計

製図

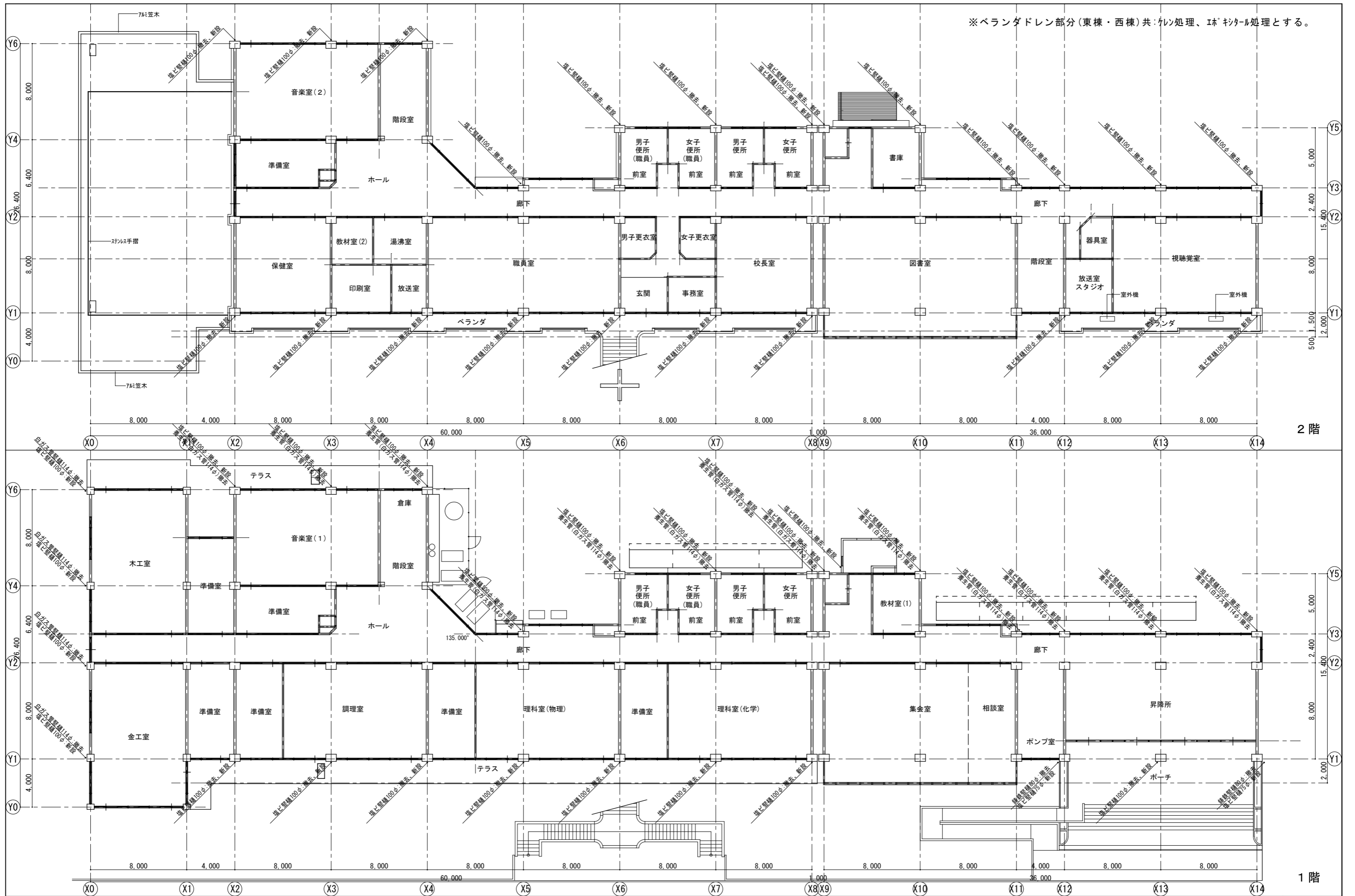
宮代町教育推進課

MA-31

記号/室名/数量	W-9 AW 準備室 数量【※階】3	W-10 AW 廊下 数量【※階】2	W-11 AW 廊下 数量【※階】2	W-12 AW 金工室・音楽室 数量【1階】2	W-13 AW 特別教室等 数量【※階】3
形状					
形式	引違い2連窓	引違い掃出窓+欄間引違い窓	引違い窓	引違い掃出窓+引違い窓 + 欄間引違い2連窓	引違い2段2連窓
材質	アルミ製	アルミ製	アルミ製	アルミ製	アルミ製
見込	70	70	70	70	70
ガラス	記載略	記載略	記載略	記載略	記載略
改修内容	1. 建具調整・点検調整、及び清掃 2. 防水改修・建具周囲、シーリング打替え 3. 840m ²	1. 建具調整・点検調整、及び清掃 2. 防水改修・建具周囲、シーリング打替え 5. 226m ²	1. 建具調整・点検調整、及び清掃 2. 防水改修・建具周囲、シーリング打替え 2. 412m ²	1. 建具調整・点検調整、及び清掃 2. 防水改修・建具周囲、シーリング打替え 8. 087m ²	1. 建具調整・点検調整、及び清掃 2. 防水改修・建具周囲、シーリング打替え 6. 605m ²
記号/室名/数量	W-14 AW 特別教室等 数量【※階】3	W-15 AW 音楽室(1) 数量【1階】1			
形状					
形式	引違い2段4連窓	引違い掃出窓 + 引違い3連窓 + 欄間引違い4連窓			
材質	アルミ製	アルミ製			
見込	70	70			
ガラス	記載略	記載略			
改修内容	1. 建具調整・点検調整、及び清掃 2. 防水改修・建具周囲、シーリング打替え 12. 726m ²	1. 建具調整・点検調整、及び清掃 2. 防水改修・建具周囲、シーリング打替え 14. 887m ²			
記号/室名/数量	W-16 AW 廊下 数量【1階】1	W-17 AW 廊下 数量【2,3,4階】3			
形状					
形式	引違い掃出窓+引違い3連窓+FIX窓	引違い4連窓+FIX窓			
材質	アルミ製	アルミ製			
見込	70	70			
ガラス	記載略	記載略			
改修内容	1. 建具調整・点検調整、及び清掃 2. 防水改修・建具周囲、シーリング打替え 12. 236m ²	1. 建具調整・点検調整、及び清掃 2. 防水改修・建具周囲、シーリング打替え 10. 314m ²			

記号/室名/数量	W-18 AW 女子便所 数量【1,2階】4	W-19 AW 男子便所 数量【1,2階】4	W-20 AW 女子便所 数量【3,4階】2	W-21 AW 男子便所 数量【3,4階】2
形状				
形式	引違い窓+FIX窓	引違い窓+FIX窓	引違い3連窓	引違い2連窓
材質	アルミ製	アルミ製	アルミ製	アルミ製
見込	70	70	70	70
ガラス	記載略	記載略	記載略	記載略
改修内容	1. 建具調整・点検調整、及び清掃 2. 防水改修・建具周囲、シーリング打替え 3. 300m ²	1. 建具調整・点検調整、及び清掃 2. 防水改修・建具周囲、シーリング打替え 3. 300m ²	1. 建具調整・点検調整、及び清掃 2. 防水改修・建具周囲、シーリング打替え 6. 821m ²	1. 建具調整・点検調整、及び清掃 2. 防水改修・建具周囲、シーリング打替え 4. 546m ²
記号/室名/数量	W-22 AW 階段室 数量【1階】1	W-23 AW 階段室 数量【2,3階】4	W-24 AW 階段室 数量【4階】2	
形状				
形式	4連FIX窓	2段4連FIX窓	4連FIX窓	
材質	アルミ製	アルミ製	アルミ製	
見込	70	70	70	
ガラス	記載略	記載略	記載略	
改修内容	1. 建具調整・点検調整、及び清掃 2. 防水改修・建具周囲、シーリング打替え 2. 686m ²	1. 建具調整・点検調整、及び清掃 2. 防水改修・建具周囲、シーリング打替え 4. 856m ²	1. 建具調整・点検調整、及び清掃 2. 防水改修・建具周囲、シーリング打替え 1. 821m ²	
記号/室名/数量				
形状				
形式				
材質				
見込				
ガラス				
改修内容				

※ベランダドレン部分(東棟・西棟)共:ケリ処理、ポット処理とする。



前原中学校外壁改修工事

[前原中学校] 1階・2階 平面図(雨水排水)

SCALE 1/200

設計

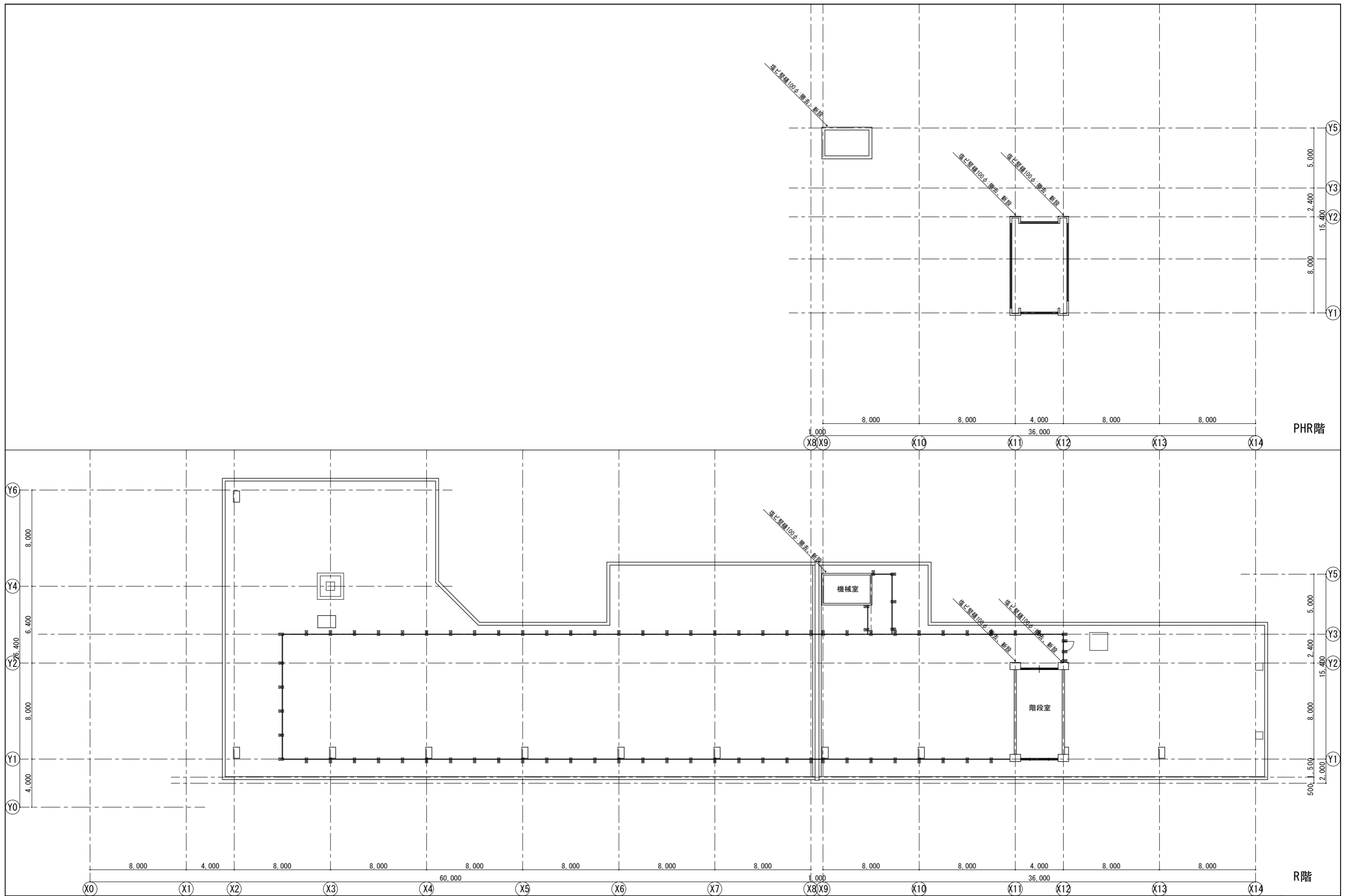
製図

宮代町教育推進課

MA-34



前原中学校外壁改修工事			[前原中学校] 3階・4階 平面図(雨水排水)	
SCALE	1/200	設計	製図	宮代町教育推進課
				MA-35



前原中学校外壁改修工事			[前原中学校] R階・PH階 平面図(雨水排水)	
SCALE	1/200	設計	製図	宮代町教育推進課
				MA-36